

継続的な改善活動のために！

2021

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 大澤 敏

令和2年の大学進学率は54.4%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。また、18歳人口激減期に突入し、本学入学者の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けるためには、社会の変化に対応しながら、イノベーションを創出できる人材の育成が不可欠です。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、Society5.0時代に必要なイノベーション力を身に付けた「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に修得し、それを基に、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日150科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者の調査・分析会社に調査結果の評価分析を依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

目次

<1>	本調査の全体像	1
<2>	目的・目標意識、満足度、1年間の振り返りに関して	9
<3>	授業、遠隔(オンライン)授業、学習支援に関して	15
<4>	学生生活に関して	21
<5>	進学、就職、卒業時の能力に関して	33
<6>	KIT-IDEALSに関して	53
<7>	卒業・修了生アンケートに関して	59
<8>	新入生アンケートに関して	65
<9>	教職員アンケートに関して	73
<10>	全体のまとめ	79
<11>	調査票見本	159

<1-1> 調査の目的と概略

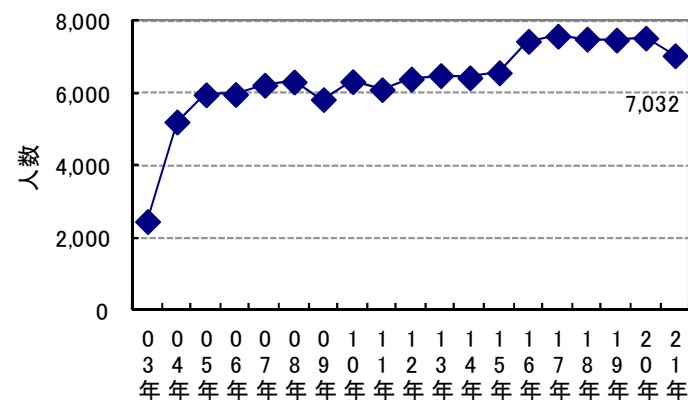
■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が19回目となる。同一内容で比較できる質問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年2月～4月に実施。 ・ 在學生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在學生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は7,032サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント

■ 回答者数推移(企業担当者をのぞく)



■ 年度別回収数

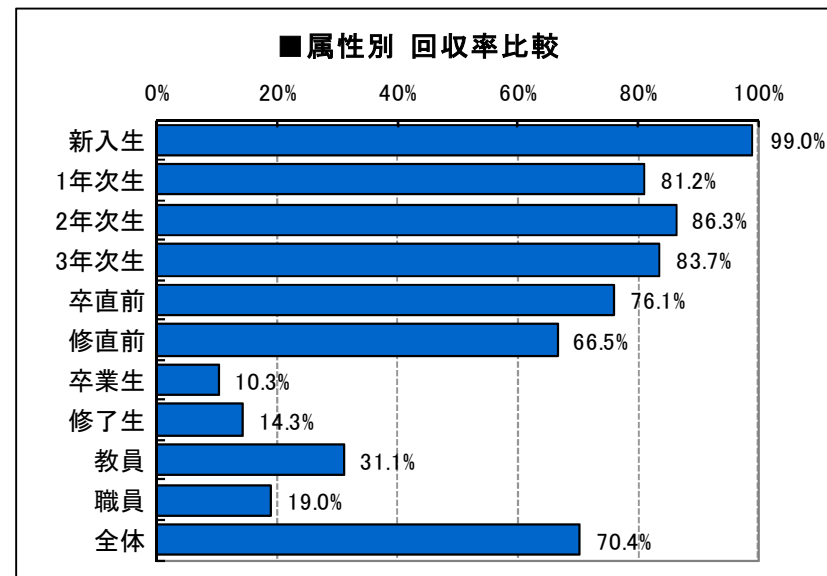
対象者	調査時点での属性	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604	1,541	1,641	1,592	1,627	1,458
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519	1,361	1,384	1,438	1,395	1,435
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439	1,497	1,422	1,321	1,389	1,318
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520	1,312	1,350	1,387	1,349	1,274
卒・修直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970	1,509	1,364	1,424	1,439	1,241
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124	121	138	124	131	153
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134	127	106	102	120	90
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122	106	86	78	71	63
企業担当者	就職企業	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—	—	846	—	—	—	—
全体(企業除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432	7,574	7,491	7,466	7,521	7,032

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1473	1,458	99.0%
1年次生	1768	1,435	81.2%
2年次生	1527	1,318	86.3%
3年次生	1522	1,274	83.7%
卒業直前	1449	1,102	76.1%
修了直前	209	139	66.5%
卒業生	1,246	128	10.3%
修了生	175	25	14.3%
教員	289	90	31.1%
職員	332	63	19.0%
全体	9,990	7,032	70.4%

※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。

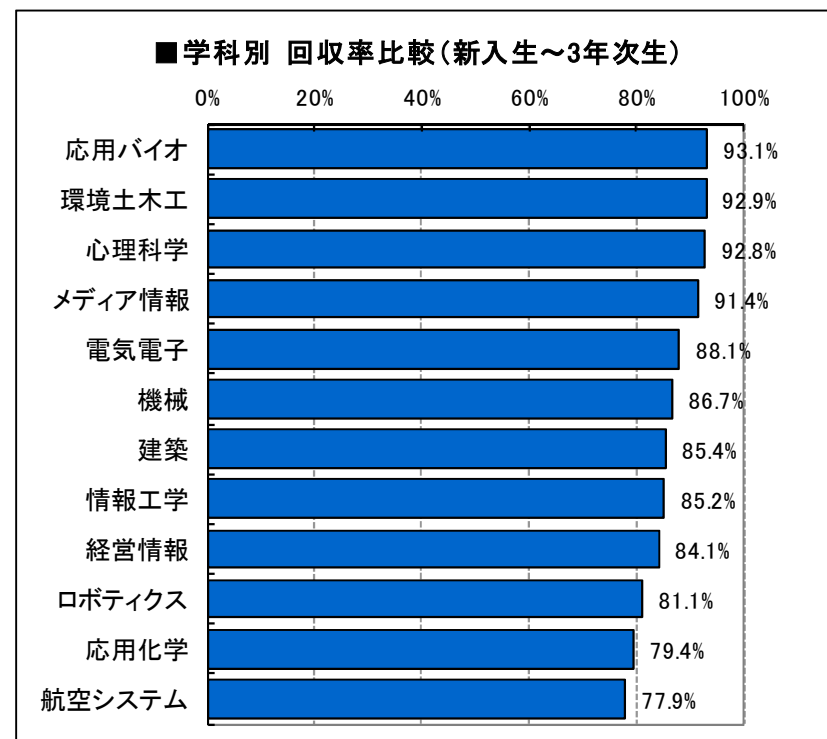


■学部別・学科別回収率(新入生、1年次生、2年次生、3年次生)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	3,709	3,193	86.1%	機械	781	677	86.7%
				航空システム	226	176	77.9%
				ロボティクス	433	351	81.1%
				電気電子	947	834	88.1%
				情報工学	955	814	85.2%
				環境土木工	367	341	92.9%
情報 フロンティア 学部	1,096	985	89.9%	メディア情報	630	576	91.4%
				経営情報	271	228	84.1%
				心理科学	195	181	92.8%
建築学部	907	775	85.4%	建築	907	775	85.4%
バイオ・化学部	578	501	86.7%	応用化学	272	216	79.4%
				応用バイオ	306	285	93.1%
全体	6,290	5,454	86.7%	全体	6,290	5,454	86.7%

※12学科体制の新入生、1年次生、2年次生、3年次生を合わせて集計している。

※回収率に関しては、学科無回答の31名は除外して集計している。

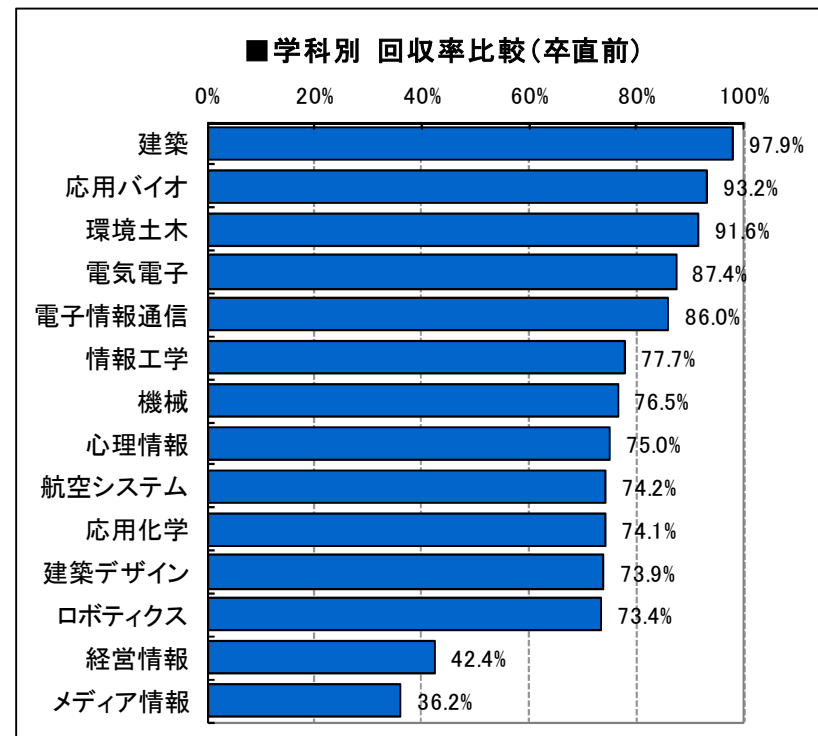


■学部別・学科別回収率(卒業直前)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	783	620	79.2%	機械	217	166	76.5%
				航空システム	62	46	74.2%
				ロボティクス	94	69	73.4%
				電気電子	174	152	87.4%
				電子情報通信	43	37	86.0%
				情報工学	193	150	77.7%
情報 フロンティア 学部	217	93	42.9%	メディア情報	152	55	36.2%
				経営情報	33	14	42.4%
				心理情報	32	24	75.0%
建築学部	318	273	85.8%	建築デザイン	138	102	73.9%
				建築	97	95	97.9%
				環境土木	83	76	91.6%
バイオ・化学部	131	111	84.7%	応用化学	58	43	74.1%
				応用バイオ	73	68	93.2%
全体	1,449	1,097	75.7%	全体	1,449	1,097	75.7%

※14学科体制の卒直前のみを集計している。

※回収率に関しては、学科無回答の5名は除外して集計している。



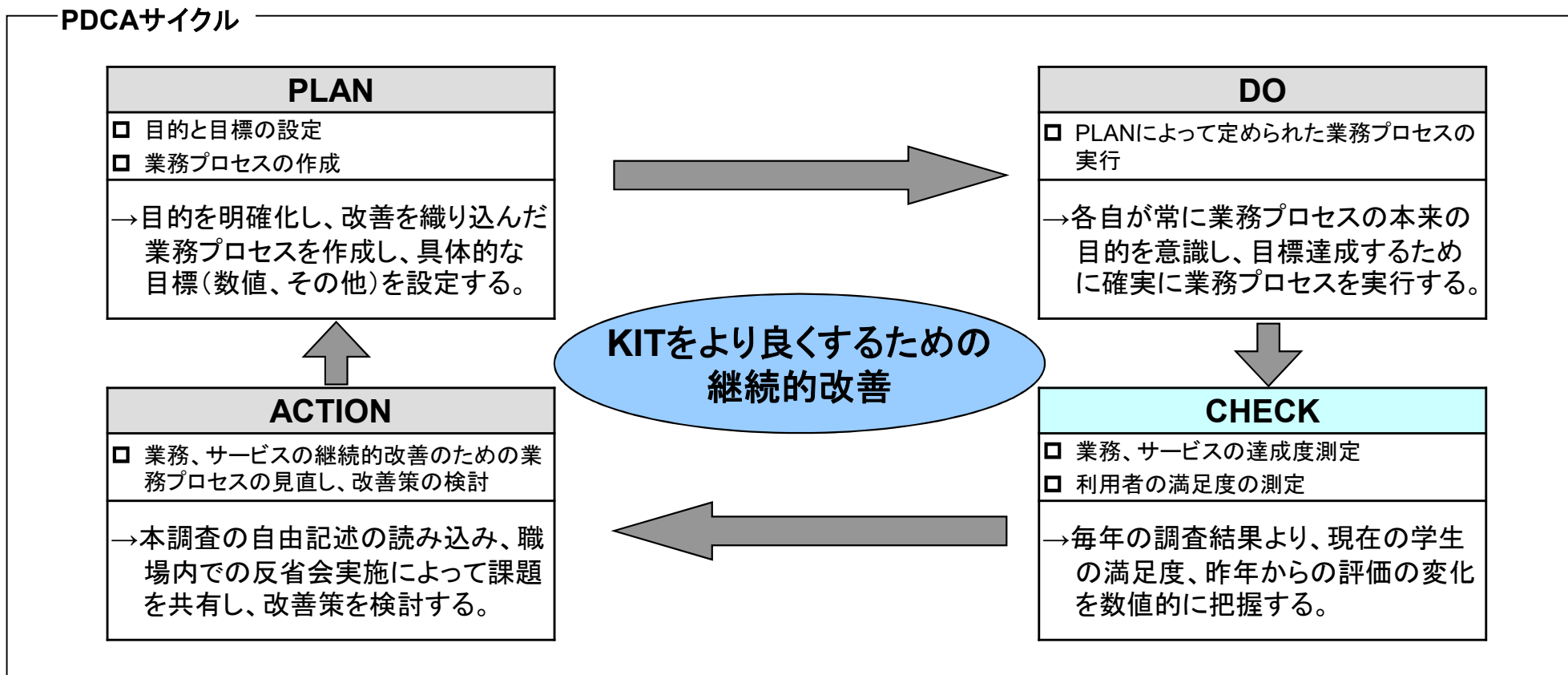
■集計に関して

分野	注意点
分析に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的・目標意識」「総合満足度」などの、重要な指標に関しては「単純集計」「年度別比較」の他に「男女別」「学年別」「学科別」などの属性別のグラフを提示し、分析を行っているが、その他の項目に関しては「単純集計」「年度別比較」のみの分析とし、属性別に関しては巻末にグラフだけを掲載している。 ・「新入生」アンケートに関しては、入試広報などに活用するために属性別の集計も分析している。また、「卒業・修了生」「教職員」についても属性別の分析を行っている。
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・特に但し書きがない場合は、無回答は集計から除外している。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
誤差に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。
属性別比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内では属性別比較を行っているが、「全体集計」と「属性別比較」の結果が異なっているケースもある。これは、「全体集計」ではすべてのデータが集計対象となるが、属性が未回答の場合は「属性別集計」では集計対象とならないためであり、これらの数値は、そのまま表示している。
学科別集計に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、「新入生」「1年次生」「2年次生」「3年次生」は12学科体制、「卒直前」は14学科体制となっているが、学科別集計に関しては下記の通りに12学科体制に調整して集計している。 ・14学科体制の「電気電子工学科」と「電子情報通信工学科」は12学科体制の「電気電子工学科」として集計し、同様に「建築デザイン学科」と「建築学科」は「建築学科」として集計している。

<1-2> 調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

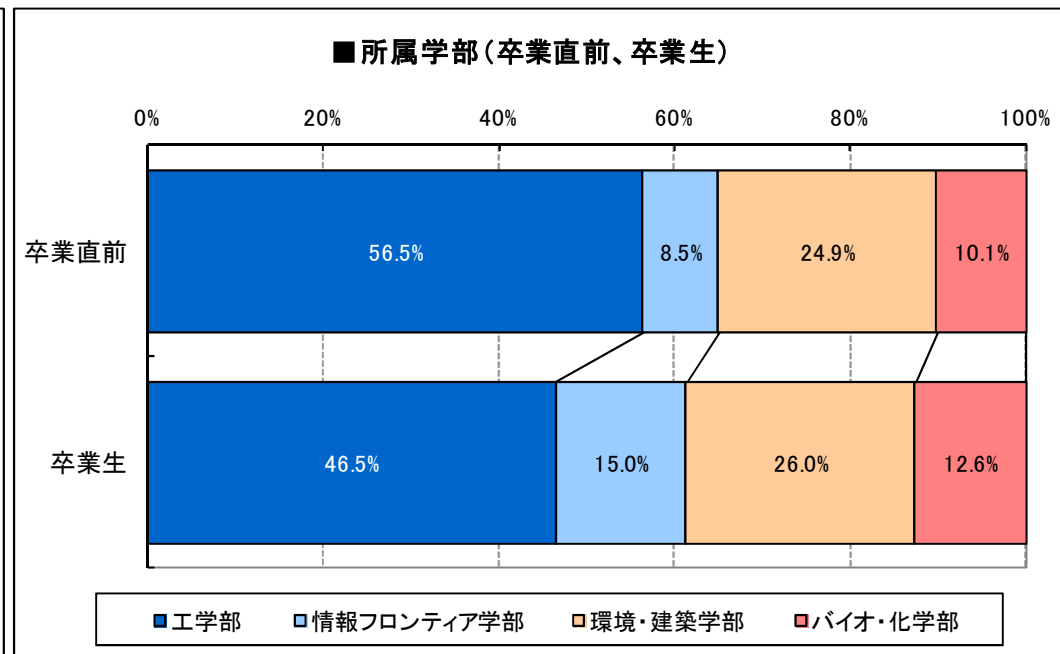
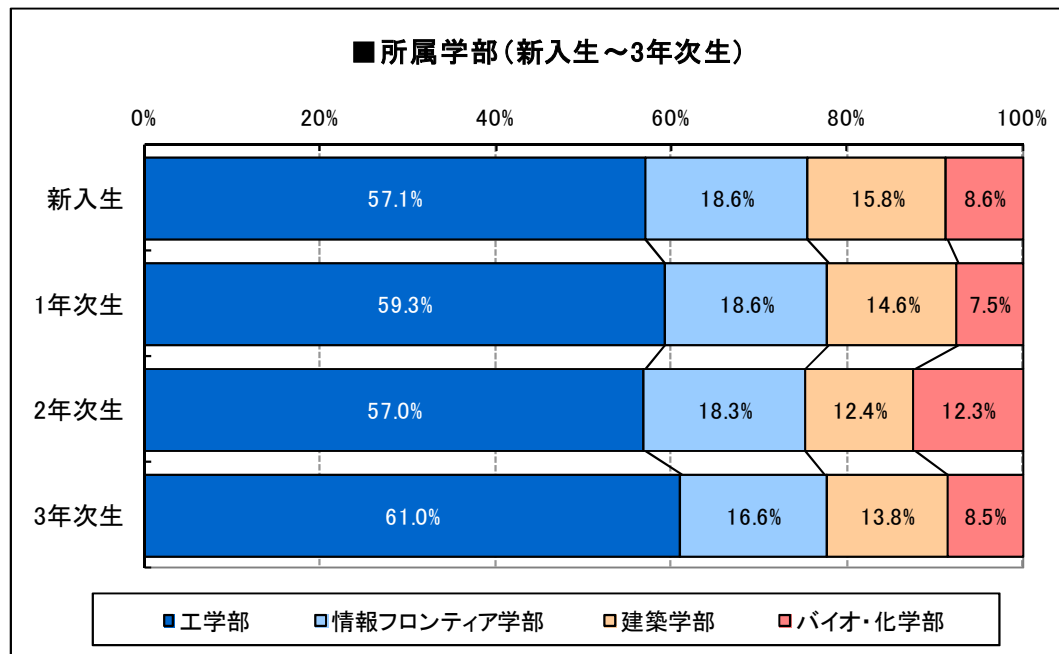
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<1-3> 在学生・卒業生の基本属性

■所属学部、学科



■所属学科

	機械 工学科	航空 システム 工学科	ロボティクス 学科	電気電子 工学科	情報 工学科	環境土木 工学科	メディア 情報学科	経営情報 学科	心理科学科	建築学科	応用化学科	応用バイオ 学科	総計
新入生	12.0%	2.6%	6.7%	13.6%	16.4%	5.7%	11.2%	4.0%	3.4%	15.8%	3.9%	4.7%	100.0%
1年次生	13.0%	3.5%	6.9%	16.7%	13.9%	5.4%	10.3%	5.0%	3.3%	14.6%	3.7%	3.7%	100.0%
2年次生	11.9%	2.6%	5.3%	15.3%	14.5%	7.4%	10.4%	4.3%	3.6%	12.4%	5.0%	7.3%	100.0%
3年次生	12.9%	4.3%	6.7%	15.6%	14.9%	6.7%	10.3%	3.3%	3.0%	13.8%	3.2%	5.3%	100.0%

	機械 工学科	航空 システム 工学科	ロボ ティクス 学科	電気電子 工学科	電子情報 通信 工学科	情報 工学科	メディア 情報学科	経営情報 学科	心理情報 学科	建築 デザイン 学科	建築学科	環境土木 工学科	応用 化学科	応用 バイオ 学科	総計
卒業直前	15.1%	4.2%	6.3%	13.9%	3.4%	13.7%	5.0%	1.3%	2.2%	9.3%	8.7%	6.9%	3.9%	6.2%	100.0%
卒業生	11.0%	5.5%	7.9%	7.9%	0.8%	13.4%	6.3%	3.9%	4.7%	7.1%	12.6%	6.3%	4.7%	7.9%	100.0%

※学科別集計に関しては12学科体制に調整して集計している。詳細は「<1-1> 調査の目的と概略」の「■集計に関して」を参照のこと。また、ここでは「無回答」は除外して集計している。

■出身地域

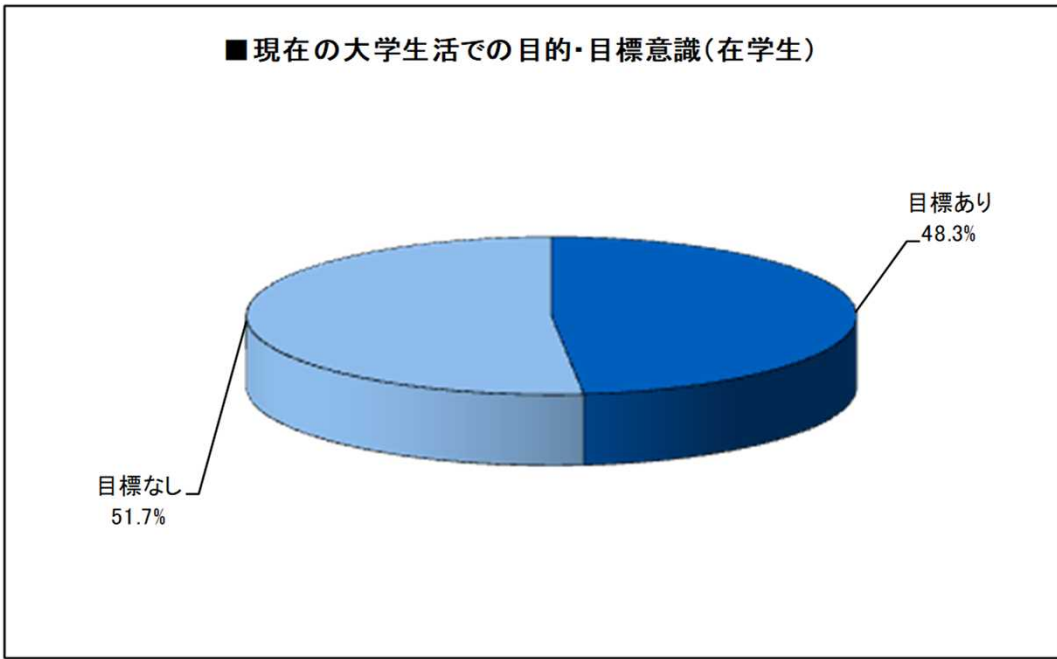
■在学生の出身地域

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	62	78	173	658	237	114	55	25	1,402
	4.4%	5.6%	12.3%	46.9%	16.9%	8.1%	3.9%	1.8%	100.0%
2年次生	56	91	167	592	205	125	53	18	1,307
	4.3%	7.0%	12.8%	45.3%	15.7%	9.6%	4.1%	1.4%	100.0%
3年次生	45	79	189	599	196	96	38	22	1,264
	3.6%	6.3%	15.0%	47.4%	15.5%	7.6%	3.0%	1.7%	100.0%
卒業直前	37	58	174	529	163	89	36	11	1,097
	3.4%	5.3%	15.9%	48.2%	14.9%	8.1%	3.3%	1.0%	100.0%
修了直前	4	8	18	51	34	12	2	6	135
	3.0%	5.9%	13.3%	37.8%	25.2%	8.9%	1.5%	4.4%	100.0%
全体	204	314	721	2,429	835	436	184	82	5,205
	3.9%	6.0%	13.9%	46.7%	16.0%	8.4%	3.5%	1.6%	100.0%

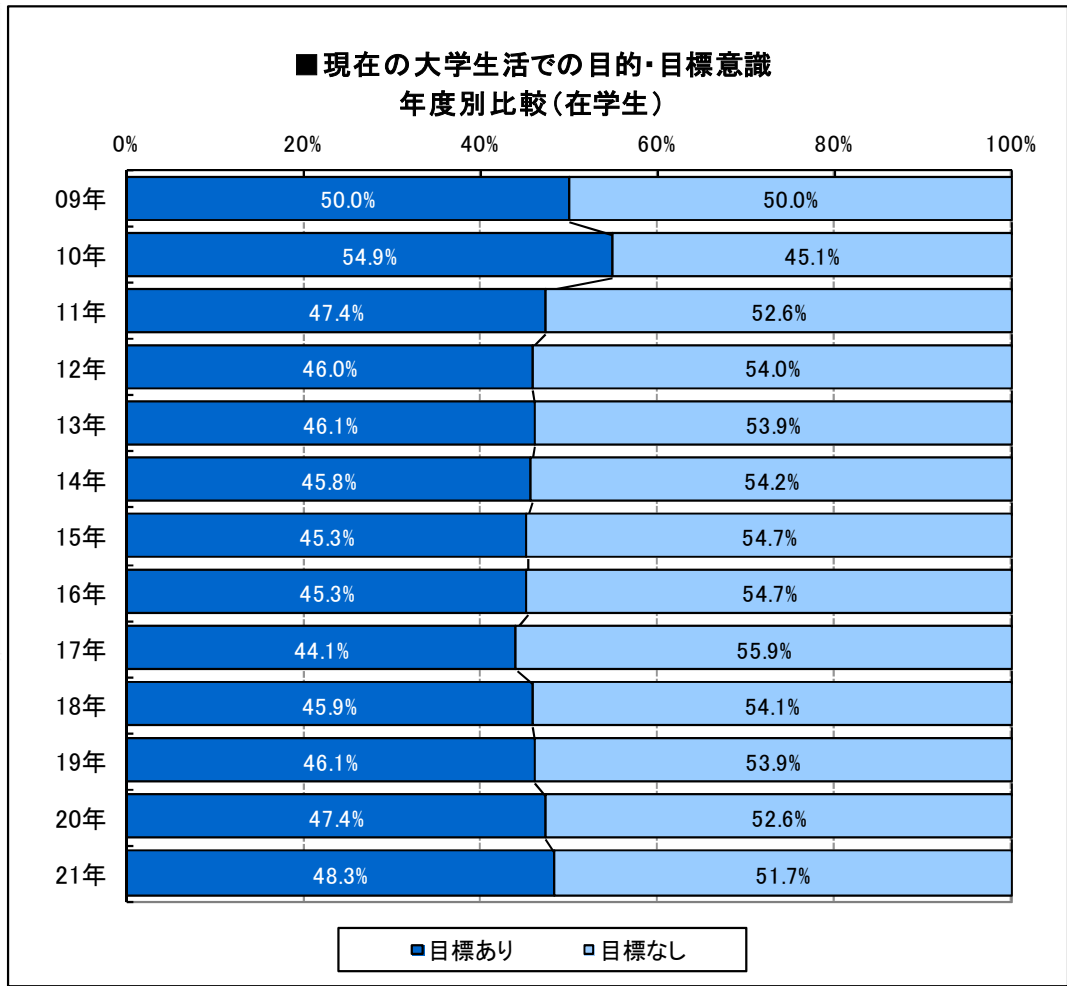
<2-1> 在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上での目的・目標の有無」では、「目標あり」が48.3%、「目標なし」が51.7%であり、わずかに「目標なし」の方が多かった。
- 年度別の比較を見ると、「目標あり」は前回は0.9ポイント上回り、11年以降では最も多くなっていた。



目標あり(48.3%) < 目標なし(51.7%)

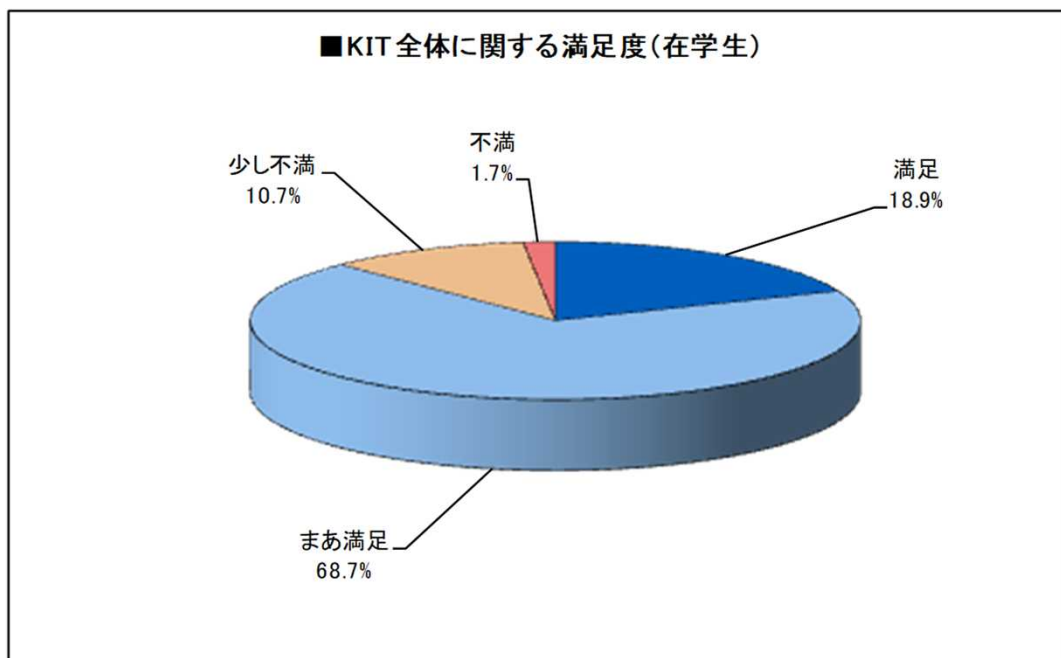


※この質問は「新入生」「在学生(卒・修直前を含む)」「卒業生」「修了生」に聞いているが、このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、次項以降のグラフは「新入生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。

<2-2>KITの総合満足度

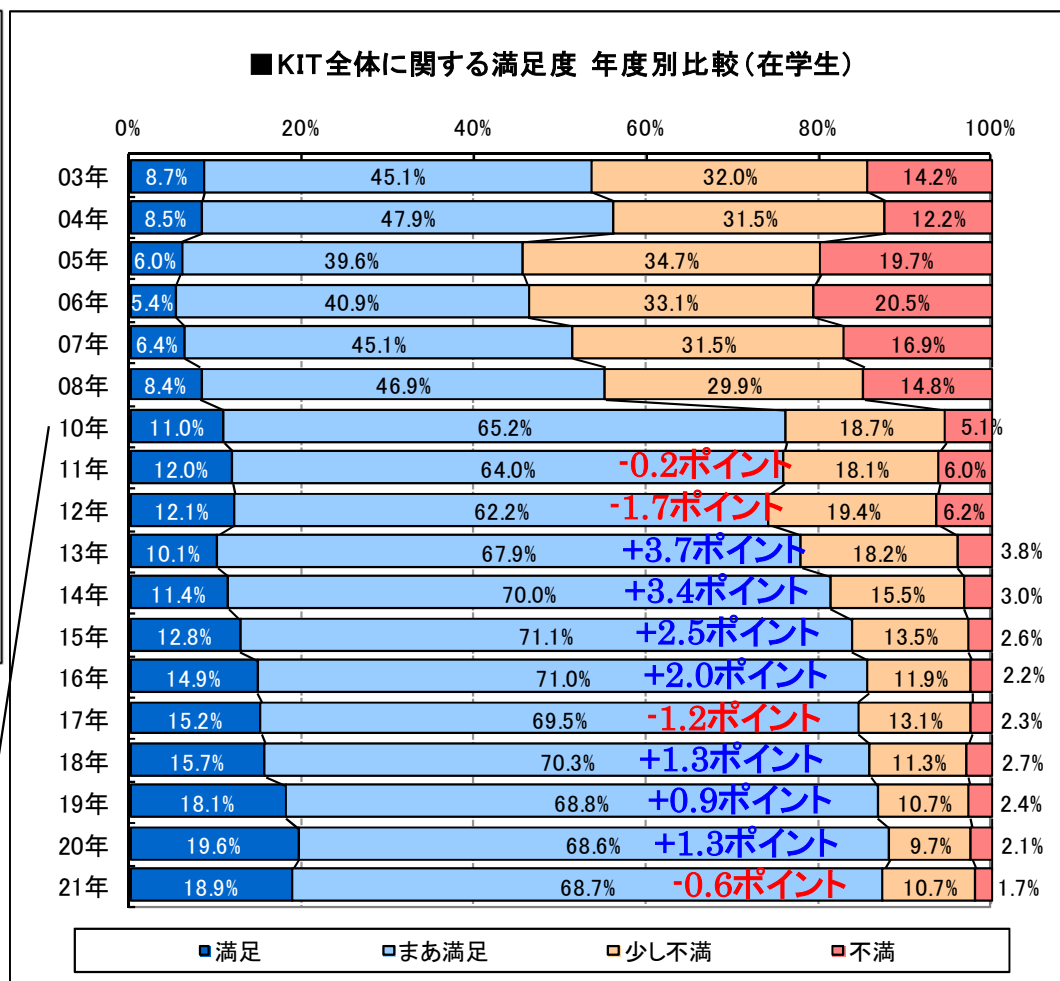
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」に対しては、「満足」が18.9%、「まあ満足」が68.7%となっており、合わせると87.6%が満足という回答となっていた。そして、不満という回答の合計は12.4%であった。
- KITの総合満足度については、08年までは「今のKITに満足していますか?」と聞いており、09年には質問を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として、「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 質問が統一された10年以降を見ると、満足という回答の合計は12年までは横ばいであったが、13年から20年までは例外(16年から17年の減少)はあるものの増加傾向が続き、前回(20年)は88.2%と過去最高の満足度となっていた。そして、今回は前回は0.6ポイントわずかに下回った。



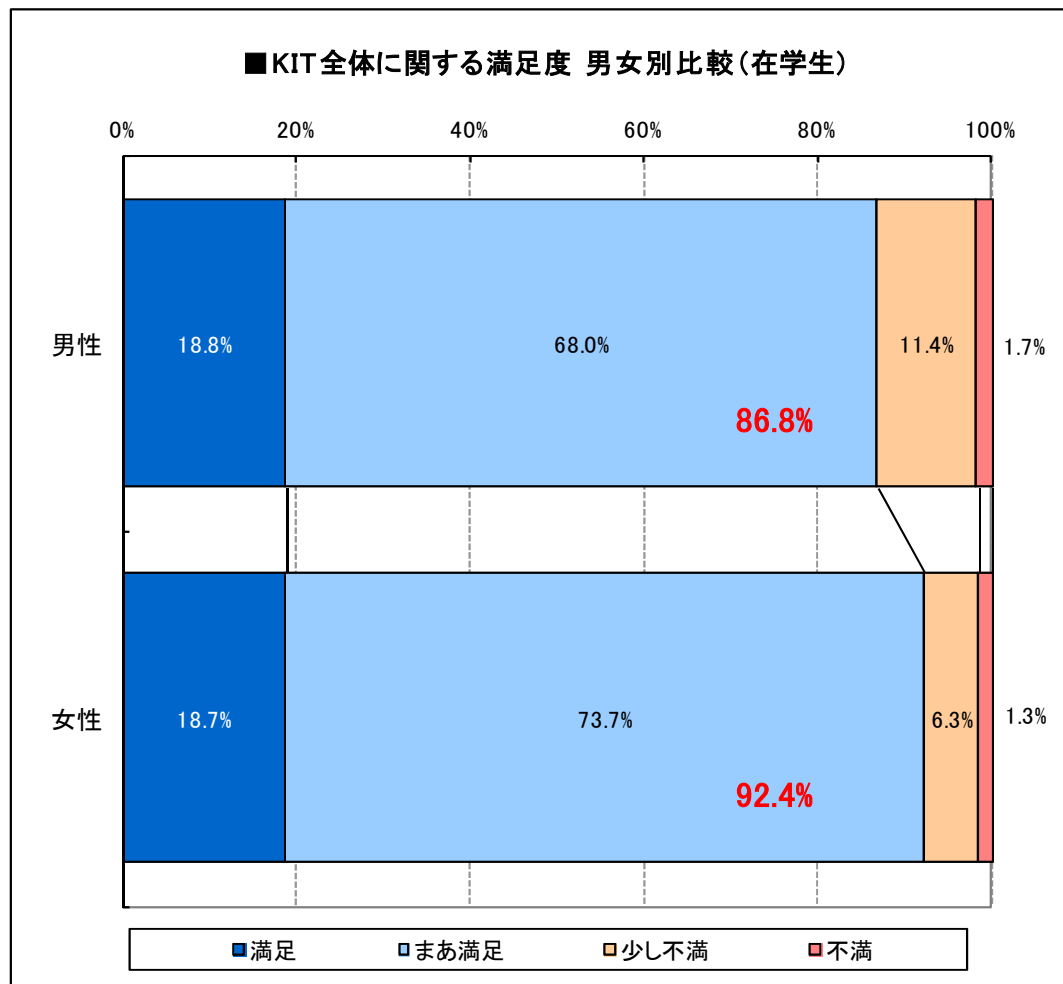
満足している(87.6%) > 不満を持っている(12.4%)

10年から聞き方が
変わっている



■KIT全体に関する満足度 男女別比較

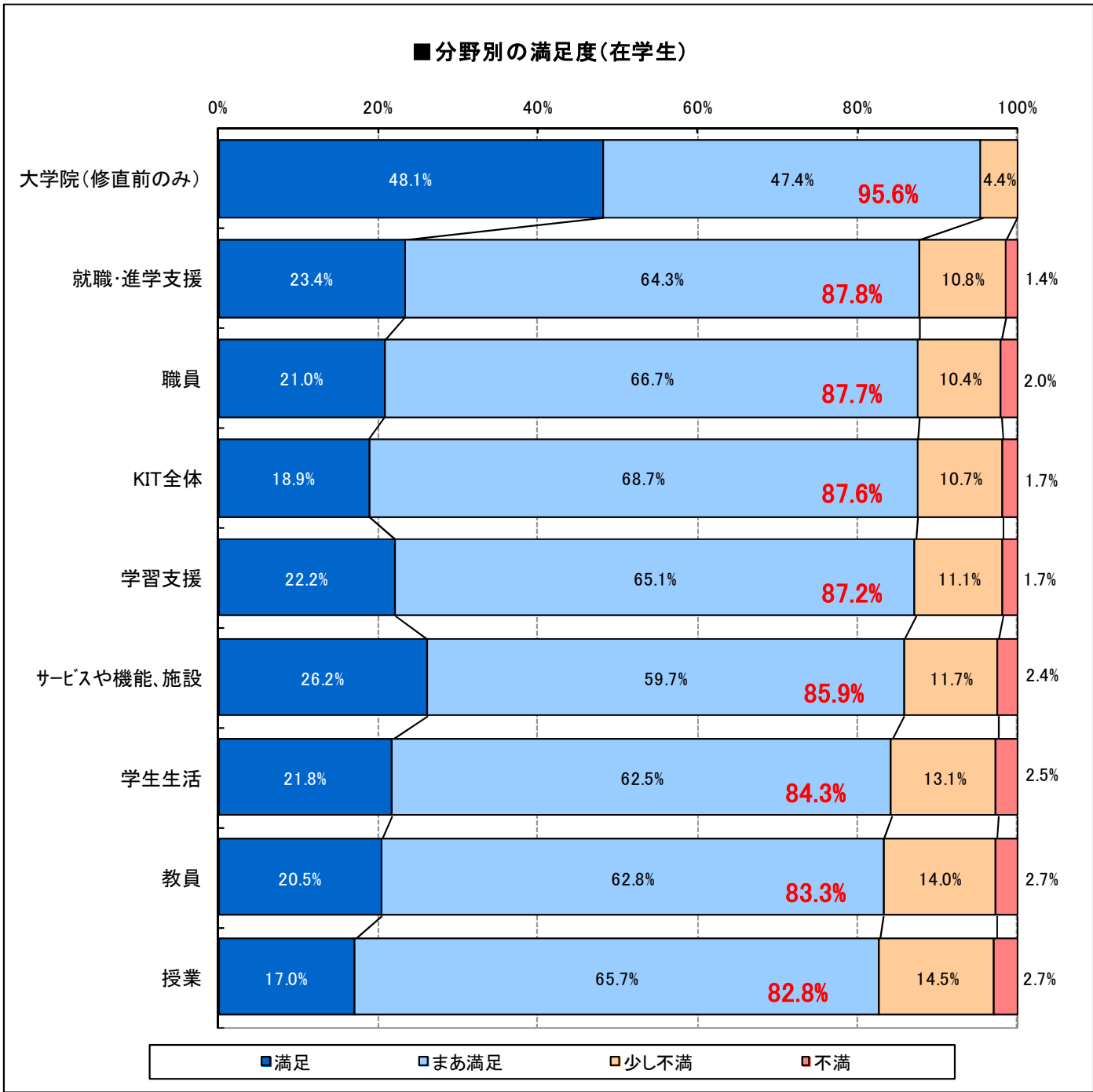
- 満足という回答の合計を男女別に比較したところ、「男性」が86.8%、「女性」が92.4%であり、「女性」の方が5.6ポイント多かった。



<2-3>分野別の満足度

■分野別満足度

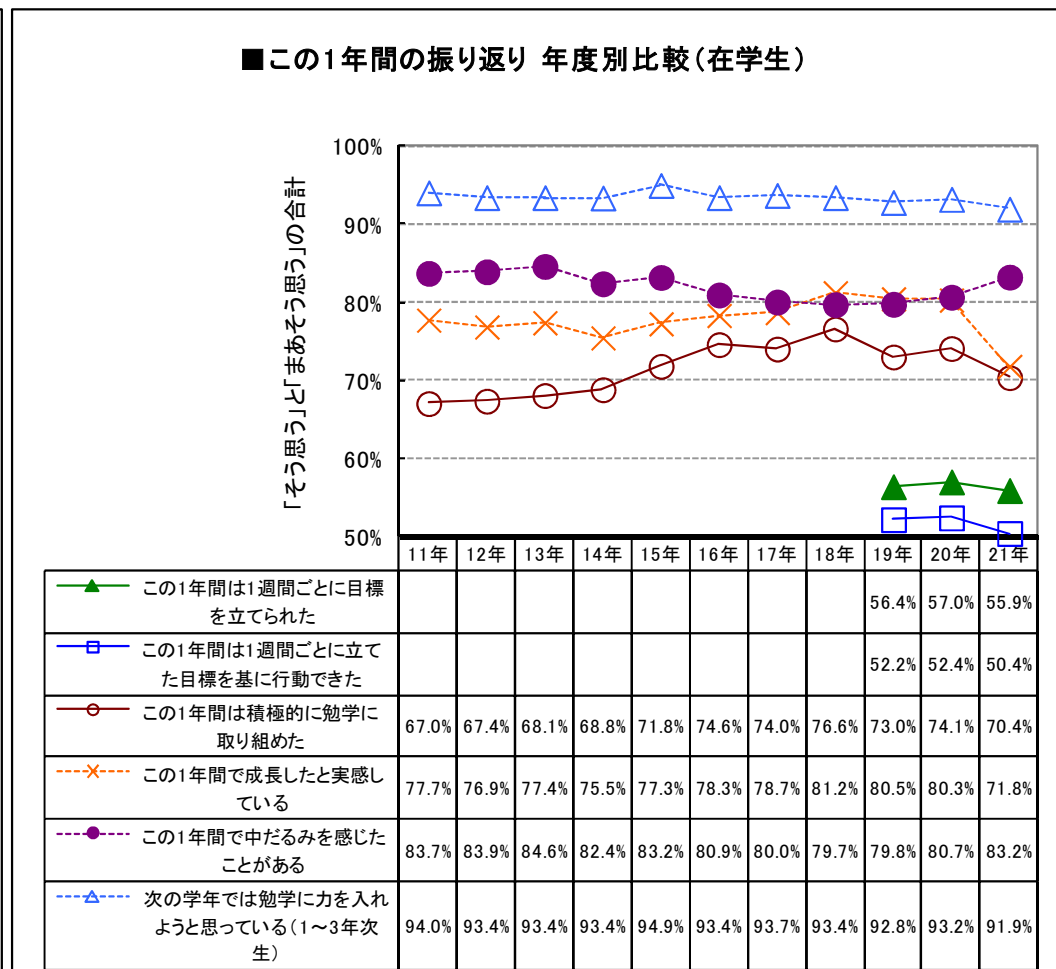
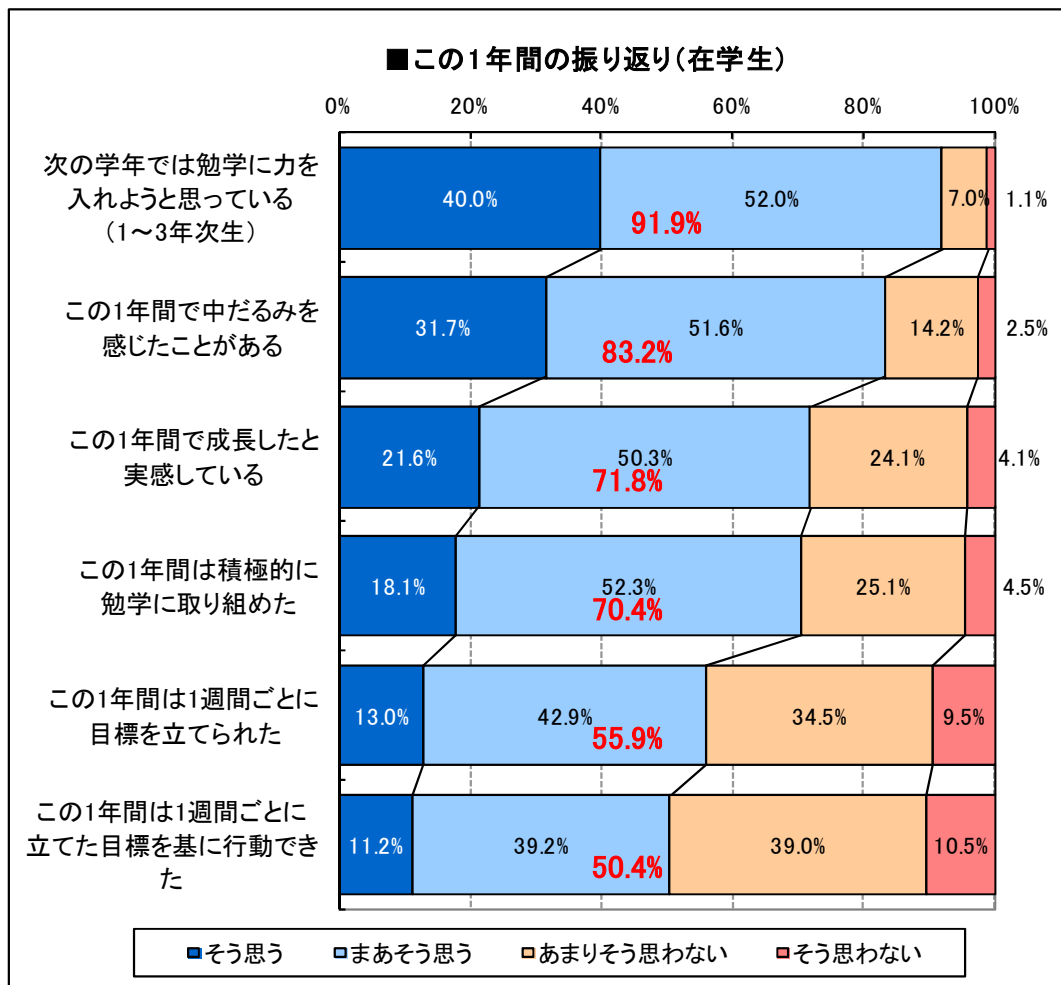
- 大学生活の9分野に関して各々の満足度を聞いたところ、満足という回答の合計が最も多かったのは「大学院」の95.6%であり、「満足」が48.1%と半数近くを占めている点特徴的であった。
- 上記に次いで、「就職・進学支援」が87.8%、「職員」が87.7%と続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「授業」の82.8%であり、「大学院」との差は12.8ポイントであった。次いで低かったのは「教員」の83.3%、「学生生活」の84.3%であった。



<2-4>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り 年度別比較

- 「この1年間の振り返り」は6項目に関して聞いているが、肯定的な意見の合計が最も多かったのは1～3年次生のみ聞いた「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の91.9%であり、次の学年に向けての意気込みが感じられた。
- 上記に次いで、「この1年間で中だるみを感じたことがある」が83.2%であったが、この質問では肯定的な意見が多いほど中だるみを感じる学生が多いということであり、8割が中だるみを感じていたということになる。そして、肯定的な意見が最も少なかったのは「この1年間は1週間ごとに立てた目標を基に行動できた」の50.4%であり、目標を基に行動できた学生は半数となっていた。
- 年度別の比較を見ると、肯定的な意見の合計は「この1年間で中だるみを感じたことがある」だけが前回より増加しており、他はいずれも下回っていた。これは結果的にはすべてネガティブな回答ということになる。前回からの低下が最も大きかったのは「この1年間で成長したと実感している」で、前回は8.5ポイントと大きく下回り、過去最低となっていた。



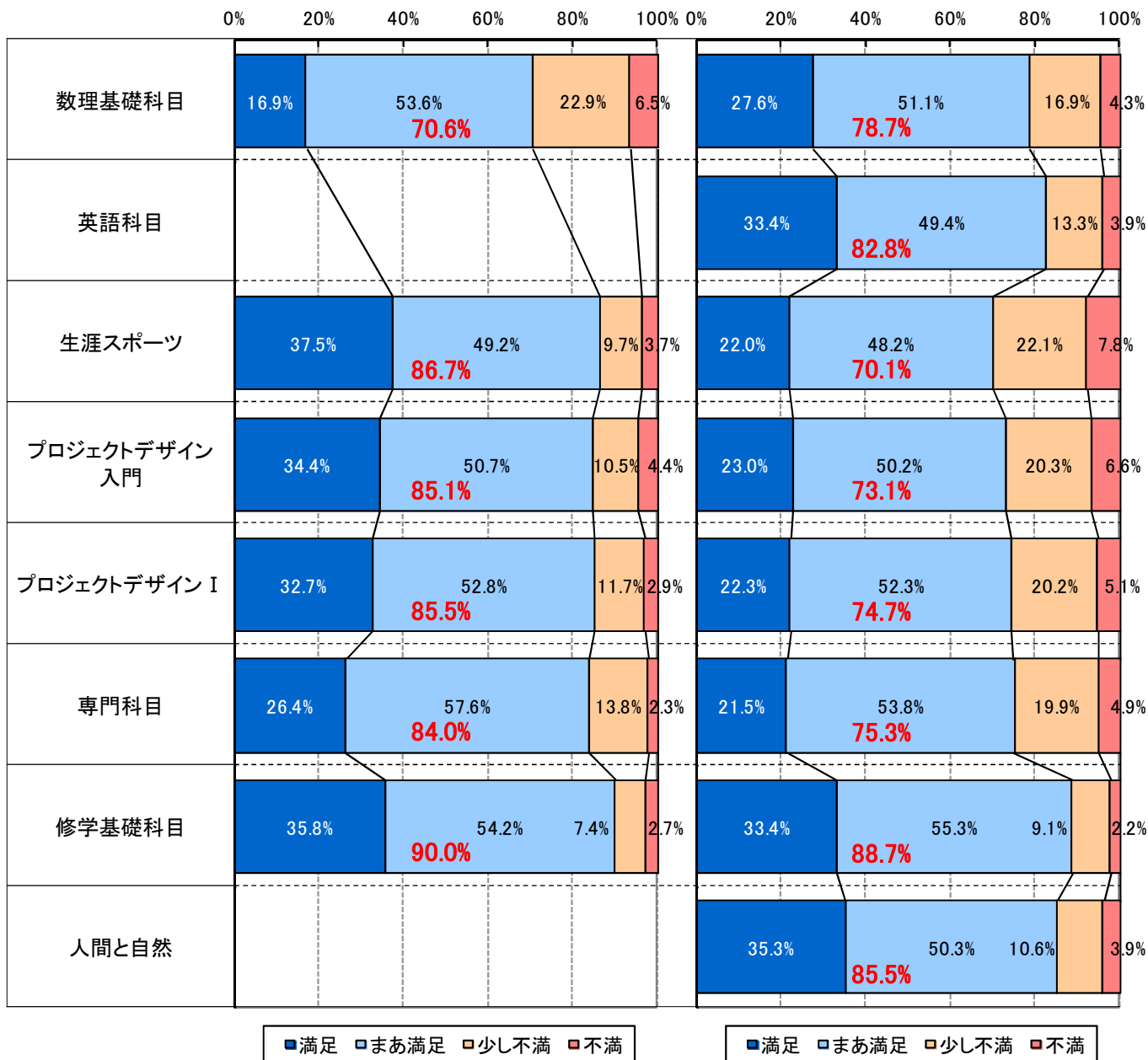
<3-1>授業の満足度

■授業の満足度 1年次生

- 授業の満足度に関しては、今回より「対面授業」と「オンライン授業」の2つの側面の評価を聞いている。ただし、「英語科目」のように該当しないものは質問を設定していない。
- 「1年次生」の「対面授業」で最も満足度が高かったのは「修学基礎科目」の90.0%であり、次いで「生涯スポーツ」の86.7%、「プロジェクトデザイン I」の85.5%が続いていた。そして、最も低かったのは「数理基礎科目」の70.6%であった。
- 「オンライン授業」でも「修学基礎科目」が88.7%と、「対面授業」と同様に最も満足度が高かった。次いで、「人間と自然」が85.5%、「英語科目」が82.8%と続いており、最も低かったのは「生涯スポーツ」の70.1%であった。
- 「対面授業」と「オンライン授業」の両方を聞いている科目の評価を比較すると、「数理基礎科目」だけは「オンライン授業」の方が満足度が高かったが、その他はすべて「対面授業」の方が高かった。

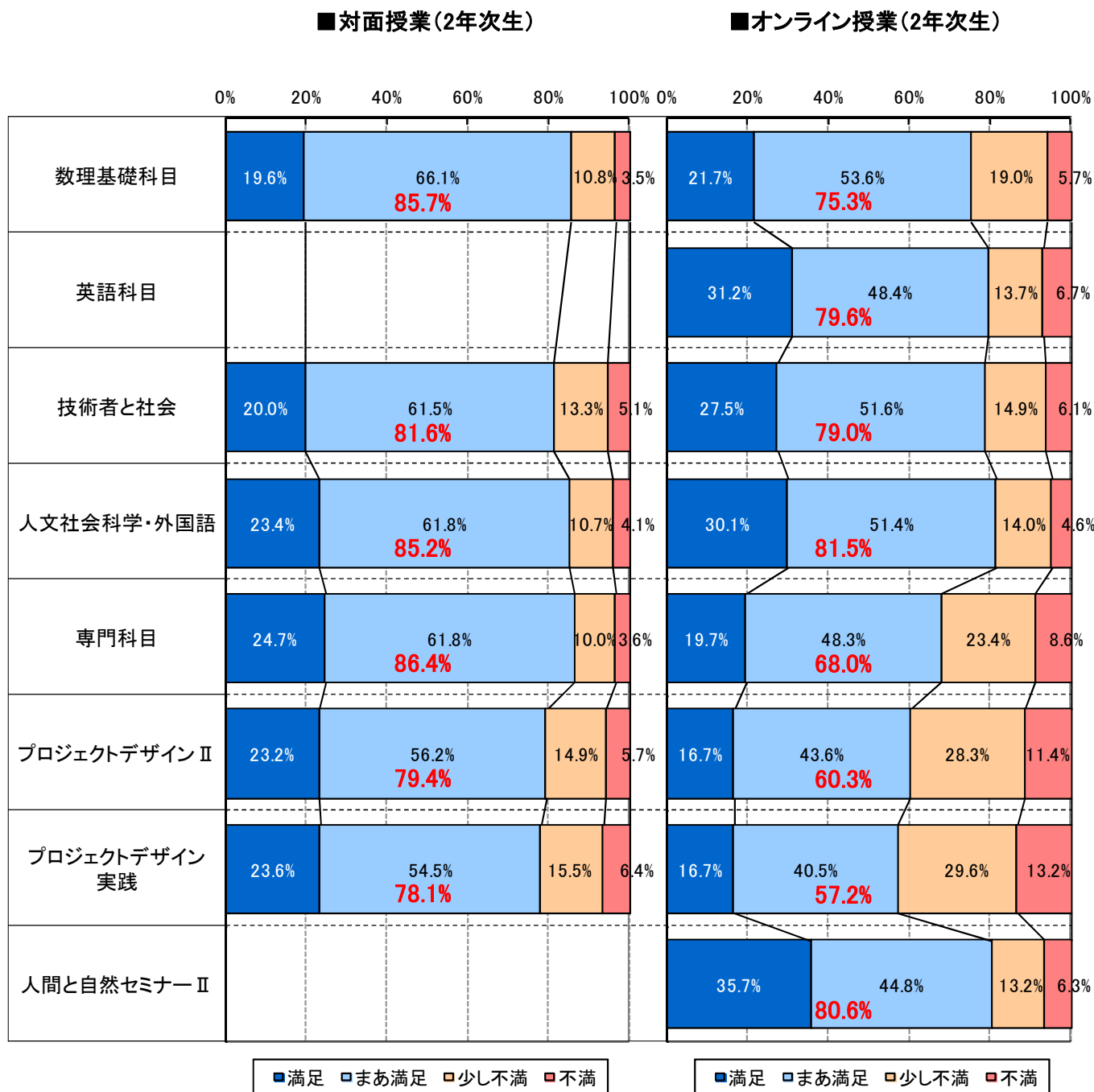
■対面授業(1年次生)

■オンライン授業(1年次生)



■授業の満足度 2年次生

- 「2年次生」の「対面授業」で最も満足度が高かったのは「専門科目」の86.4%であった。次いで、「数理基礎科目」が85.7%、「人文社会科学・外国語」が85.2%と続いており、最も低かったのは「プロジェクトデザイン実践」の78.1%であった。
- 「オンライン授業」で最も満足度が高かったのは「人文社会科学・外国語」の81.5%であった。次いで、「人間と自然セミナーⅡ」が80.6%、「英語科目」が79.6%、「技術者と社会」が79.0%と続いており、最も低かったのは「対面授業」と同様に「プロジェクトデザイン実践」で、満足度は57.2%であった。
- 「対面授業」と「オンライン授業」の両方を聞いている科目の評価を比較すると、すべて「対面授業」の満足度の方が高かった。

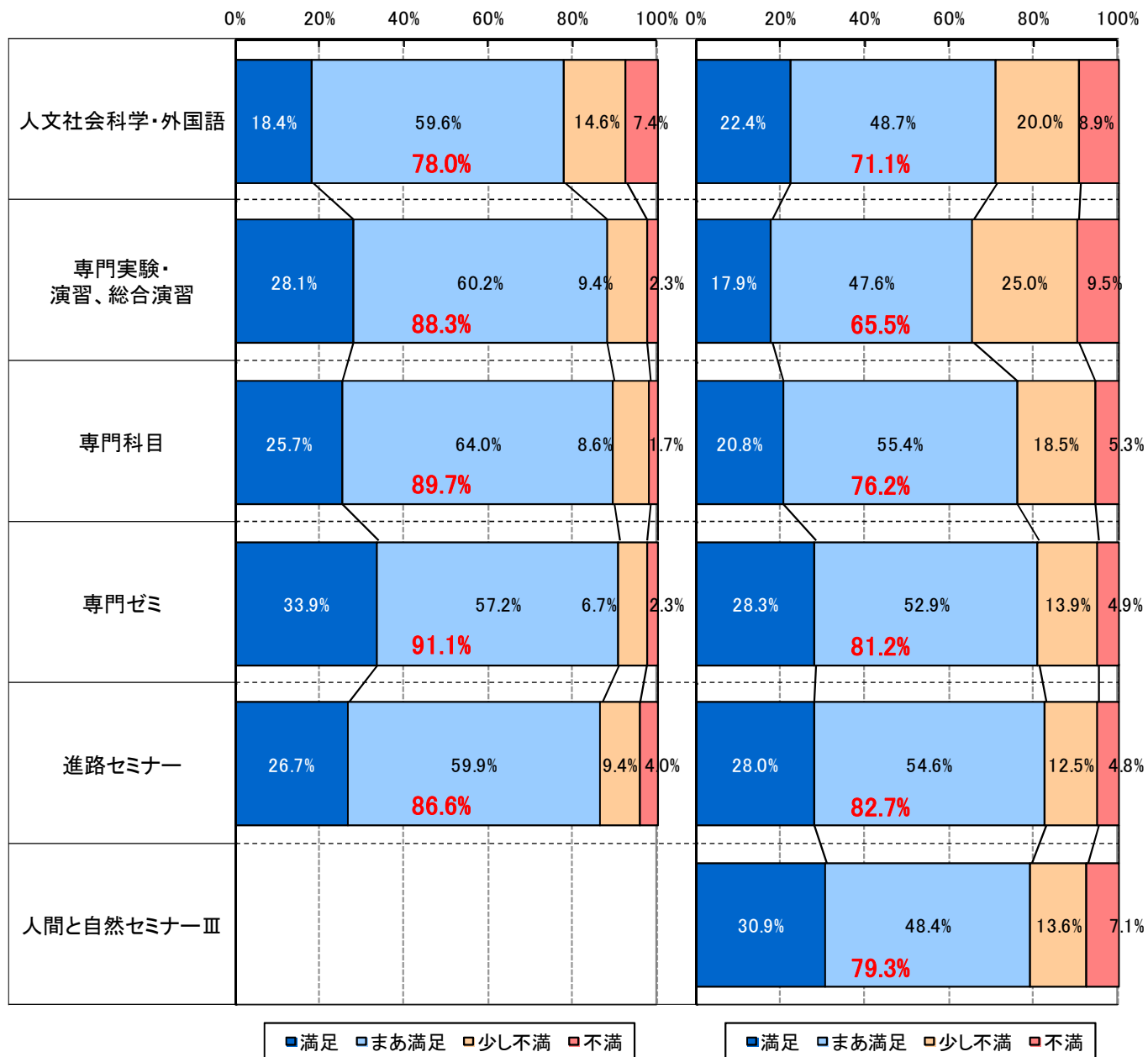


■授業の満足度 3年次生

- 「3年次生」の「対面授業」で最も満足度が高かったのは「専門ゼミ」の91.1%であり、「専門科目」が89.7%、「専門実験・演習、総合演習」が88.3%で続いていた。そして、最も低かったのは「人文社会科学・外国語」の78.0%であった。
- 「オンライン授業」で最も満足度が高かったのは「進路セミナー」の82.7%であり、「専門ゼミ」が81.2%、「人間と自然セミナーⅢ」が79.3%で続いていた。そして、最も低かったのは「対面授業」とは異なり、「専門実験・演習、総合演習」の65.5%であった。
- 「対面授業」と「オンライン授業」の両方を聞いている科目の評価を比較すると、すべて「対面授業」の満足度の方が高く、「専門実験・演習、総合演習」では22.8ポイントの差がついていた。

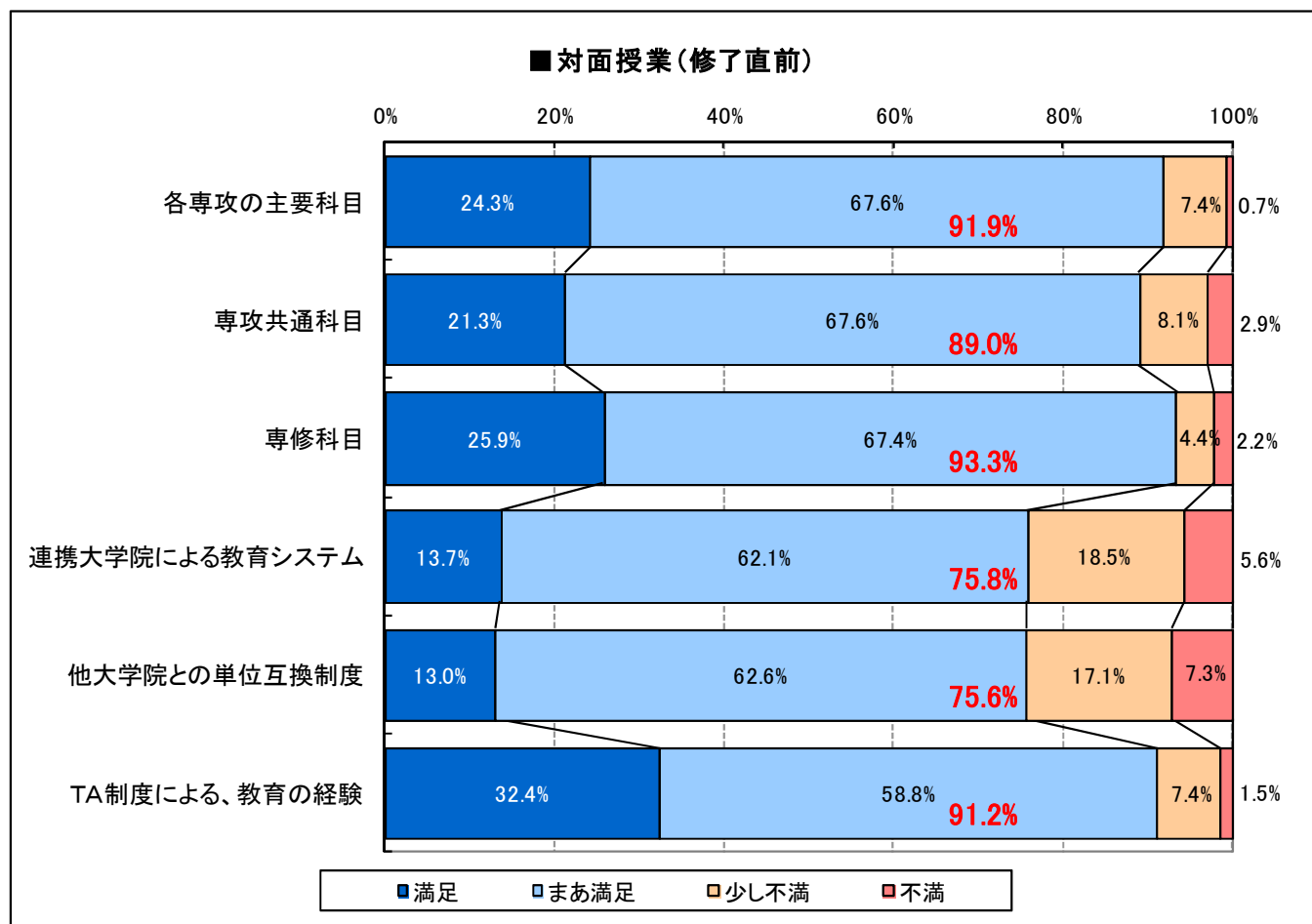
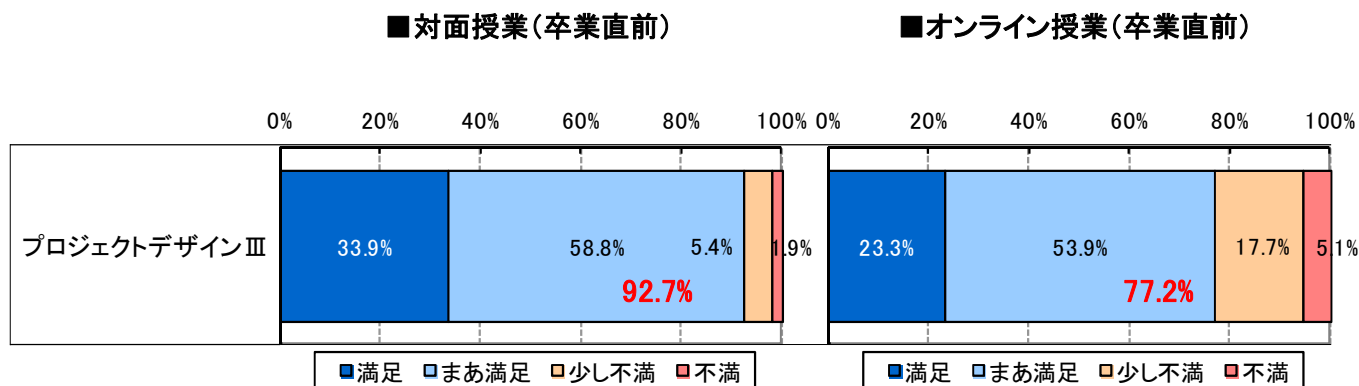
■対面授業(3年次生)

■オンライン授業(3年次生)



■授業の満足度 卒業・修了直前

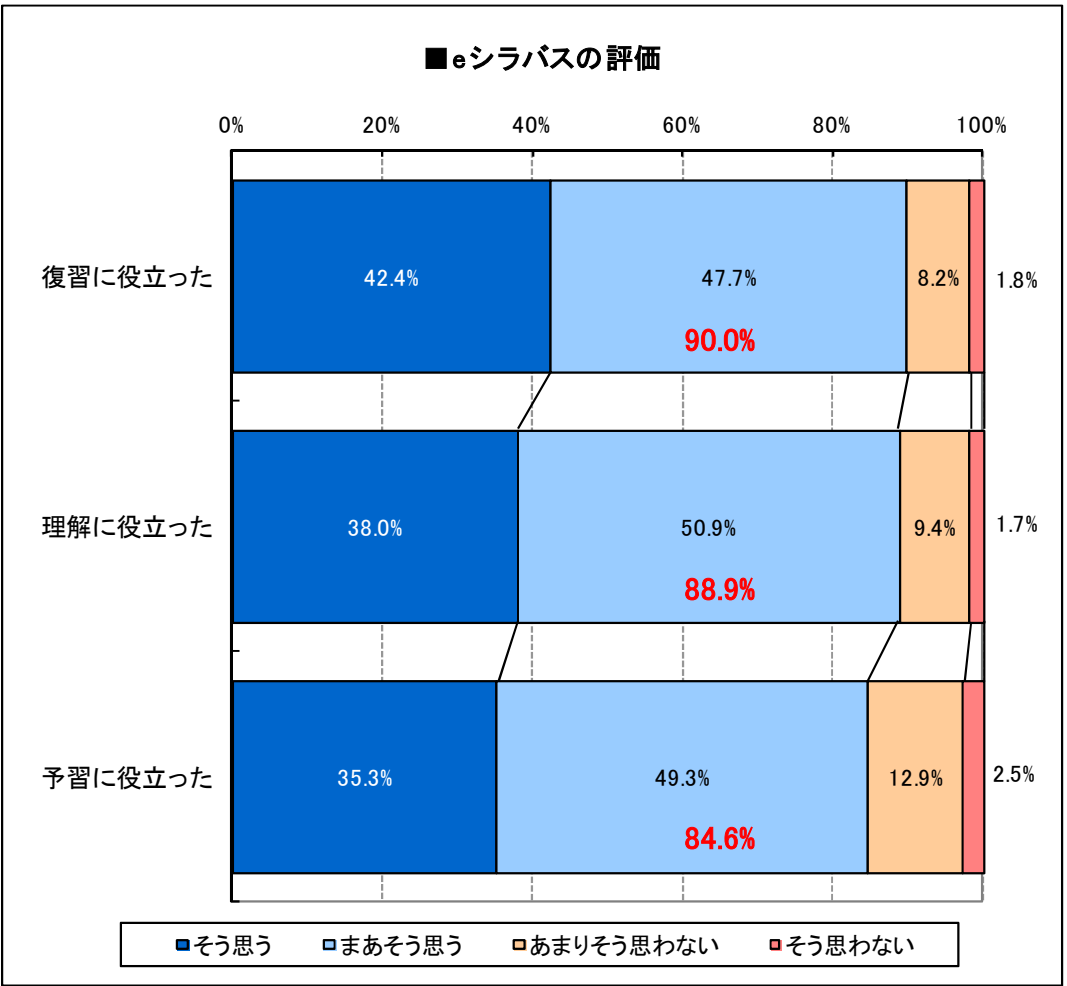
- 「卒業直前」で授業満足度を聞いたのは「プロジェクトデザインⅢ」だけであるが、「対面授業」では92.7%、「オンライン授業」では77.2%となっていた。
- 「修了直前」はすべて「対面授業」であったが、最も満足度が高かったのは「専修科目」の93.3%であり、「各専攻の主要科目」が91.9%、「各専攻の主要科目」が91.9%、「TA制度による、教育の経験」が91.2%、「専攻共通科目」が89.0%と、いずれも高い満足度であった。
- 一方、「他大学院との単位互換制度」が75.6%、「連携大学院による教育システム」が75.8%であり、この2科目の満足度がやや低かった。



<3-2>遠隔(オンライン)授業の評価

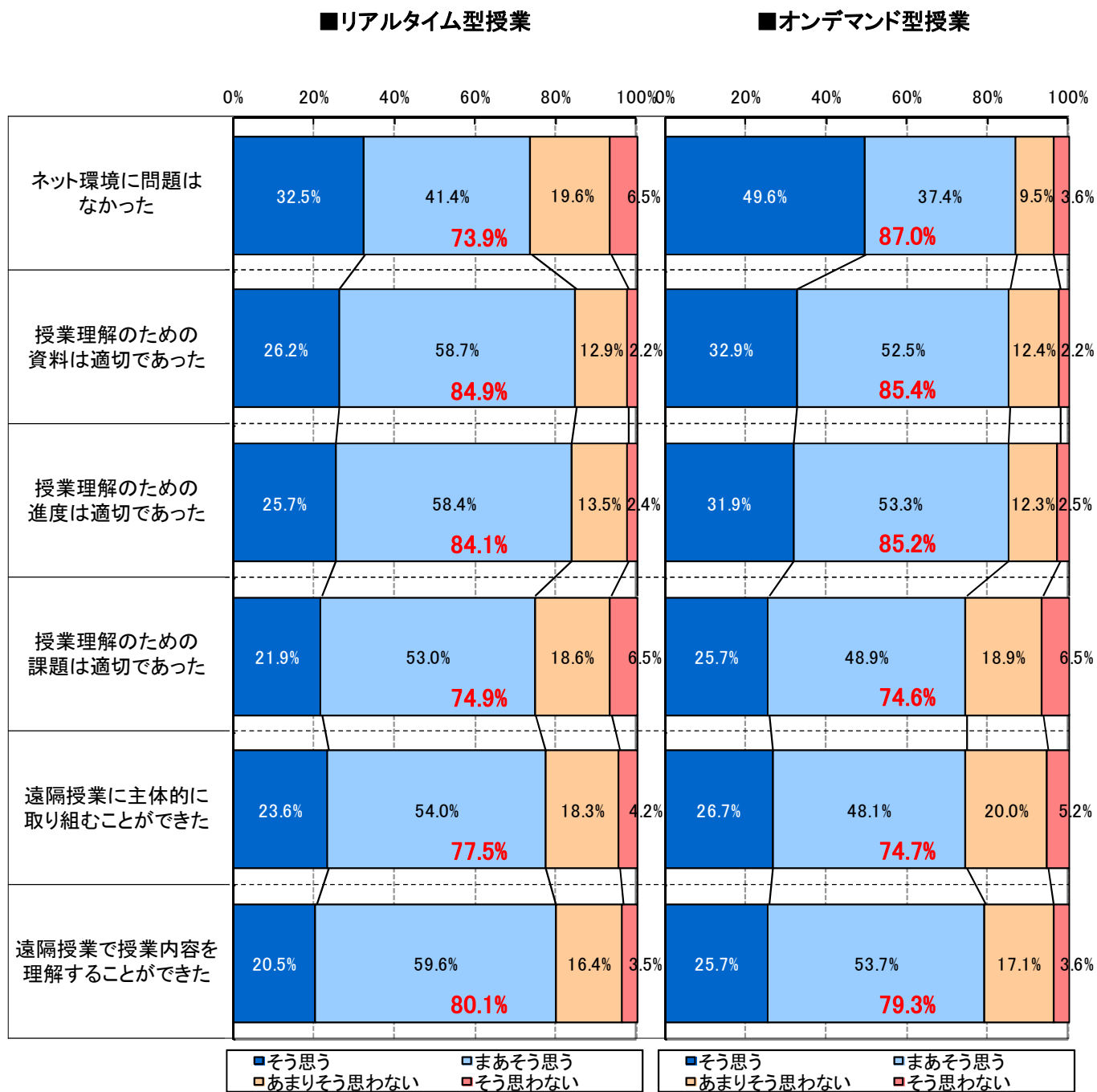
■eシラバスの評価

- eシラバスの評価は2021年に追加した項目であるが、eシラバスが授業の「復習」「理解」「予習」に役立ったかという質問で、「そう思う」から「そう思わない」の4段階の選択肢で聞いている。
- 肯定的な意見の合計が最も多かったのは、「復習に役立った」であり、90.0%が肯定的な意見で、「そう思う」が42.4%であった。
- 上記に次いで、「理解に役立った」が88.9%、「予習に役立った」が84.6%であり、いずれも非常に高い評価となっていた。



■遠隔(オンライン)授業の進め方や内容の評価

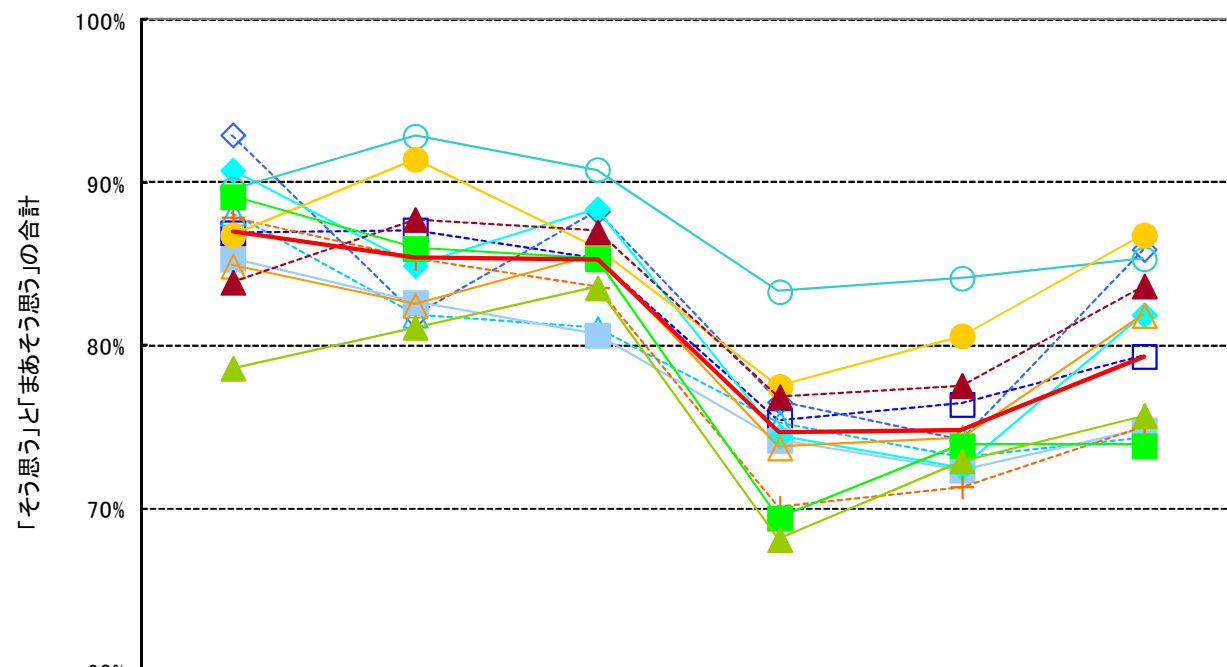
- 遠隔(オンライン)授業の進め方や内容の評価は2021年に追加した項目であるが、「リアルタイム型授業」と「オンデマンド型授業」の各々に対して、6項目の評価を聞いている。
- 「リアルタイム型授業」で肯定的な意見が最も多かったのは、「授業理解のための資料は適切であった」の84.9%であった。次いで、「授業理解のための進度は適切であった」が84.1%、「遠隔授業で授業内容を理解することができた」が80.1%と続いており、最も少なかったのは「ネット環境に問題はなかった」の73.9%であった。
- 「オンデマンド型授業」で肯定的な意見が最も多かったのは「ネット環境に問題はなかった」の87.0%であった。「ネット環境」に関しては、「リアルタイム型授業」では問題があるが、「オンデマンド型授業」では問題はないという評価となっていた。次いで、「授業理解のための資料は適切であった」が85.4%、「授業理解のための進度は適切であった」が85.2%であり、最も少なかったのは「授業理解のための課題は適切であった」の74.6%であった。
- 「リアルタイム型授業」と「オンデマンド型授業」の評価を比較すると、「ネット環境に問題はなかった」は差が大きいものの、他の項目の差はわずかで、「資料」「進度」は「オンデマンド型授業」の評価の方が高く、「課題」「主体的な取り組み」「授業の内容理解」は「リアルタイム型授業」の評価の方が高かった。



■遠隔(オンライン)授業の進め方や内容の評価(オンデマンド型授業) 学科別比較

- 「オンデマンド型授業」の評価を学科別に比較したところ、「環境土木」の評価が全体的に高く、特に「課題の適切さ」が高かった。続いて「心理科学」で高い項目が多く、「授業内容の理解」は最も高かった。
- 上記以外では、「建築」は「ネット環境の評価」以外は全体的に高めであり、「航空システム」は「ネット環境の評価」と「授業内容の理解」、「情報工学」は「ネット環境の評価」と「進度の適切さ」が高かった。
- 一方、全体的に低かったのは「応用バイオ」であり、特に「ネット環境の評価」の低さが目立っていた。また、「課題の適切さ」では「応用化学」と「メディア情報」が低く、「授業内容の理解」では「応用化学」「ロボティクス」「電気電子」「メディア情報」が低かった。

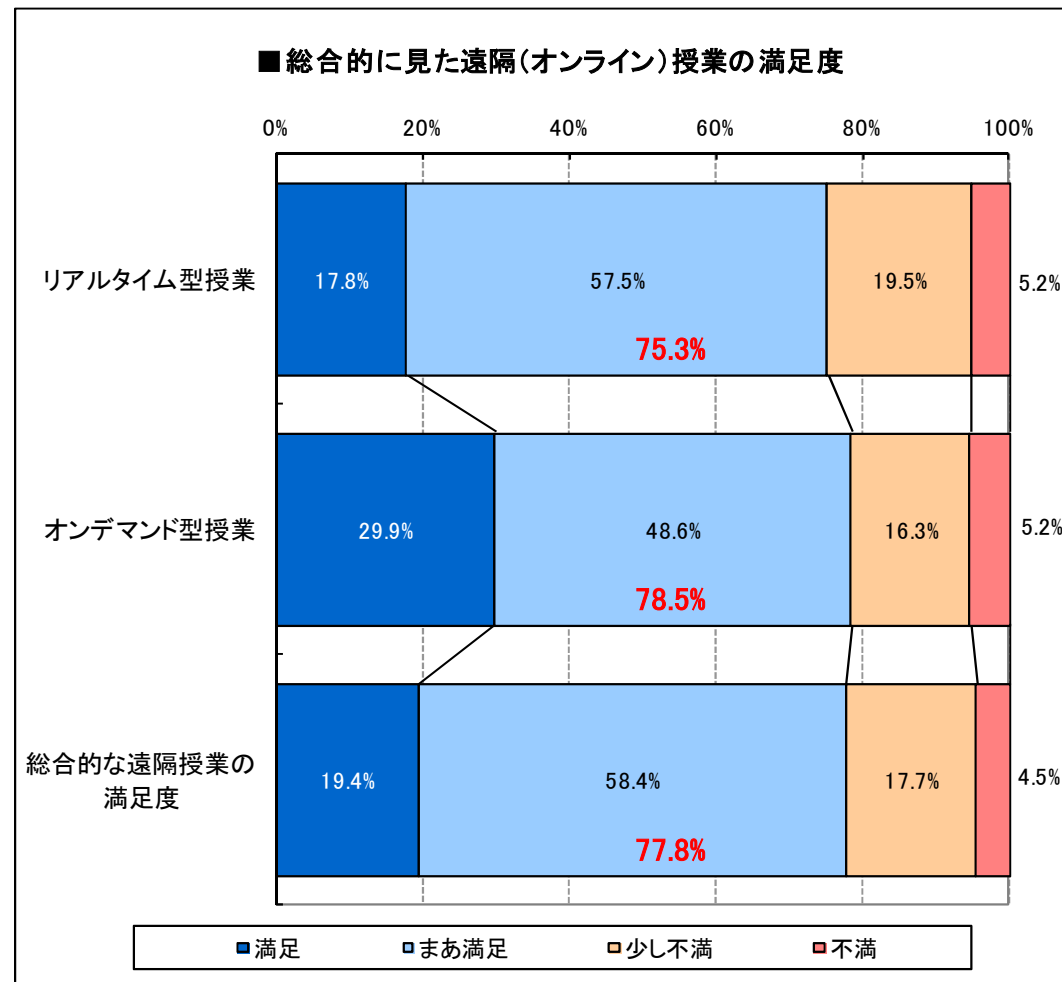
■オンデマンド型授業の評価 学科別比較



	ネット環境の評価	資料の適切さ	進度の適切さ	課題の適切さ	主体的な取り組み姿勢	授業内容の理解
---□--- 機械	86.9%	87.1%	85.4%	75.4%	76.4%	79.4%
---◇--- 航空システム	93.0%	81.9%	88.3%	76.6%	74.2%	85.9%
---△--- ロボティクス	88.2%	81.9%	81.1%	75.3%	73.1%	74.4%
---■--- 電気電子	85.3%	82.7%	80.7%	74.2%	72.4%	74.8%
---◆--- 情報工学	90.8%	85.0%	88.4%	74.5%	72.5%	81.9%
---○--- 環境土木	89.6%	92.9%	90.8%	83.3%	84.2%	85.4%
---+--- メディア情報	87.9%	85.4%	83.6%	70.1%	71.4%	75.1%
---△--- 経営情報	84.9%	82.5%	85.6%	73.8%	74.4%	81.9%
---●--- 心理科学	86.8%	91.5%	86.0%	77.5%	80.6%	86.8%
---▲--- 建築	83.9%	87.8%	87.0%	76.9%	77.6%	83.7%
---■--- 応用化学	89.2%	86.0%	85.4%	69.4%	73.9%	73.9%
---▲--- 応用バイオ	78.6%	81.2%	83.6%	68.1%	72.9%	75.7%
---■--- 在学生全体	87.0%	85.4%	85.2%	74.6%	74.8%	79.4%

■総合的に見た遠隔(オンライン)授業の満足度

- 総合的に見た遠隔(オンライン)授業の満足度は2021年に追加した項目となる。
- Zoomなどを使用した「リアルタイム型授業」の満足度では、「満足」が17.8%、「まあ満足」が57.5%であり、合わせると75.3%が満足と答えていた。
- Power Pointなどを使用した「教材配信型(オンデマンド型)授業」の満足度では、「満足」が29.9%と高く、「まあ満足」の48.6%を加えると78.5%が満足と答えており、「リアルタイム型授業」を3.2ポイント上回っていた。
- 「総合的な遠隔授業の満足度」では、「満足」が19.4%、「まあ満足」が58.4%で、合わせると77.8%であり、遠隔授業に対しては約8割が満足し、不満を感じている学生は約2割となっていた。

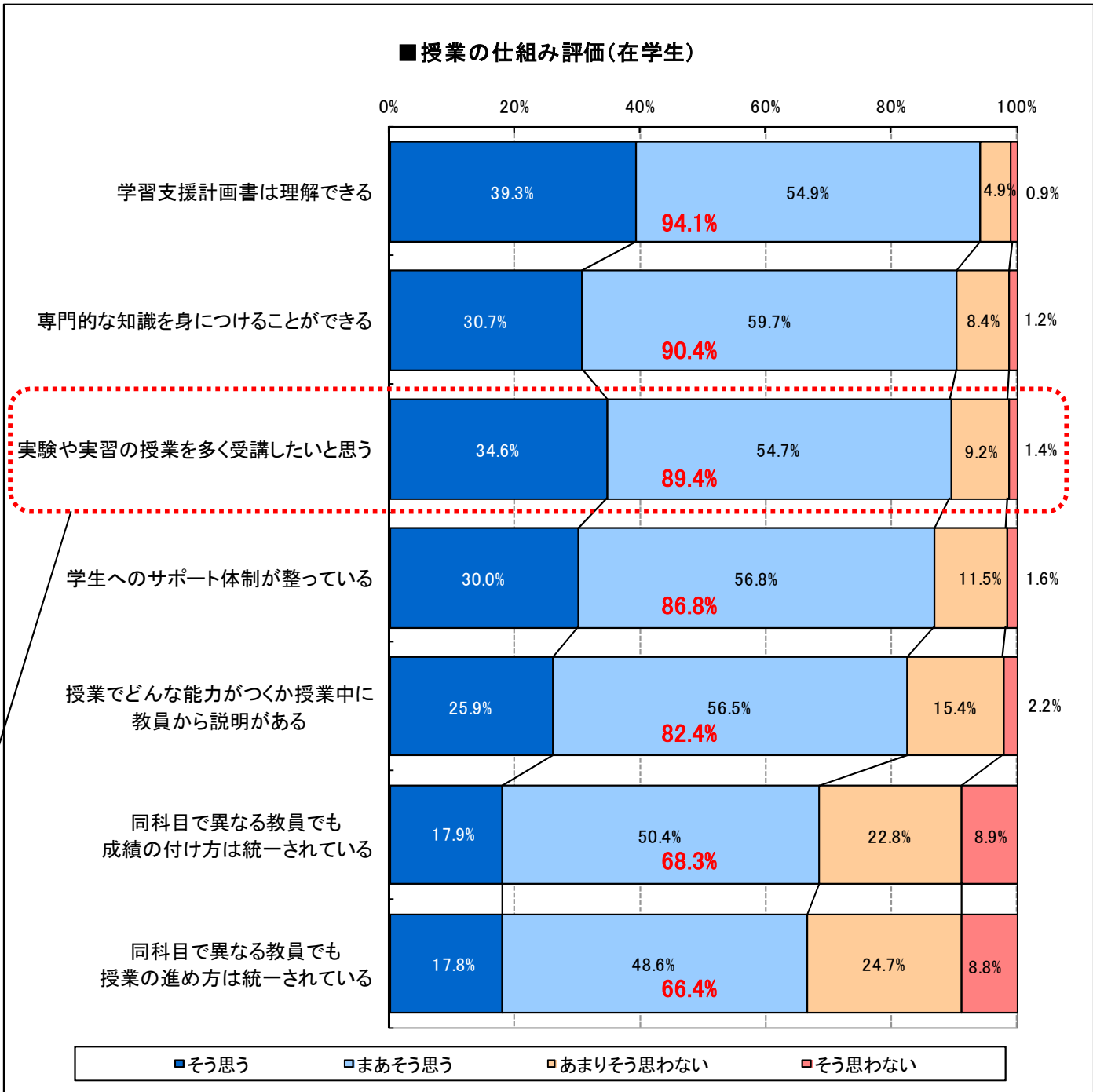


<3-3> 授業の仕組み評価

■ 授業の仕組み評価

- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く6つの質問と、要望を聞く1つの質問が混在している。
- 現状の評価で肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の94.1%であり、次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が90.4%、「学生へのサポート体制が整っている」が86.8%で続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の66.4%であり、次いで、「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」が68.3%となっていた。この2つはよく似た質問であるためよく似た結果となっているが、「同科目で異なる教員の対応」には約3割が不満ありと答えていた。
- 要望を聞く質問は「実験や実習の授業を多く受講したいと思うか？」であるが、89.4%が肯定的な回答となっていた。

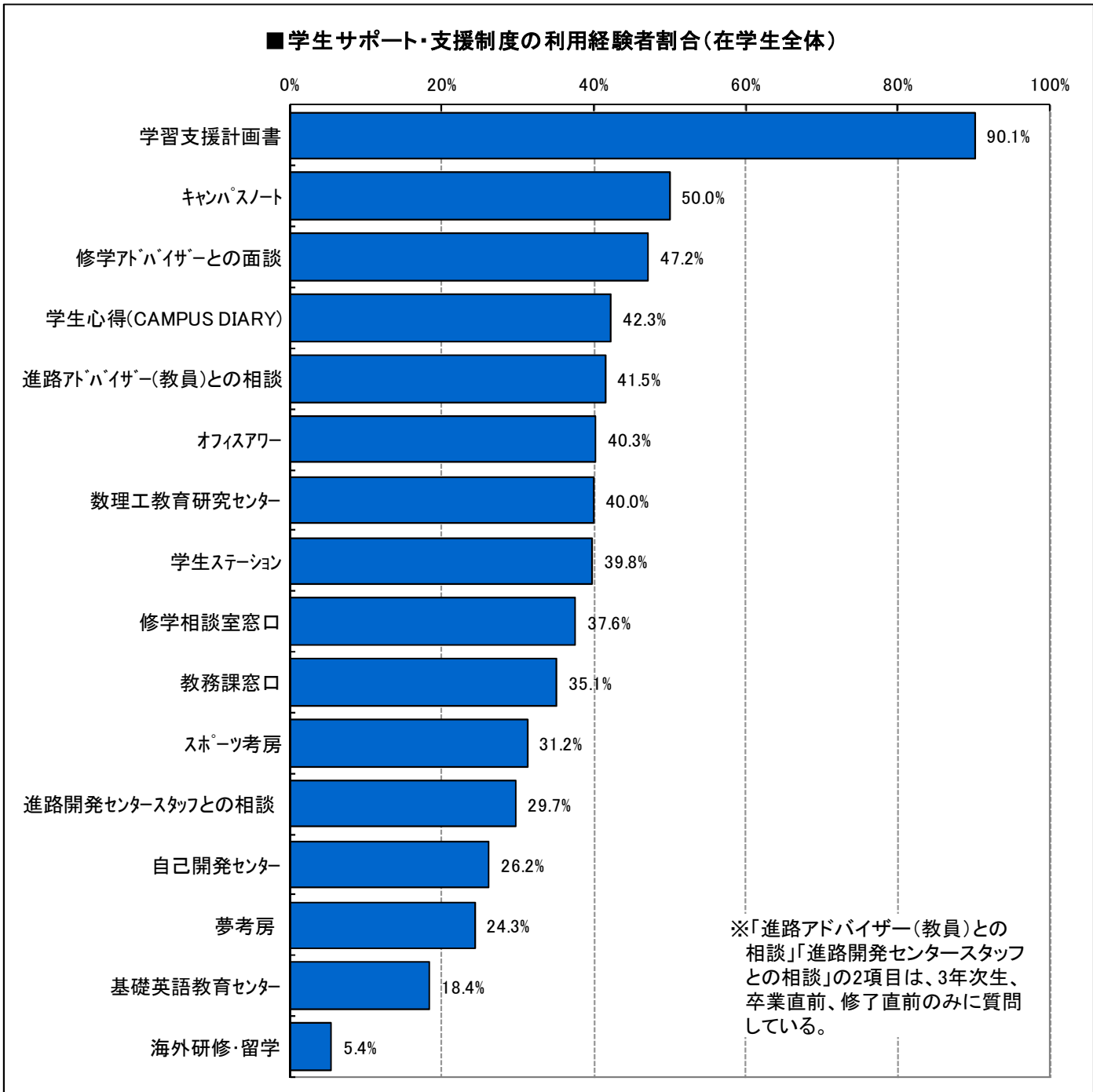
要望を聞く質問



<4-1> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

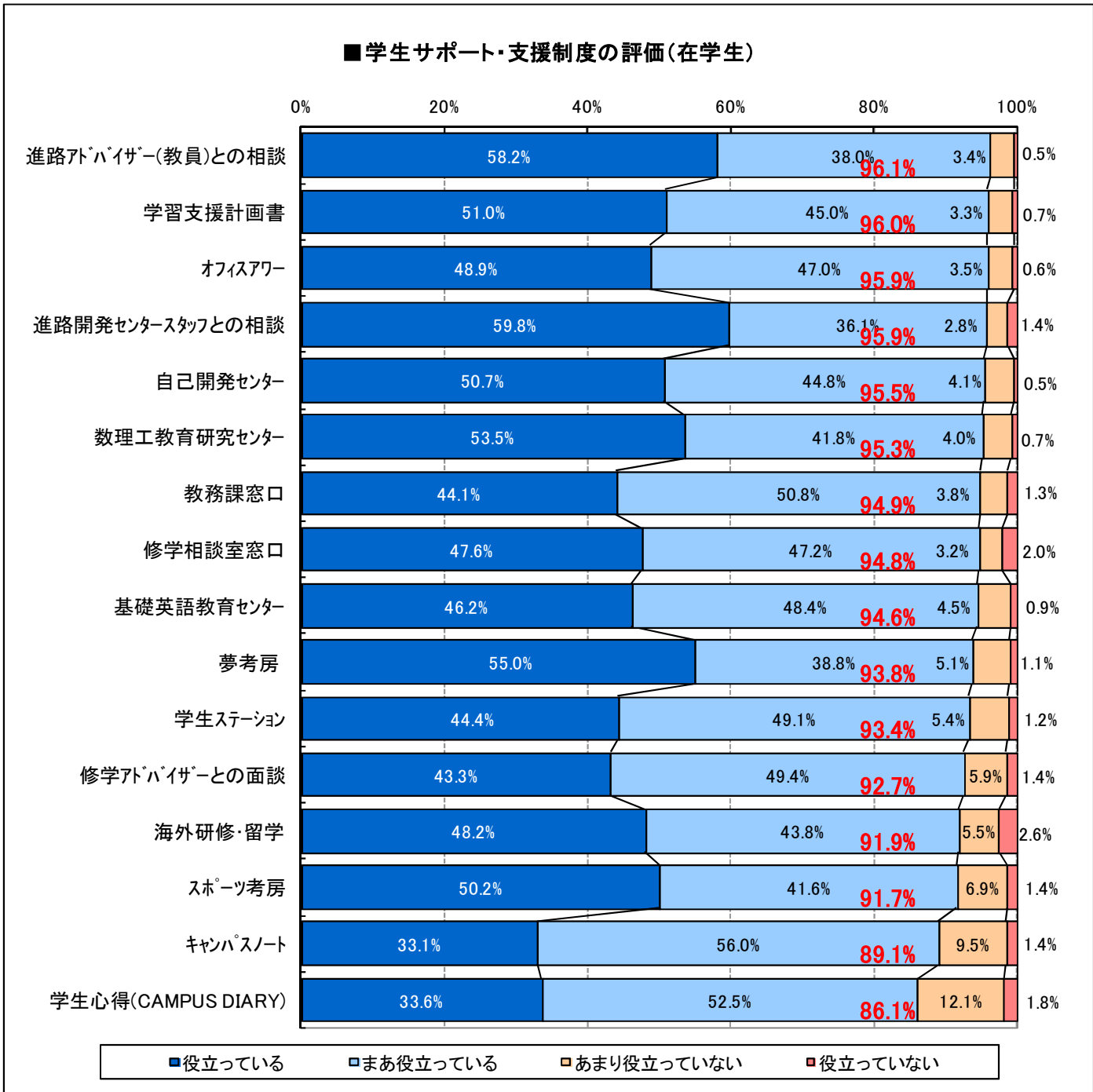
- 学生サポート・支援制度で利用経験者が最も多かったのは「学習支援計画書」の90.1%であり、高さが際立っていた。
- 上記に次いで、「キャンパスノート」が50.0%、「修学アドバイザーとの面談」が47.2%、「学生心得(CAMPUS DIARY)」が42.3%、「進路アドバイザー(教員)との相談」が41.5%と続いていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の5.4%であり、少なさが目立っていた。



<4-2> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

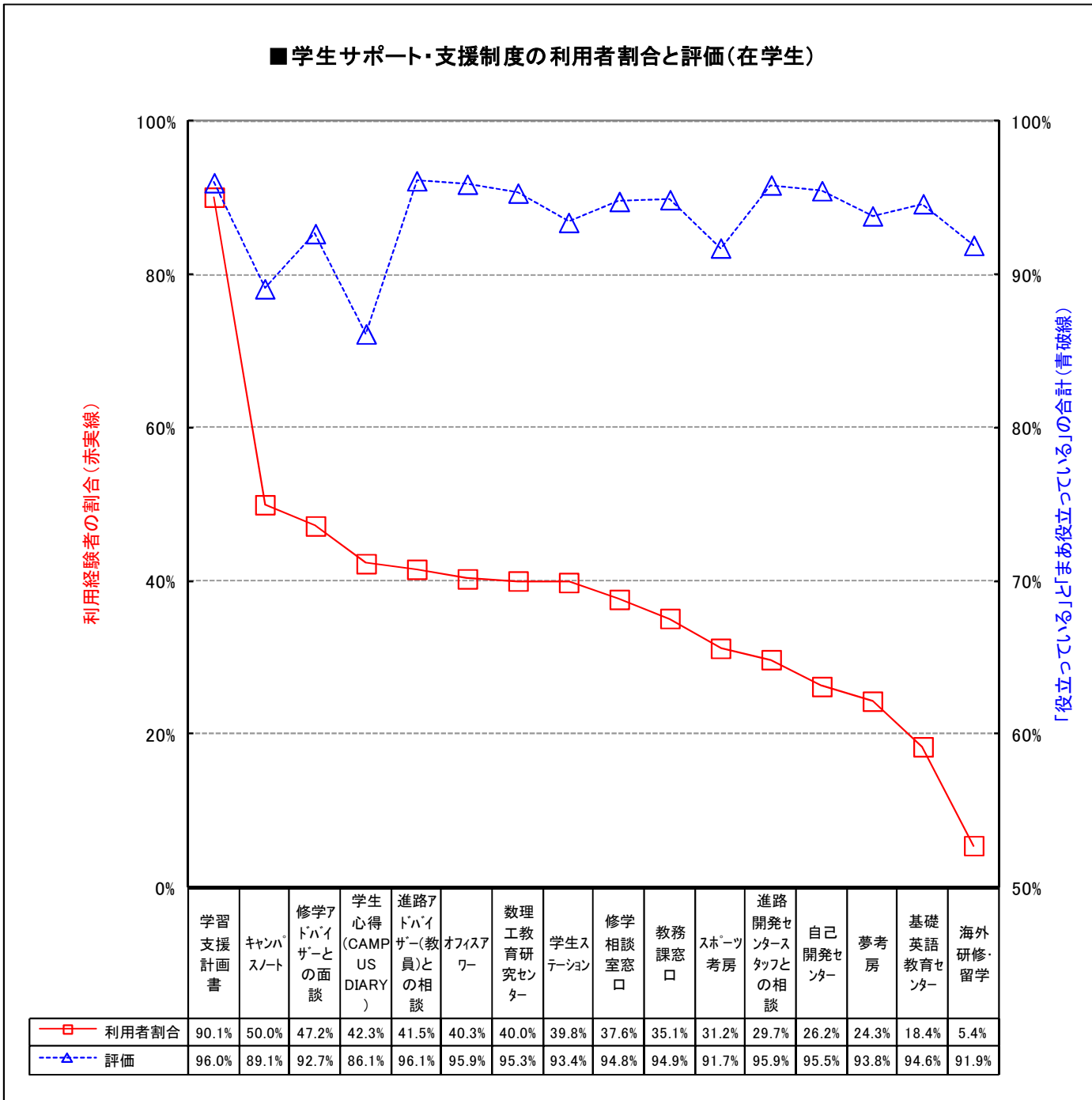
- 「学生サポート・支援制度」を「利用している」と答えた学生に、各々のサポート・支援策の評価を聞いたところ、いずれも85%以上が肯定的な意見であった。
- 最も評価が高かったのは、「進路アドバイザー(教員)との相談」の96.1%であり、「学習支援計画書」が96.0%、「オフィスアワー」と「進路開発センタースタッフとの相談」が95.9%と続いていたが、上位の14項目は肯定的な意見が9割を超えていた。
- 肯定的な意見が9割に満たなかったのは「学生心得(CAMPUS DIARY)」と「キャンパスノート」の2項目であるが、これらも肯定的な意見は各々86.1%、89.1%であり、非常に高い評価であった。



<4-3> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

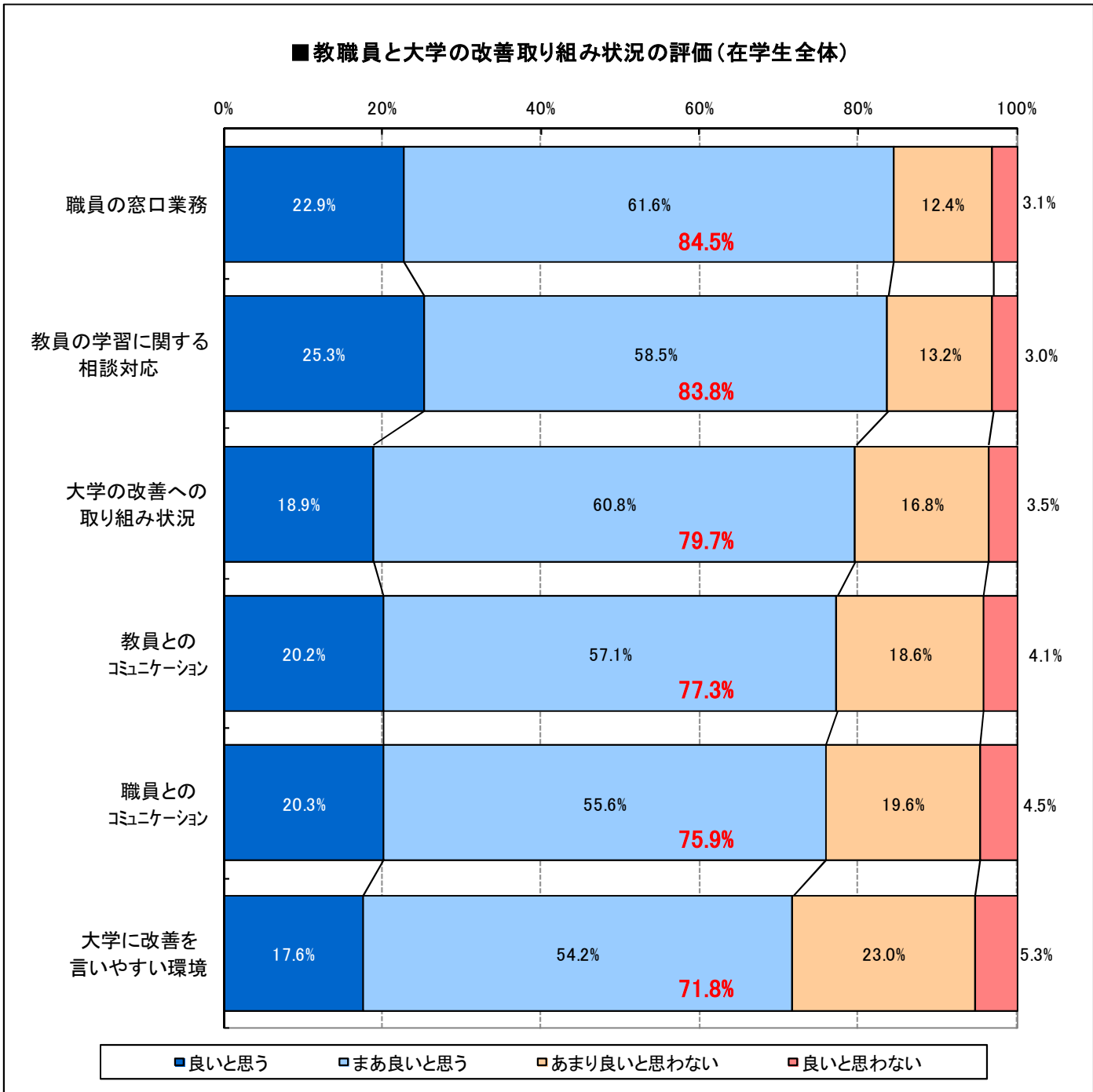
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を1つのグラフにまとめて、関係性を見ている。赤い実線は利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合を見ると、「学習支援計画書」の90.1%と、「海外研修・留学」の5.4%が突出しており、他の項目は約2割から約5割に収まっていた。
- 一方、評価を見ると、2項目をのぞいて9割以上が肯定的な意見となっており、利用経験者の多い少ないに関わらず、各々の評価は非常に高いことが分かった。



<4-4>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

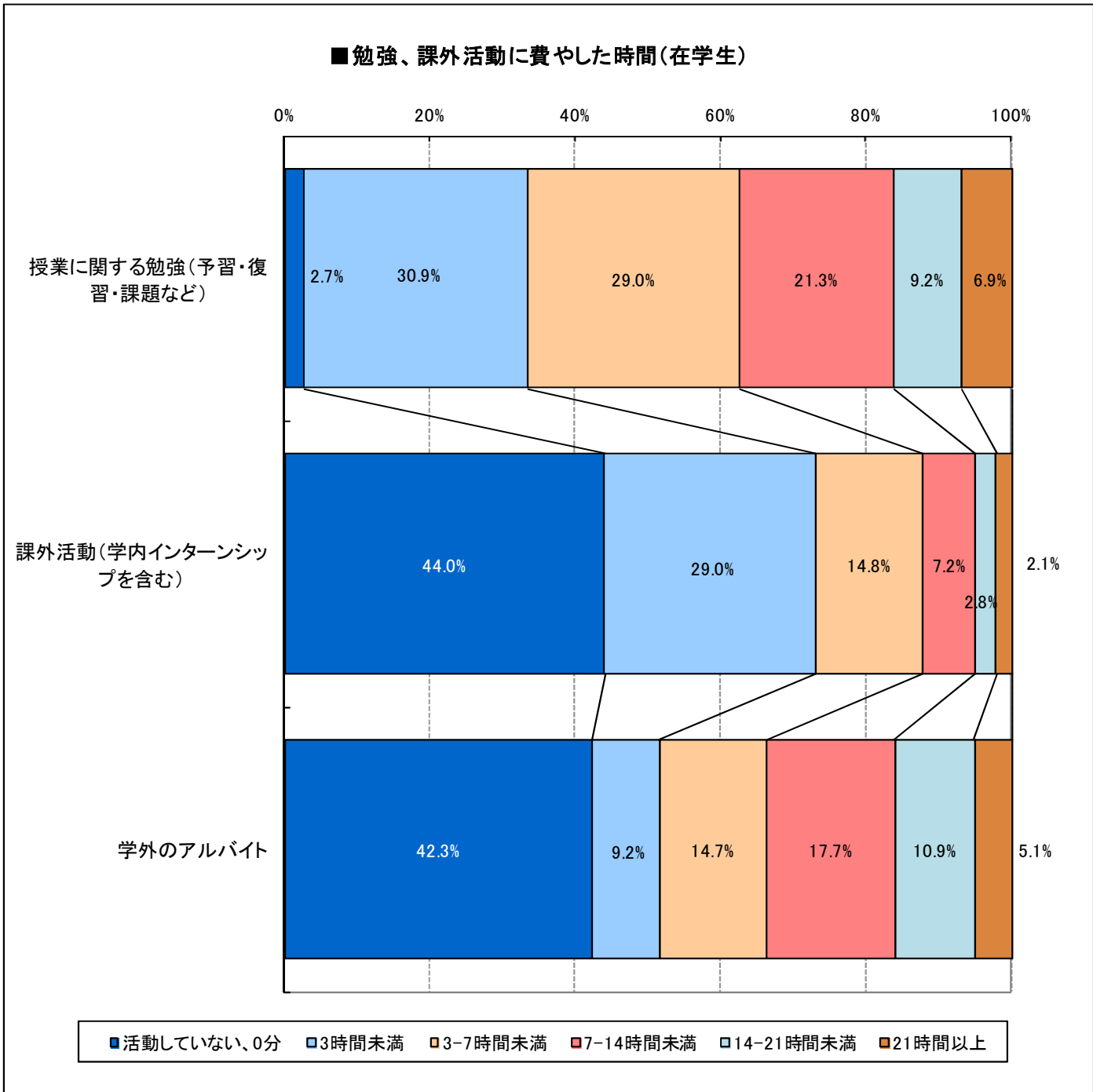
- 教職員と大学の改善取り組み状況の評価で肯定的な意見が最も多かったのは「職員の窓口業務」の84.5%であり、次いで、「教員の学習に関する相談対応」が83.8%、「大学の改善への取り組み状況」が79.7%となっていた。
- 「良いと思う」だけを見ると、「教員の学習に関する相談対応」が25.3%で最も多かったが、突出したものではなく、他を見ても差は少なかった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」の71.8%であったが、否定的な意見は3割弱で、それほど厳しい評価ではなかった。



<4-5> 勉強、課外活動に費やした時間

■ 勉強、課外活動に費やした時間

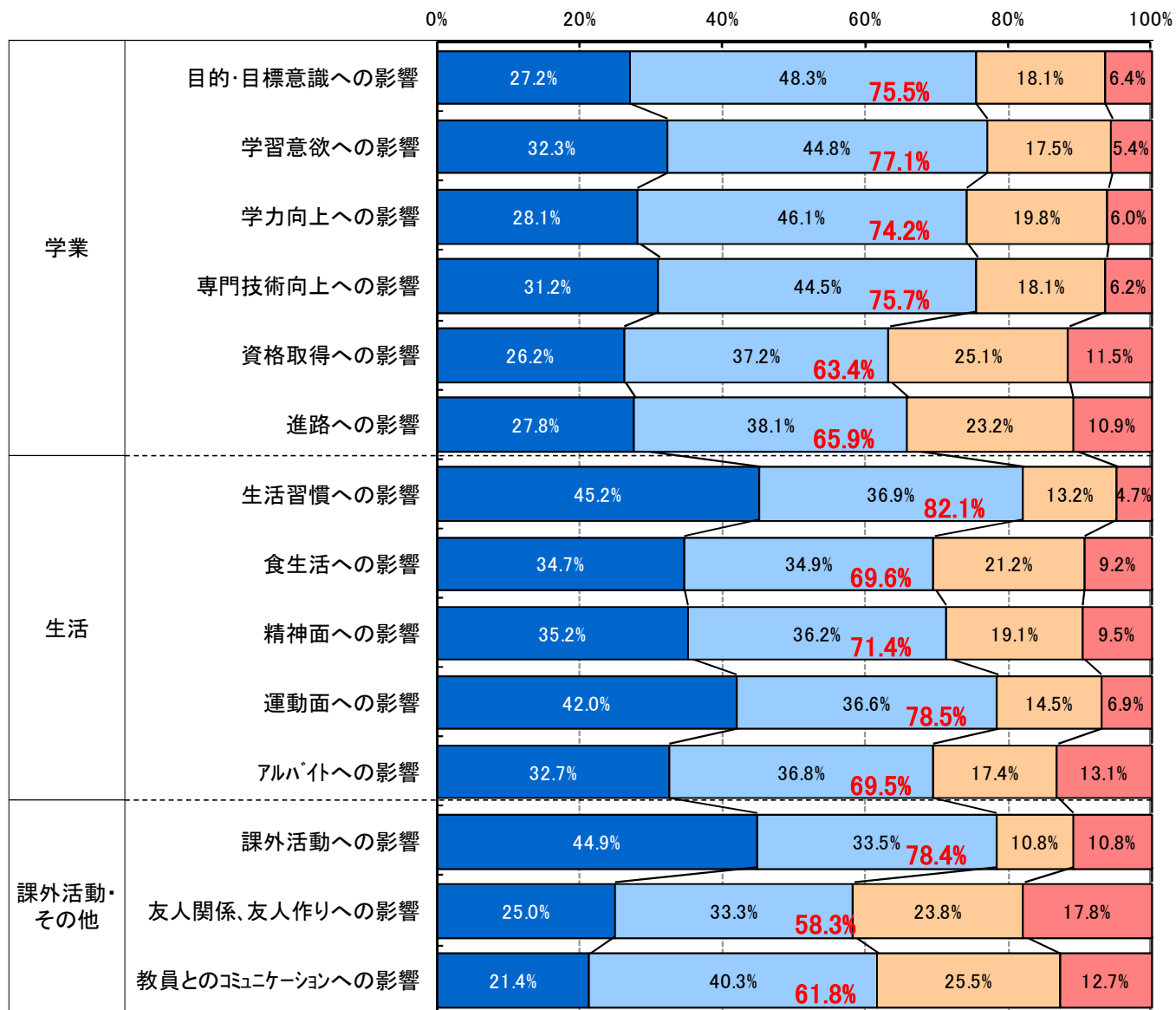
- 勉強、課外活動に費やした時間は、普段の1週間の生活の中で費やした時間(1週間の合計)を聞いている。
- 「授業に関する勉強(予習・復習・課題など)」では「活動していない、0分」が2.7%、「3時間未満」が30.9%、「3-7時間未満」が29.0%であった。そして、「7-14時間未満」が21.3%、「14-21時間未満」が9.2%、「21時間以上」が6.9%であり、「1日に1時間以上」の合計は37.4%であった。
- 「課外活動(学内インターンシップを含む)」では「活動していない、0分」が44.0%と半数近かった。そして、「3時間未満」が29.0%、「3-7時間未満」が14.8%であり、「1日に1時間以上」の合計は12.1%であった。
- 「学外のアパート」では「活動していない、0分」が42.3%であり、「3時間未満」が9.2%、「3-7時間未満」が14.7%であり、「1日に1時間以上」の合計は33.7%であった。
- 「1日に1時間以上」を費やすのは「授業に関する勉強」の37.4%が最も多く、次いで「学外のアパート」が33.7%が内訳でもよく似ており、最も少なかったのは「課外活動」の12.1%であった。



■ 学生生活へのコロナ禍の影響

- 学生生活へのコロナ禍の影響は2021年に追加した項目であるが、「学業」「生活」「課外活動・その他」の各分野に関して、「影響があった」～「影響はなかった」の4択で聞いている。
- 「影響があった」と「やや影響があった」の合計で比較したところ、「学業」の中で最もコロナ禍の影響が大きかったのは、「学習意欲への影響」の77.1%であったが、「専門技術向上」「目的・目標意識」「学力向上」に対する影響もほぼ同じで、影響は大きかった。
- 「生活」に関しては、「生活習慣への影響」が82.1%、「運動面」が78.5%と大きかった。特にこの2項目は「影響があった」も4割を超えており、他の項目と比べて影響は大きいようであった。
- 「課外活動・その他」では「課外活動への影響」が78.4%と大きかった。
- 一方、3つの分野を通して、影響が少なかったものを見ると、「友人関係、友人作りへの影響」が58.3%と最も少なく、「教員とのコミュニケーション」が61.8%、「資格取得」が63.4%、「進路」が65.9%となっていた。他と比べると影響は小さいが、約6割が影響を受けているという回答であり、苦労している様子が見える。

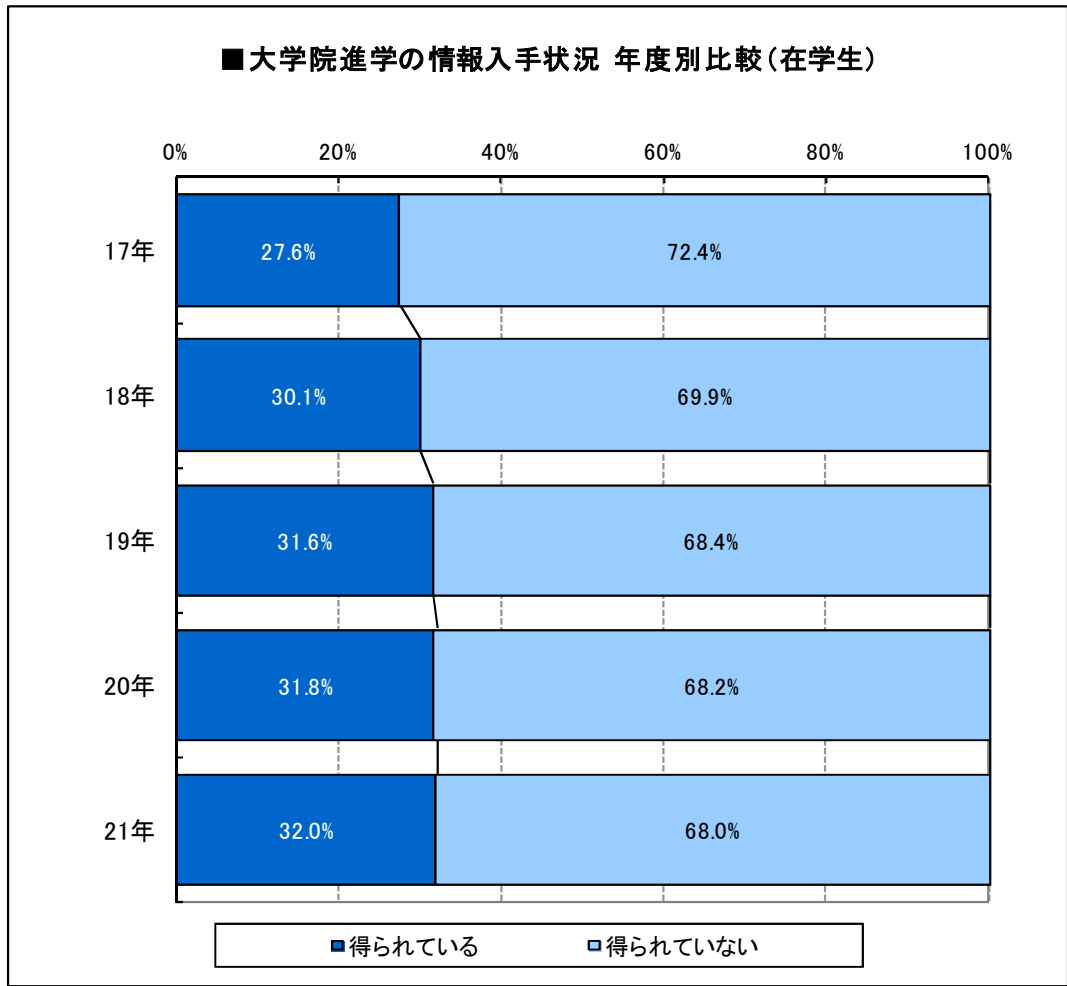
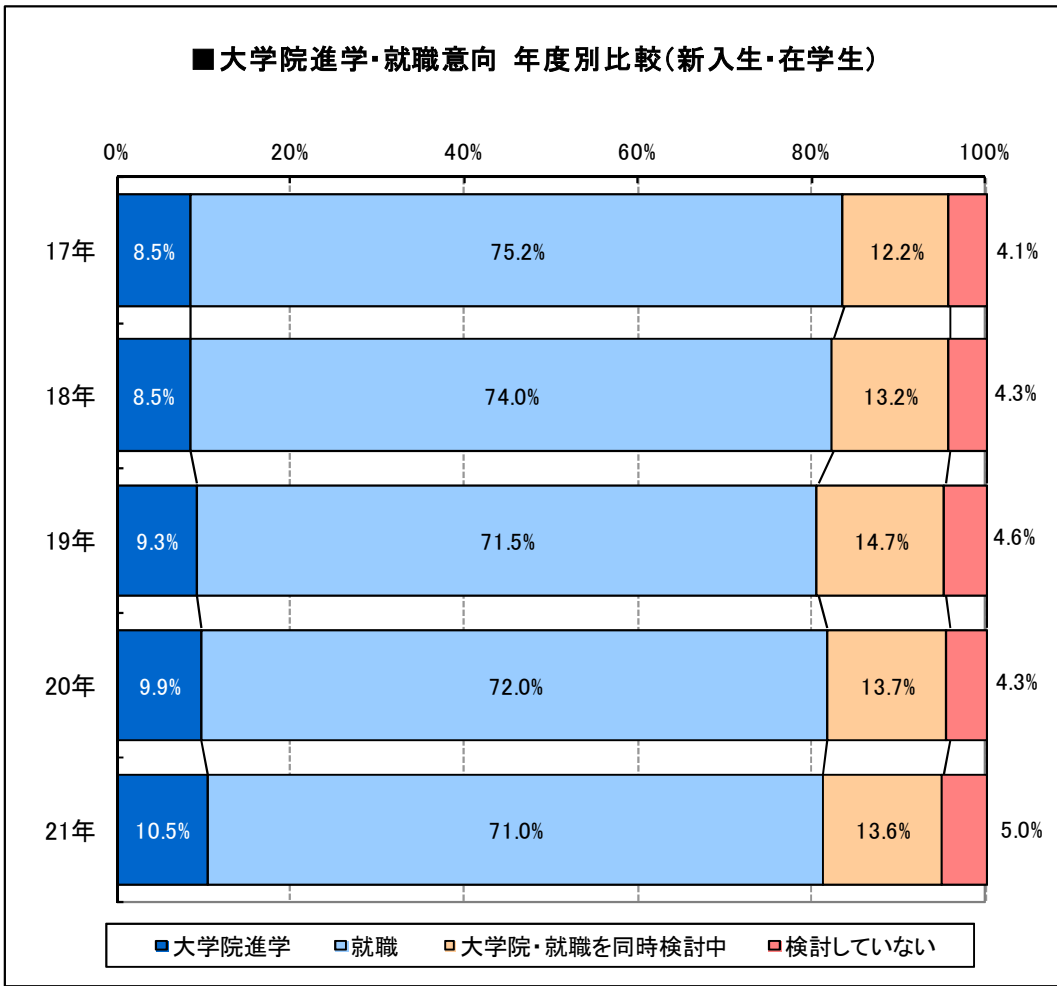
■ 学生生活へのコロナ禍の影響



■ 影響があった □ やや影響があった □ あまり影響はなかった □ 影響はなかった

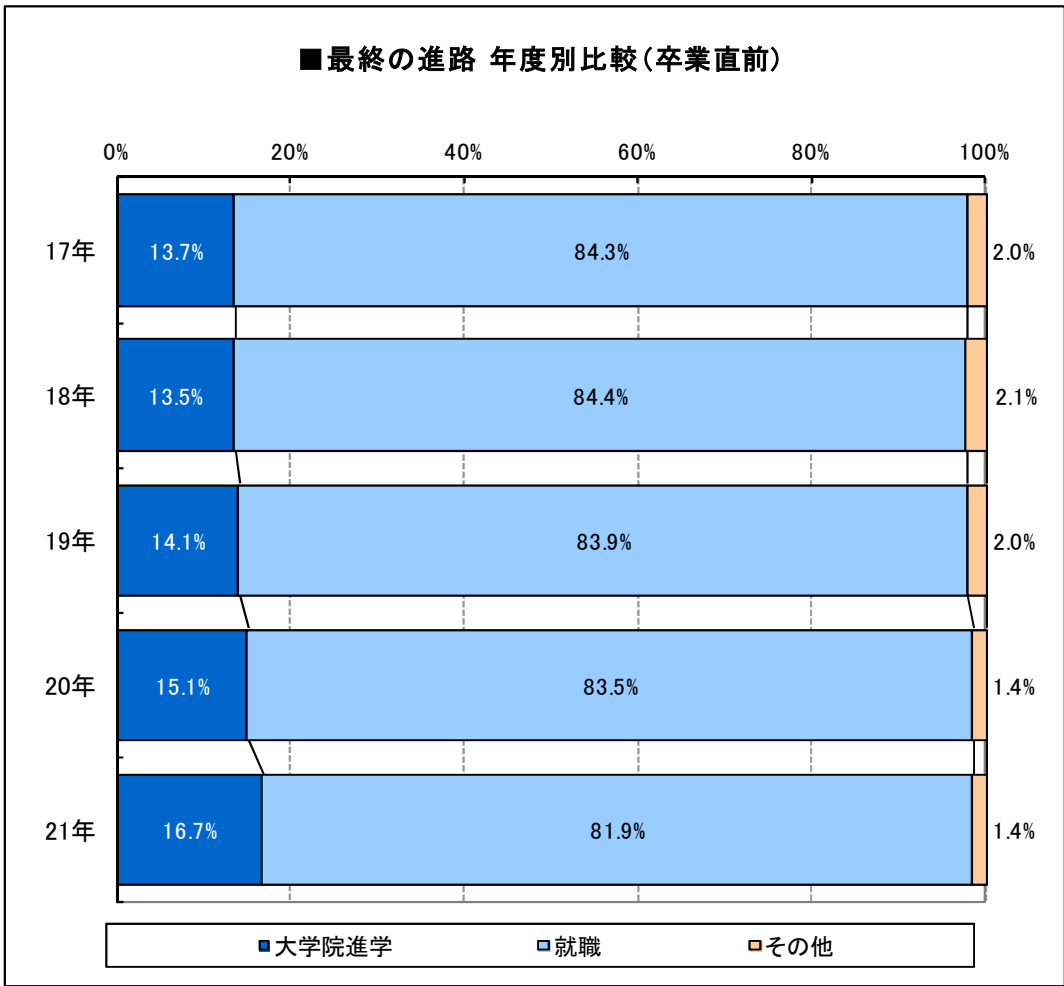
■ 大学院進学・就職意向、情報の入手状況

- 今回の「大学院進学・就職意向」を見ると、「就職」が71.0%と大多数を占めており、「大学院・就職を同時検討中」が13.6%、「大学院進学」が10.5%、「検討していない」が5.0%となっていた。年度別には大きな変化はないものの、「大学院進学」は継続的に増加傾向が続いていた。
- 「大学院進学の情報は何処から得られていますか？」という質問に対しては、「得られている」が32.0%、「得られていない」が68.0%となっていた。年度別は前回とほぼ同じであったが、「得られている」はわずかずつではあるが増加傾向が続いていた。



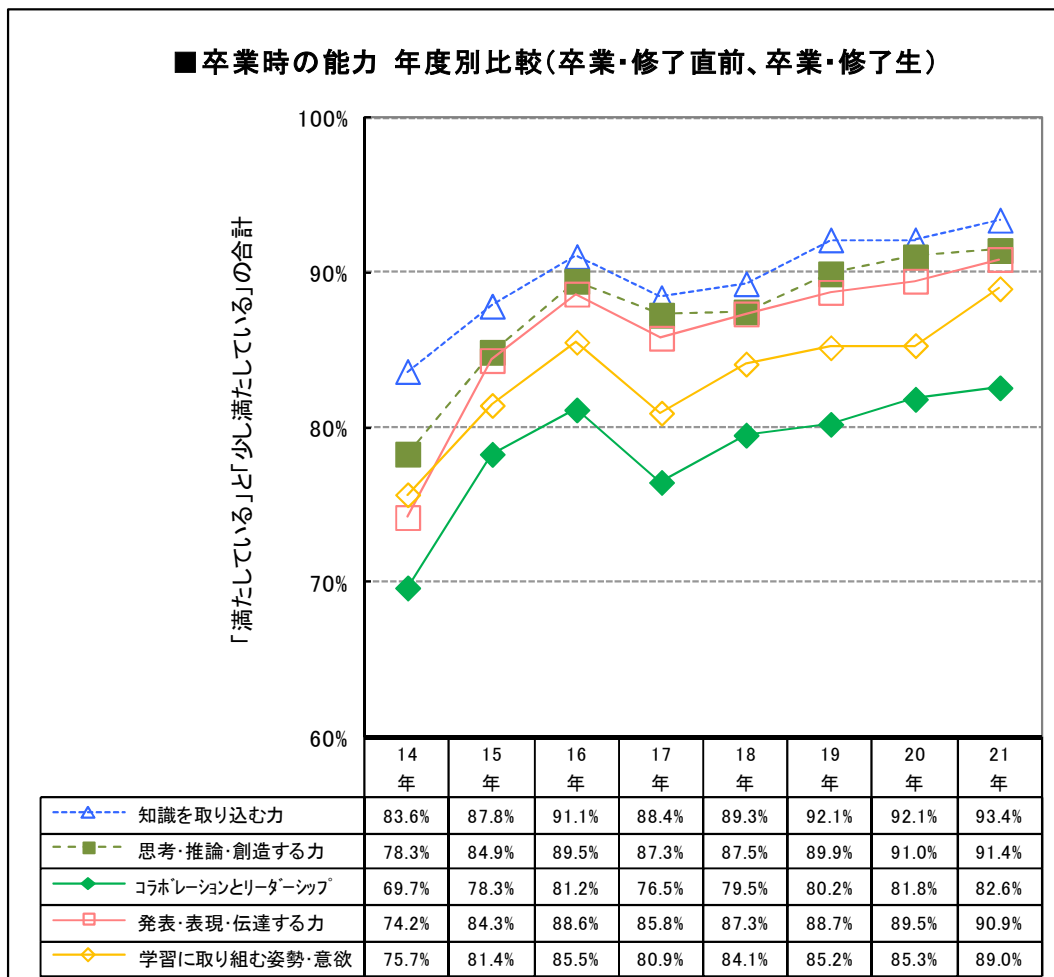
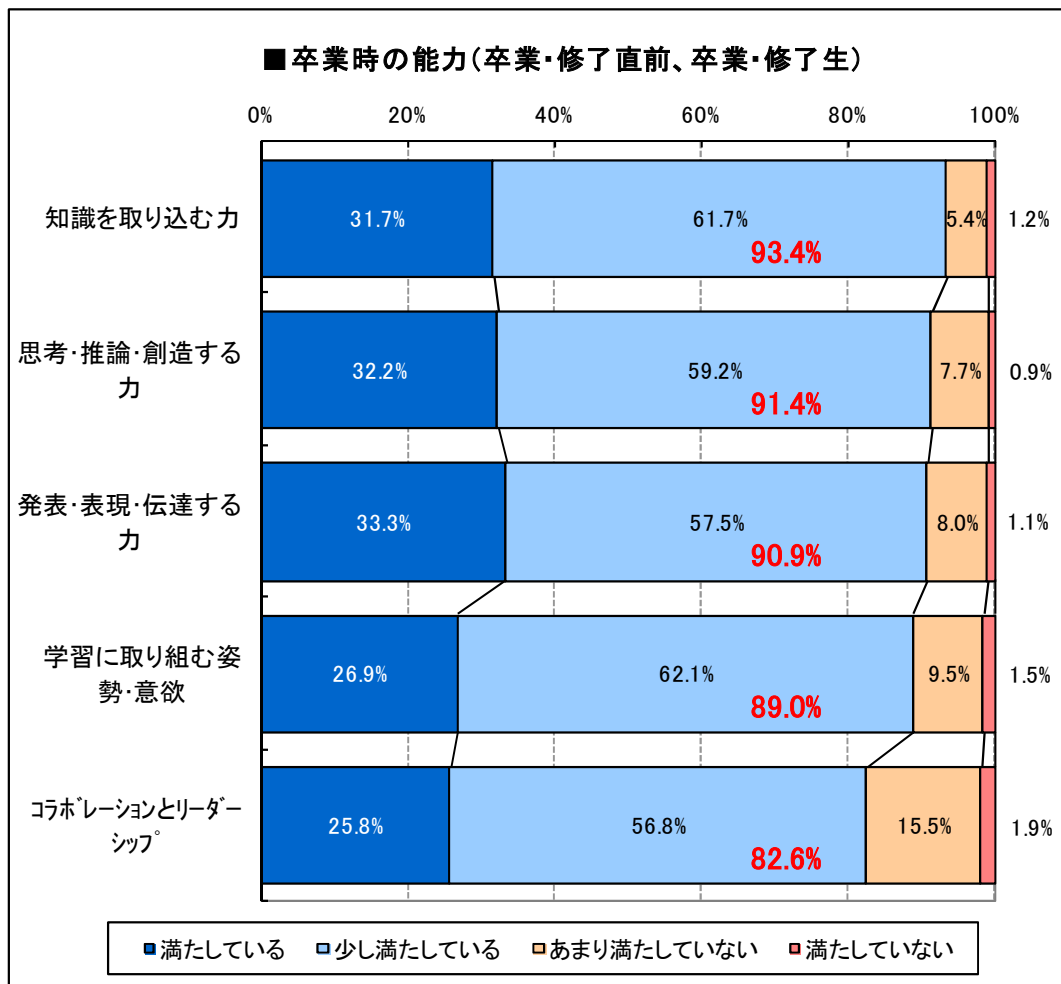
■最終の進路

● 「卒業直前」の学生に「最終の進路」を聞いているが、やはり「就職」が81.9%と大多数を占めており、「大学院進学」が16.7%、「その他」が1.4%となっていた。年度別比較では大きな変化はなかったが、18年からの「大学院進学」の増加傾向が続いていた。



■卒業時の能力 年度別比較

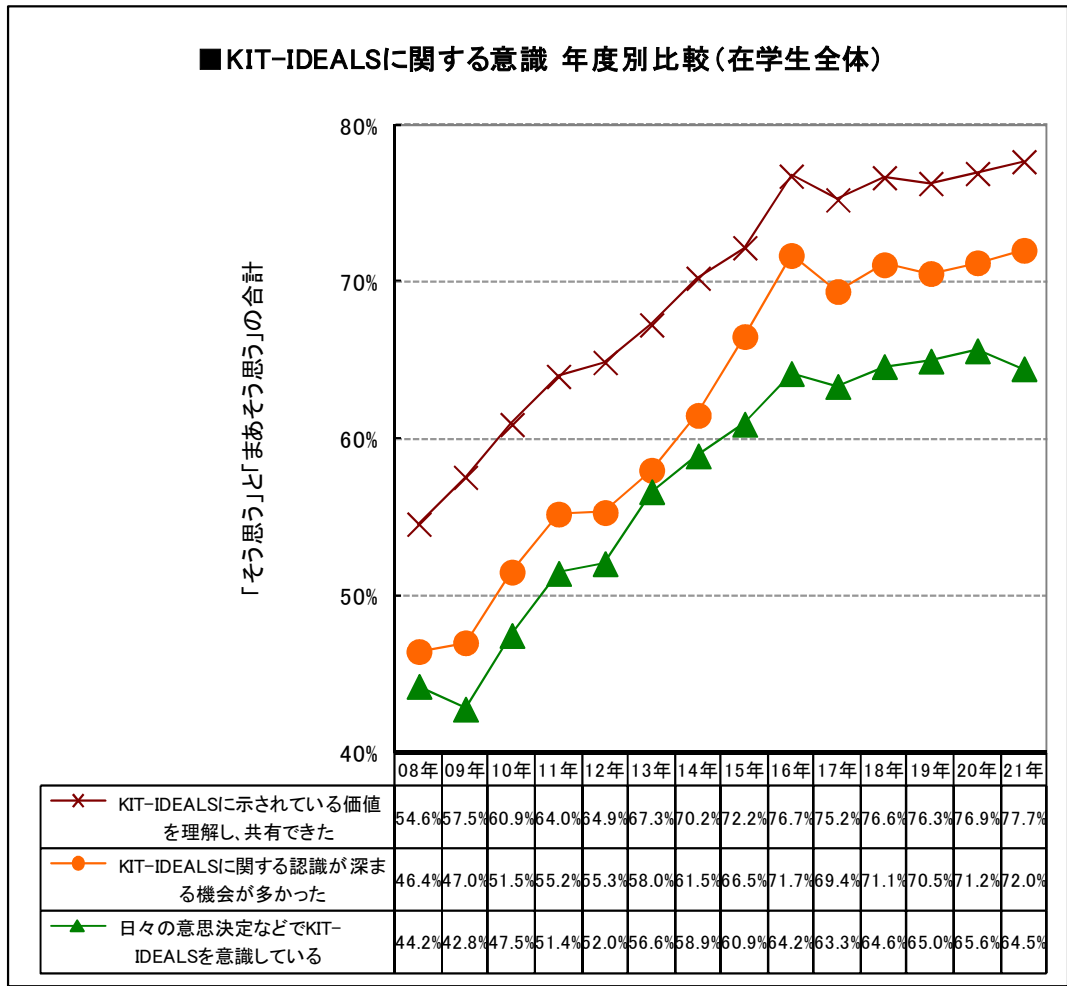
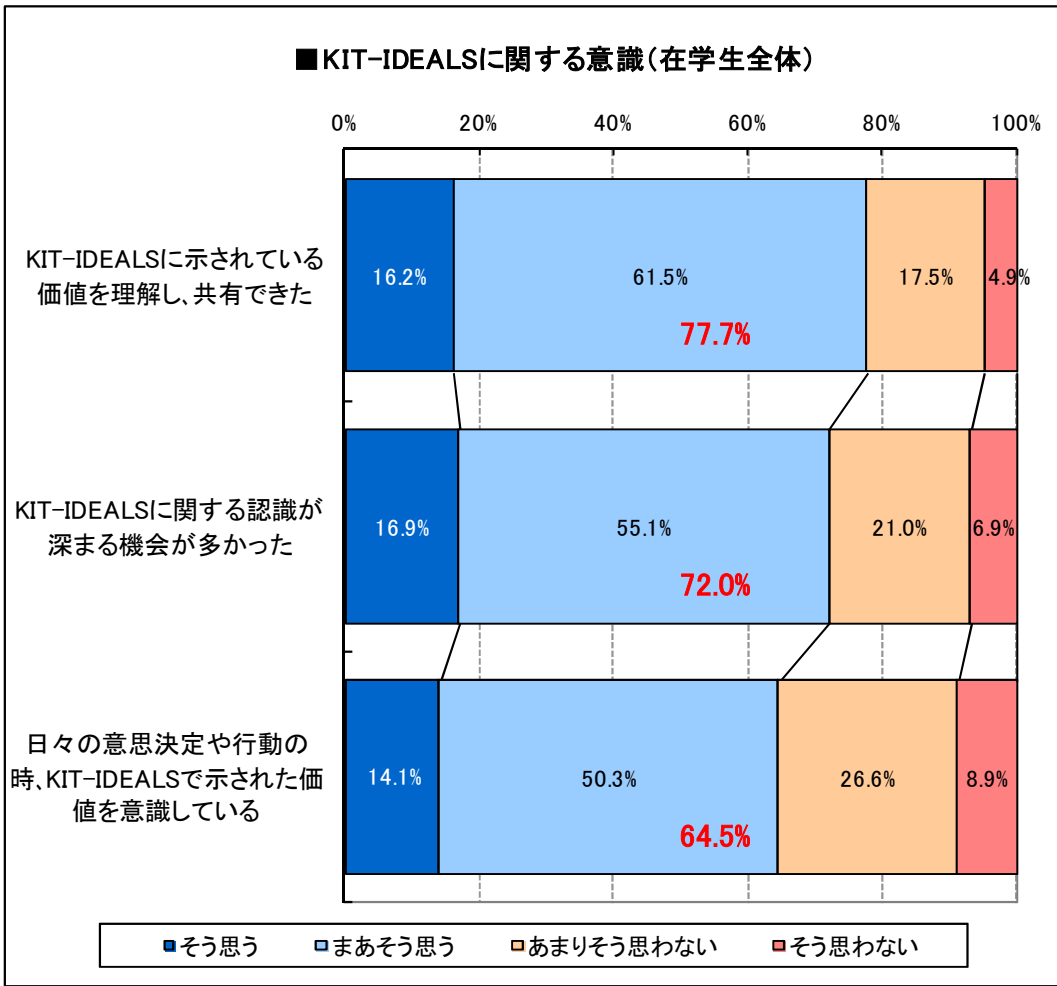
- 「卒業時の能力」の自己評価で肯定的な意見が最も多かったのは、「知識を取り込む力」の93.4%であり、「思考・推論・創造する力」が91.4%、「発表・表現・伝達する力」が90.9%であった。そして、最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」の82.6%であった。
- 年度別に比較したところ、5項目ともに前回は上回っていた。全体的に2017年から継続的に向上する傾向が続いており、今回はすべて過去最高の自己評価となっていた。



<6-1>KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識、年度別比較

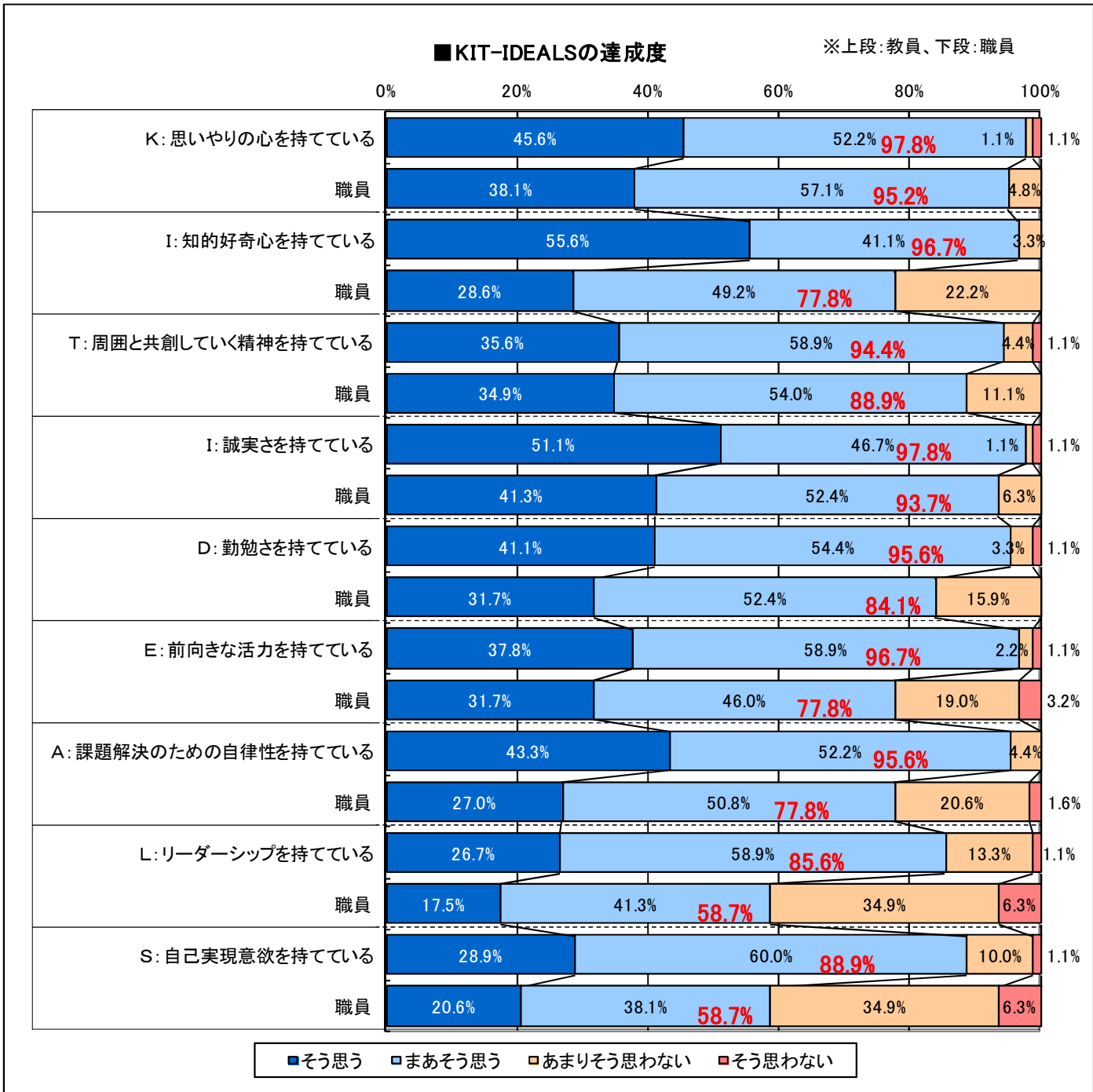
- KIT-IDEALSに関する意識の肯定的な意見は、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」が77.7%、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」が72.0%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」が64.5%であった。
- 年度別に比較したところ、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」と「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」が過去最高となっていた。



<6-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

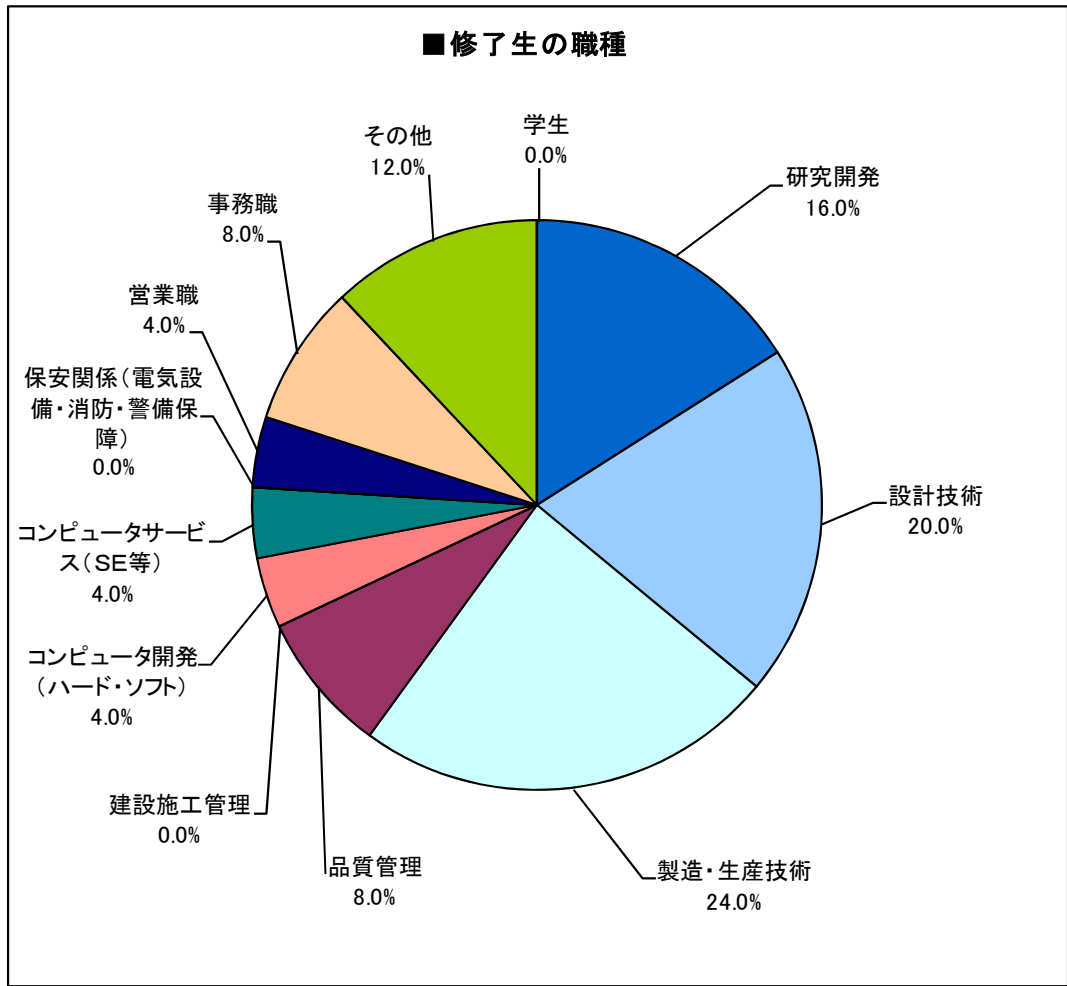
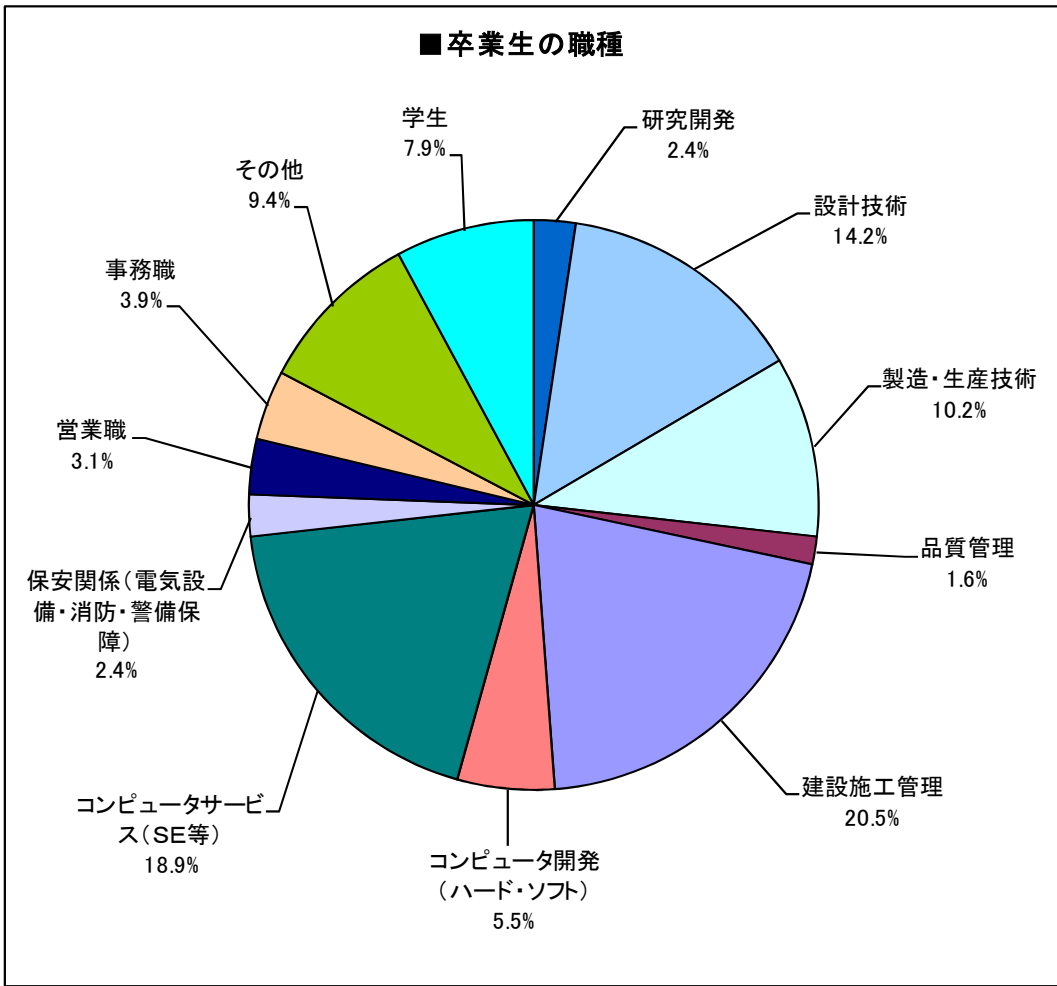
- 教職員のKIT-IDEALSの達成度(肯定的な意見の合計)を見ると、すべての項目で「教員」の達成度のほうが高く、「職員」ではやや低いものも見られた。
- 「教員」で達成度が最も高かったのは、「K:思いやりの心を持っている」と「I:誠実さを持っている」の97.8%であり、「I:知的好奇心を持っている」と「E:前向きな活力を持っている」が96.7%で続いていた。そして、達成度が9割を下回ったのは「L:リーダーシップを持っている」の85.6%と「S:自己実現意欲を持っている」の88.9%の2項目だけであった。
- 「職員」の達成度はすべて「教員」を下回っていたものの、「K:思いやりの心を持っている」の95.2%、「I:誠実さを持っている」の93.7%など、教員と変わらないものも見られた。「職員」では達成度が目立って低いものもあり、「L:リーダーシップを持っている」と「S:自己実現意欲を持っている」は58.7%、「I:知的好奇心を持っている」「E:前向きな活力を持っている」「A:課題解決のための自律性を持っている」はいずれも77.8%と、8割を下回っていた。



<7-1>卒業・修了生の基本属性

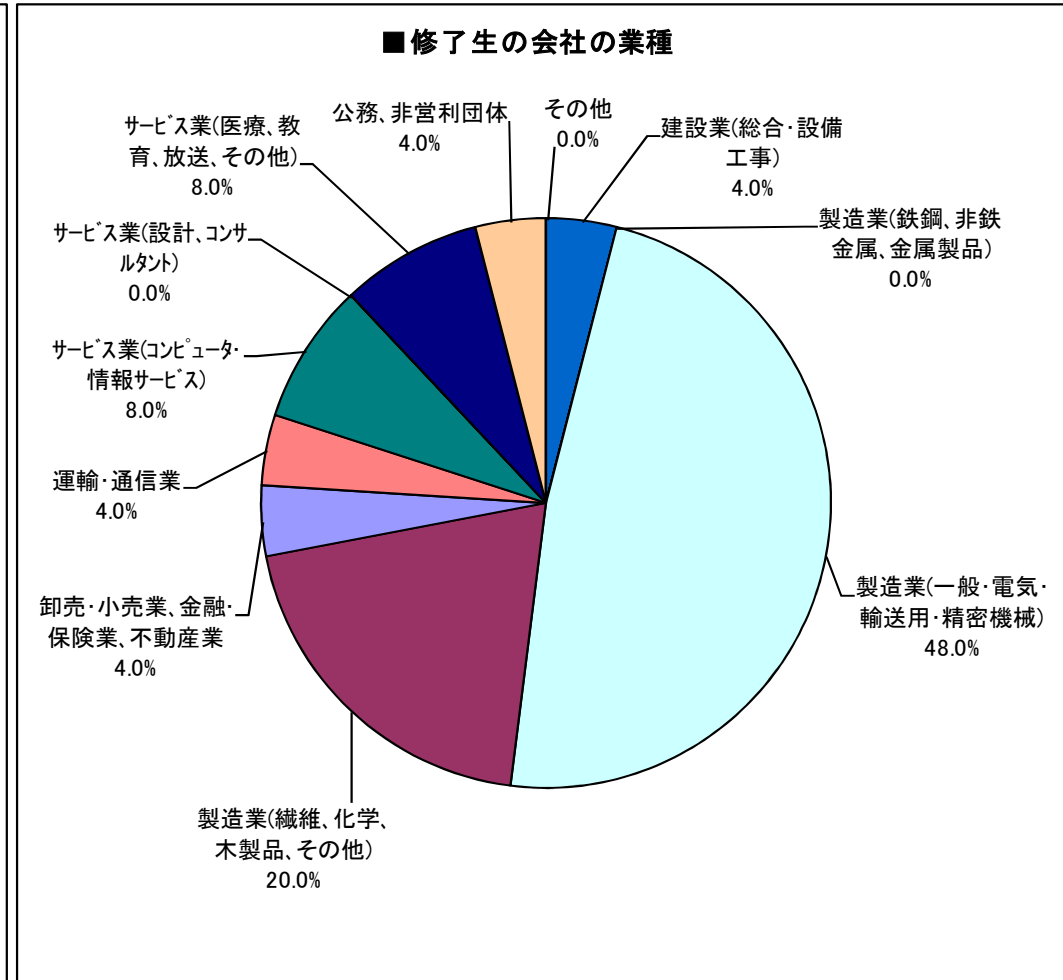
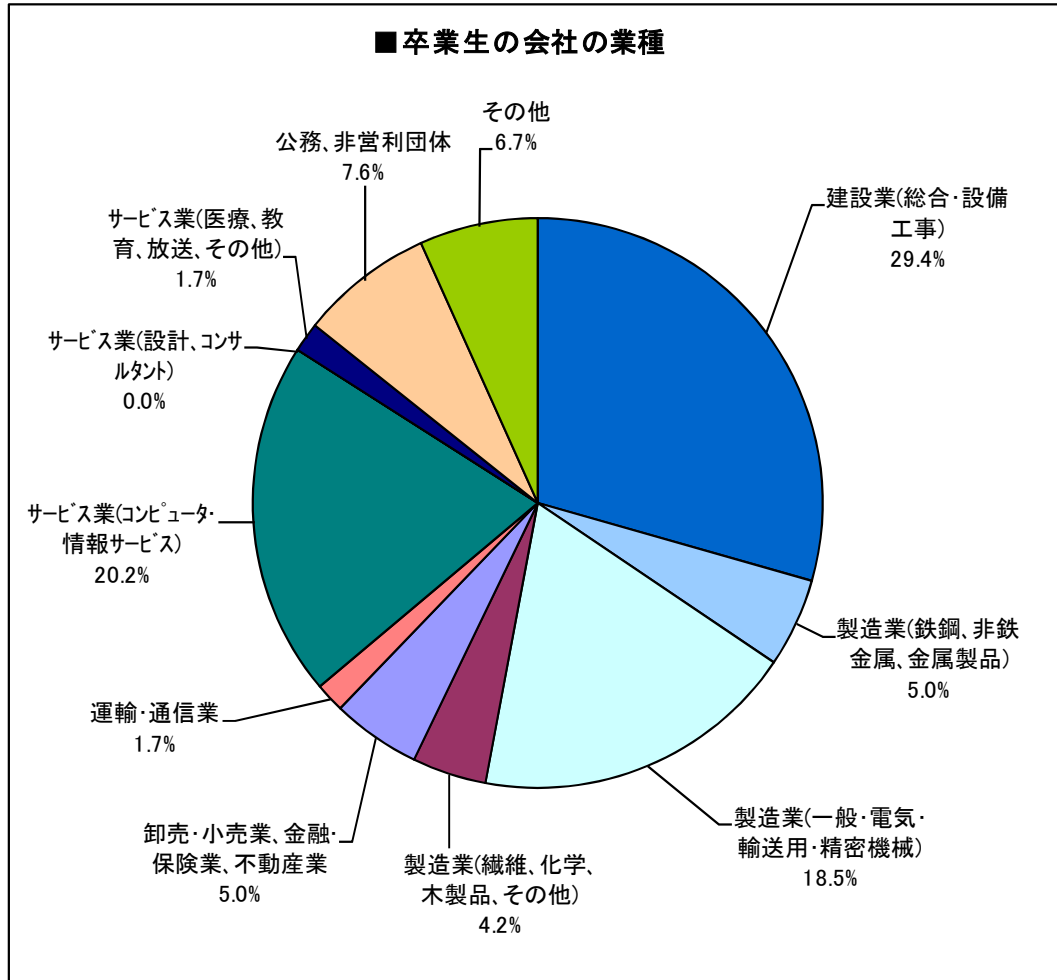
■現在の職種

- 卒業生の職種では「建設施工管理」が20.5%で最も多く、次いで、「コンピュータサービス(SE等)」が18.9%、「設計技術」が14.2%、「製造・生産技術」が10.2%と続いていた。
- 修了生の職種では「製造・生産技術」が24.0%で最も多く、次いで、「設計技術」が20.0%、「研究開発」が16.0%、「その他」が12.0%と続いていた。



■現在の会社の業種

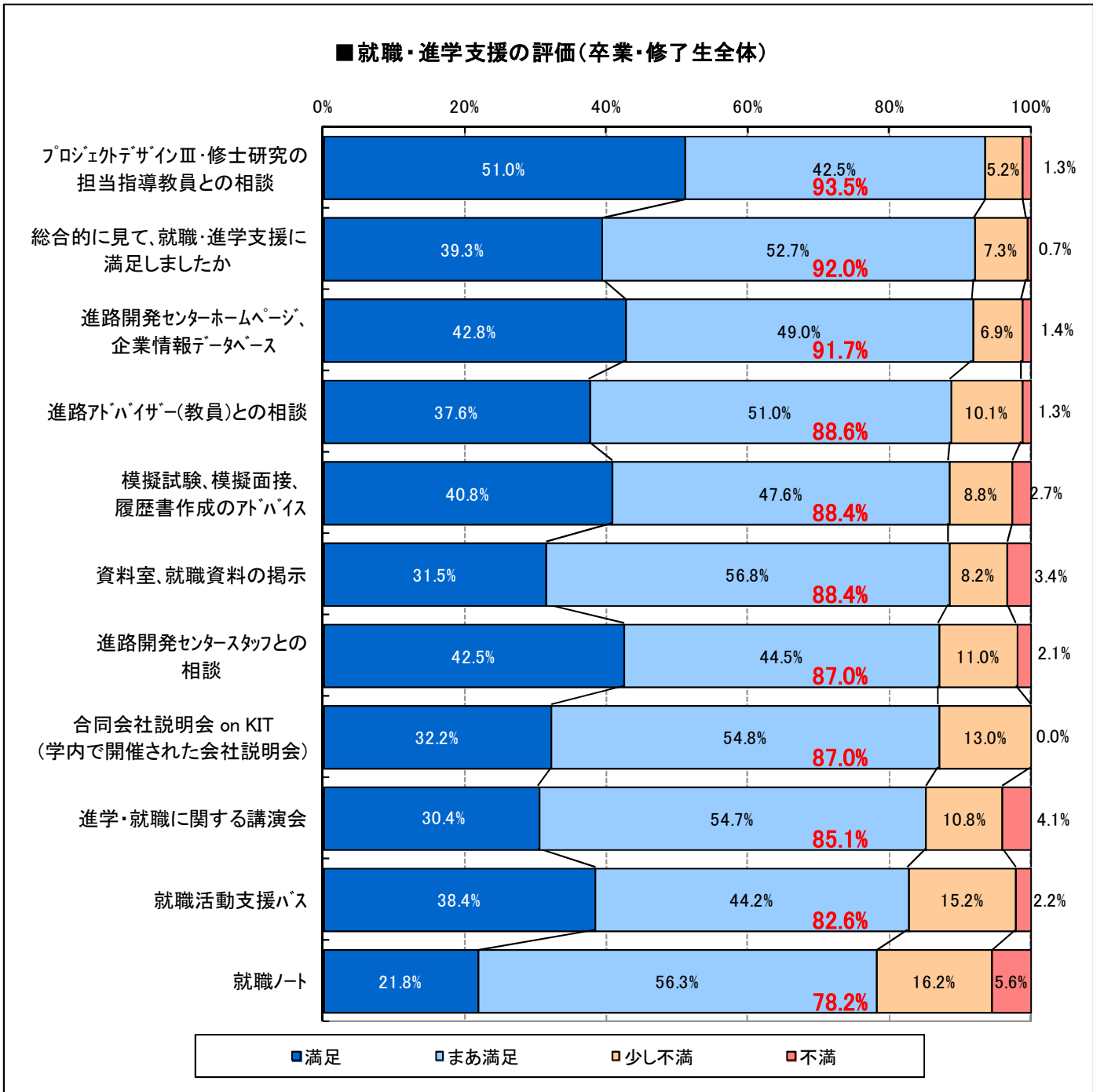
- 卒業生の会社の業種では「建設業(総合・設備工事)」が29.4%で最も多かった。次いで、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が20.2%、「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が18.5%であり、この3業種の多さが目立っていた。
- 修了生では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が48.0%と約半数を占めていた。次いで、「製造業(繊維、化学、木製品、その他)」が20.0%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」と「サービス業(医療、教育、放送、その他)」が8.0%であった。



<7-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

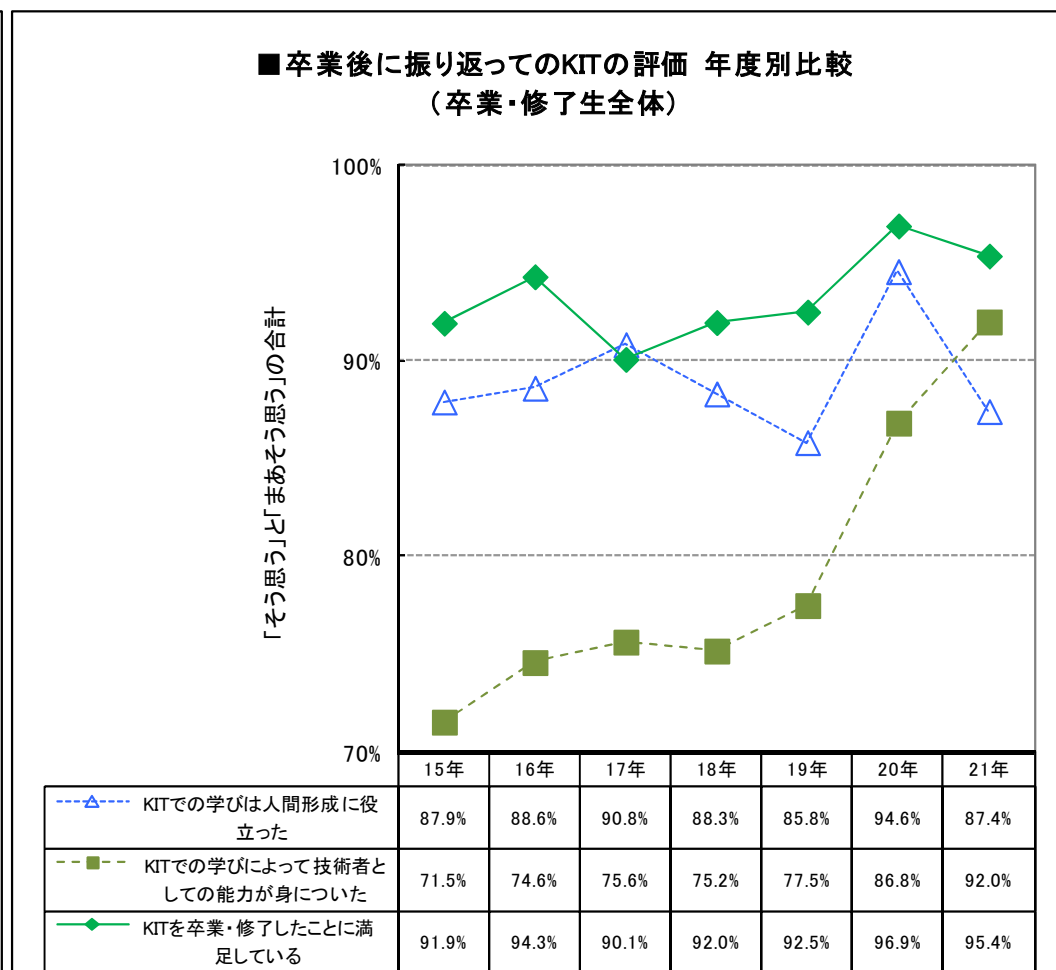
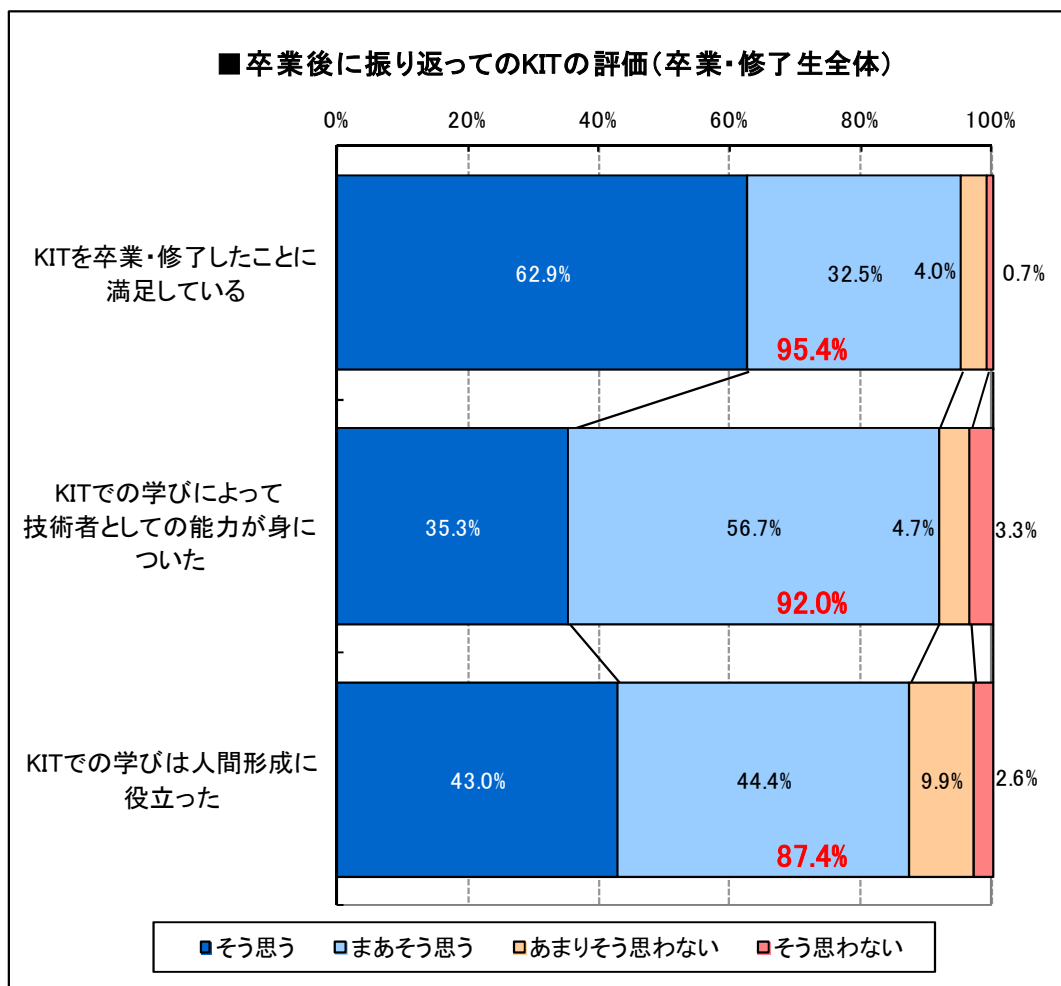
- 就職・進学支援策の満足度は「卒業・修了生」に聞いているが、最終的な評価である「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」に対しては、「満足」が39.3%、「まあ満足」が52.7%であり、合わせると満足度は92.0%と高いものであった。
- 項目別に見ると、満足度が最も高かったのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」の93.5%であった。次いで、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が91.7%、「進路アドバイザー（教員）との相談」が88.6%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」の78.2%であり、「満足」が21.8%と少ない点が特徴的であった。そして、「就職活動支援バス」が82.6%、「進学・就職に関する講演会」が85.1%となっていたが、いずれも決して低くない評価であり、不満という意見は約2割であった。



<7-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価 年度別比較

- 卒業後に振り返ってのKITの評価は「卒業生」と「修了生」にのみ聞いている。
- まず、「KITを卒業・修了したことに満足している」に対しては「そう思う」が62.9%と6割を超えており、「まあそう思う」の32.5%を加えると、満足度は95.4%と非常に高かった。
- 上記に次いで、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」は92.0%、「KITでの学びは人間形成に役立った」は87.4%が肯定的な意見であり、これらも非常に高い評価であった。
- 年度別に比較したところ、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」は前回は上回って過去最高となったものの、「KITを卒業・修了したことに満足している」はマイナス1.5ポイントとわずかに低下し、「KITでの学びは人間形成に役立った」はマイナス7.2ポイントで過去2番目の低さとなっていた。



<8-1>新入生のプロフィール

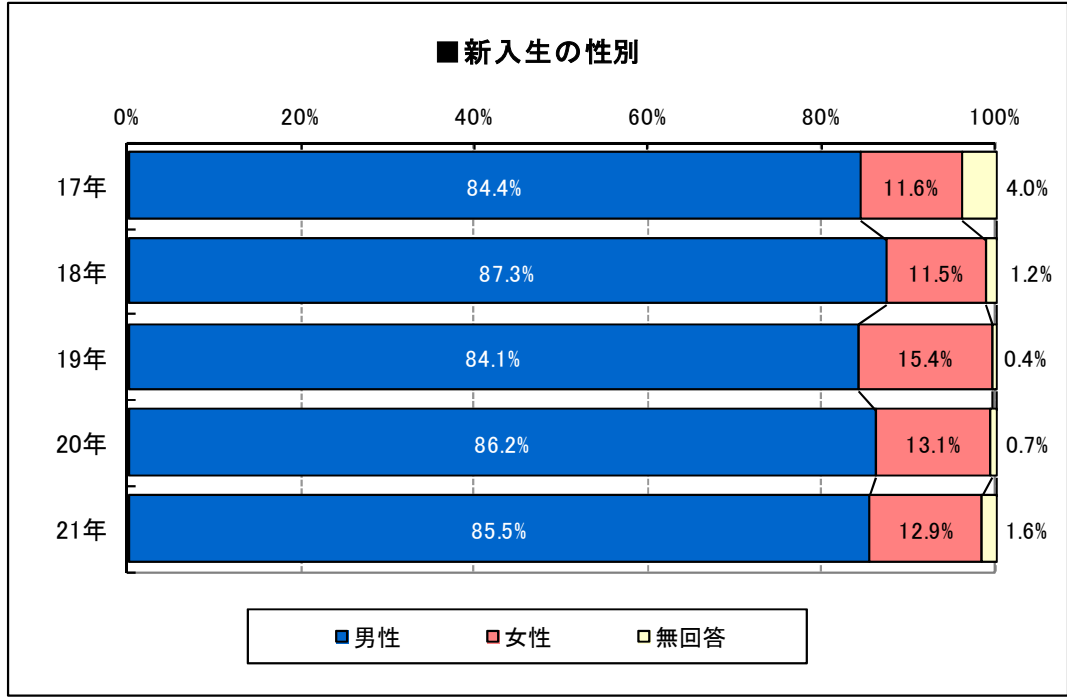
■新入生の学部・学科、性別

- 学科無回答の5名を除外しているが、新入生の学部は「工学部」が57.1%、「情報フロンティア学部」が18.6%、「環境・建築学部」が15.8%、「バイオ・化学部」が8.6%であった。
- 学科は「情報工学科」が最も多い16.4%であり、「建築学科」が15.8%、「電気電子工学科」が13.6%と続いていた。
- 性別は「男性」が85.5%、「女性」が12.9%であった。

■新入生の学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	829	57.1%	174	12.0%
	航空システム工学科			38	2.6%
	ロボティクス学科			98	6.7%
	電気電子工学科			198	13.6%
	情報工学科			238	16.4%
	環境土木工学科			83	5.7%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	270	18.6%	163	11.2%
	経営情報学科			58	4.0%
	心理科学学科			49	3.4%
環境・建築学部	建築学科	229	15.8%	229	15.8%
バイオ・化学部	応用化学科	125	8.6%	56	3.9%
	応用バイオ学科			69	4.7%
合計	総計	1,453	100.0%	1,453	100.0%

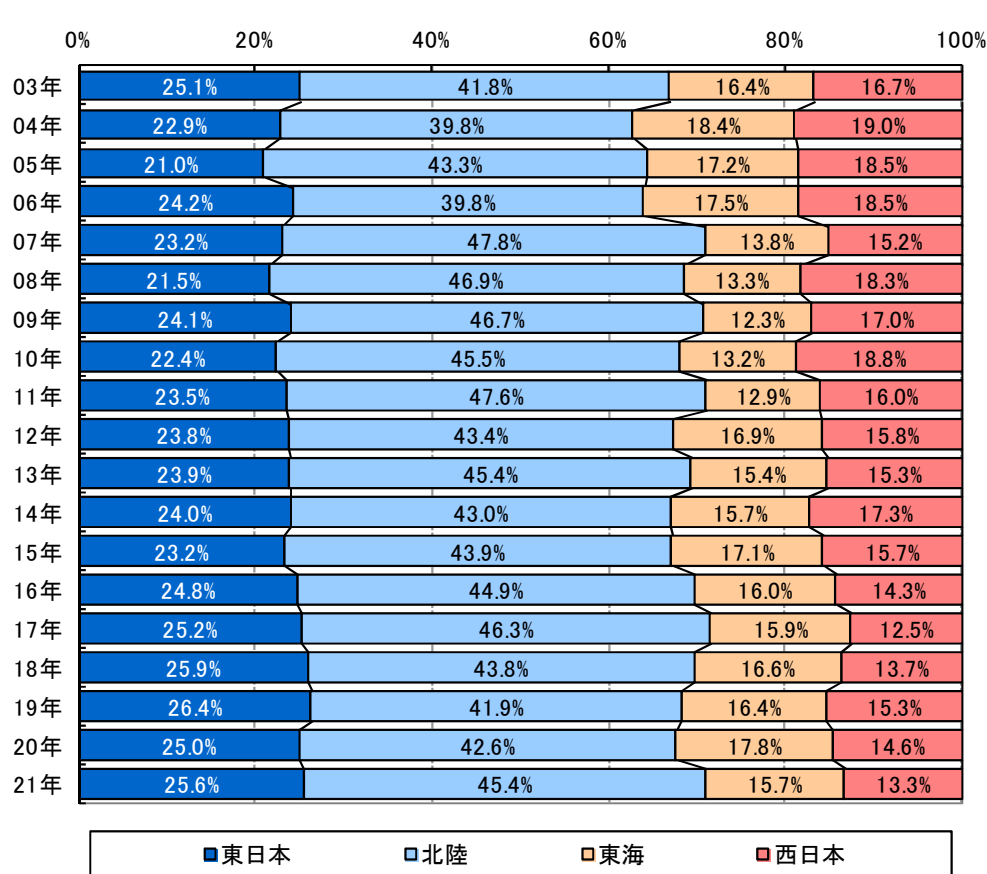
※学科無回答の5名は除外している。



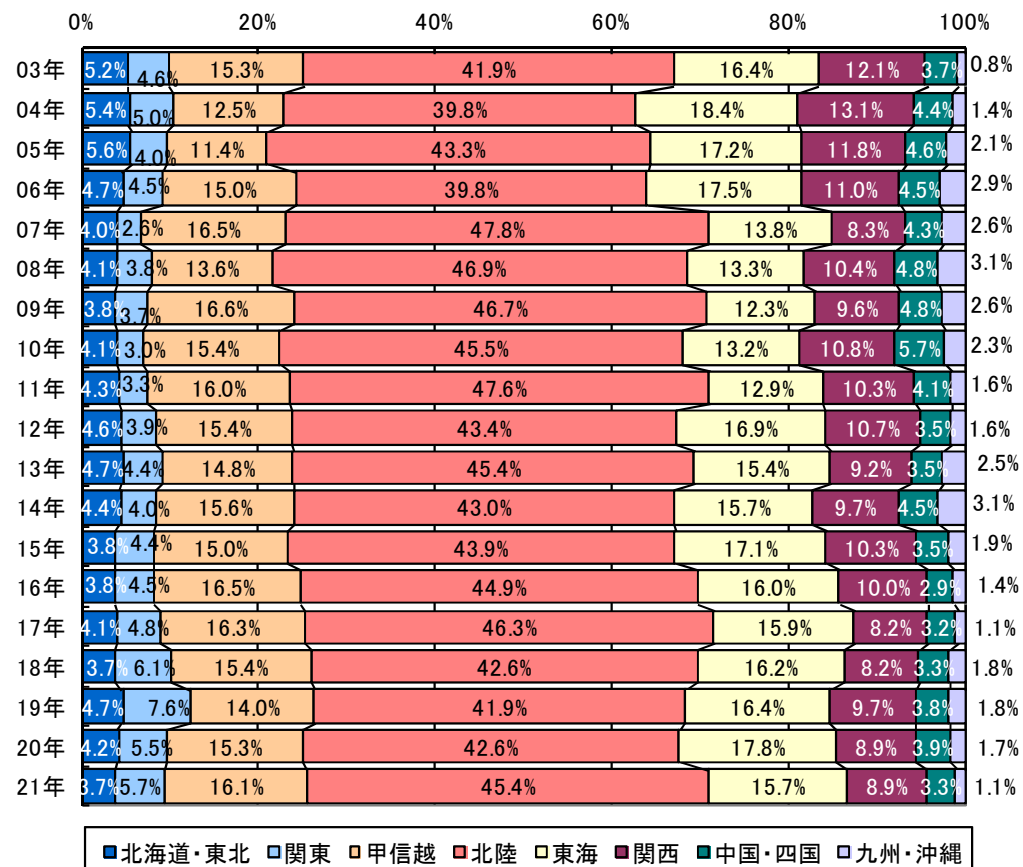
■ 新入生の出身地

- 出身地の大分類は「北陸」が45.4%で最も多く、「東日本」が25.6%、「東海」が15.7%、「西日本」が13.3%であり、「北陸」と「東日本」が前回より増加していた。
- 出身地詳細分類でも「北陸」が最も多く、前回と比較すると「関東」「甲信越」「北陸」が増加していた。

■ 新入生の出身地大分類比較



■ 新入生の出身地詳細分類比較



■過去4年間の出身地一覧

■18年 出身地一覧

■19年 出身地一覧

■20年 出身地一覧

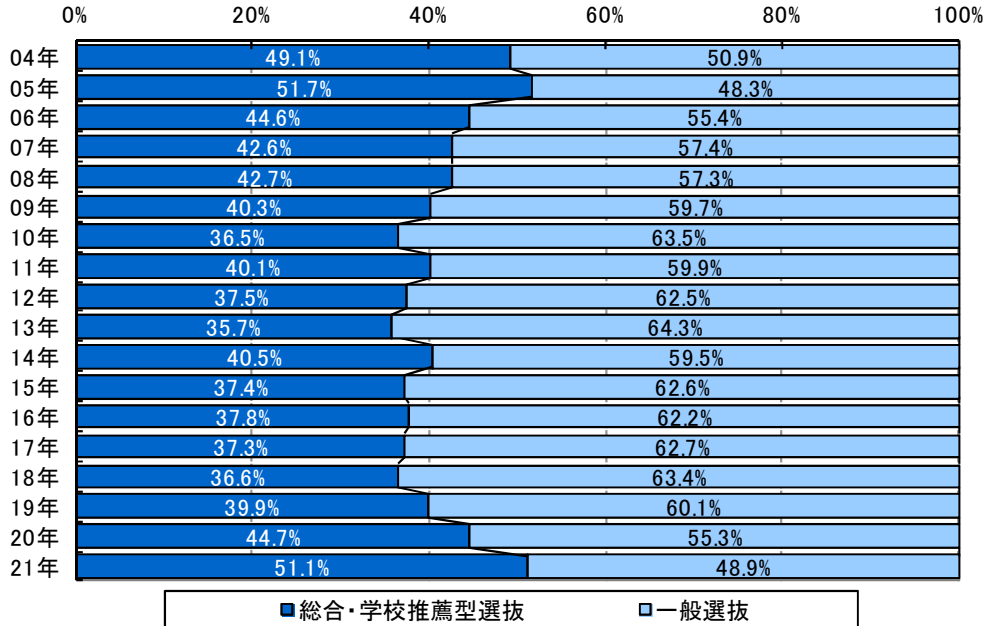
■21年 出身地一覧

都道府県			大分類		都道府県			大分類		都道府県			大分類		都道府県			大分類									
人数	割合			詳細分類	人数	割合		詳細分類	人数	割合		詳細分類	人数	割合		人数	割合		詳細分類								
北海道	20	1.2%	東日本	北海道・東北	北海道	20	1.3%	東日本	北海道・東北	北海道	16	1.0%	東日本	北海道・東北	北海道	8	0.5%	東日本	北海道・東北								
青森県	8	0.5%			青森県	7	0.4%			青森県	9	0.6%			青森県	6	0.4%										
岩手県	4	0.2%			岩手県	3	0.2%			岩手県	6	0.4%			岩手県	5	0.3%										
宮城県	6	0.4%			宮城県	10	0.6%			宮城県	8	0.5%			宮城県	7	0.5%										
秋田県	5	0.3%			秋田県	9	0.6%			秋田県	8	0.5%			秋田県	9	0.6%										
山形県	8	0.5%			山形県	13	0.8%			山形県	16	1.0%			山形県	14	1.0%										
福島県	10	0.6%			福島県	13	0.8%			福島県	5	0.3%			福島県	5	0.3%										
茨城県	13	0.8%			関東	茨城県	11			0.7%	関東	茨城県			3	0.2%	関東			茨城県	5	0.3%					
栃木県	9	0.5%				栃木県	13			0.8%		栃木県			6	0.4%				栃木県	13	0.9%					
群馬県	42	2.6%				群馬県	42			2.6%		群馬県			44	2.7%				群馬県	30	2.1%					
埼玉県	9	0.5%				埼玉県	16			1.0%		埼玉県			7	0.4%				埼玉県	10	0.7%					
千葉県	6	0.4%				千葉県	10			0.6%		千葉県			7	0.4%				千葉県	8	0.5%					
東京都	13	0.8%				東京都	17			1.1%		東京都			14	0.9%				東京都	7	0.5%					
神奈川県	10	0.6%				神奈川県	12			0.8%		神奈川県			7	0.4%				神奈川県	9	0.6%					
新潟県	104	6.3%			甲信越	新潟県	102			6.4%	甲信越	新潟県			112	6.9%	甲信越			新潟県	102	7.0%					
山梨県	9	0.5%				山梨県	9			0.6%		山梨県			10	0.6%				山梨県	6	0.4%					
長野県	143	8.7%				長野県	112			7.0%		長野県			125	7.7%				長野県	125	8.6%					
富山県	211	12.9%			北陸	富山県	207			13.0%	北陸	富山県			216	13.3%	北陸			富山県	177	12.1%	北陸	富山県	177	12.1%	北陸
石川県	402	24.5%				石川県	369			23.2%		石川県			383	23.5%				石川県	406	27.8%					
福井県	94	5.7%	707	43.1%	福井県	90	5.7%	666	41.8%	福井県	88	5.4%	687	42.2%	福井県	72	4.9%	655	44.9%								
岐阜県	84	5.1%	東海	岐阜県	75	4.7%	東海	岐阜県	79	4.9%	東海	岐阜県	62	4.3%	東海	岐阜県	62	4.3%	東海								
静岡県	66	4.0%		静岡県	79	5.0%		静岡県	92	5.7%		静岡県	81	5.6%													
愛知県	74	4.5%		愛知県	78	4.9%		愛知県	59	3.6%		愛知県	50	3.4%													
三重県	45	2.7%		三重県	29	1.8%		三重県	57	3.5%		三重県	34	2.3%													
滋賀県	36	2.2%		滋賀県	36	2.3%		滋賀県	28	1.7%		滋賀県	27	1.9%													
京都府	24	1.5%	西日本	関西	京都府	27	1.7%	西日本	関西	京都府	31	1.9%	西日本	関西	京都府	25	1.7%	西日本	関西								
大阪府	14	0.9%			大阪府	24	1.5%			大阪府	27	1.7%			大阪府	18	1.2%										
兵庫県	51	3.1%			兵庫県	47	3.0%			兵庫県	41	2.5%			兵庫県	45	3.1%										
奈良県	3	0.2%			奈良県	11	0.7%			奈良県	8	0.5%			奈良県	5	0.3%										
和歌山県	8	0.5%			和歌山県	10	0.6%			和歌山県	9	0.6%			和歌山県	8	0.5%										
鳥取県	9	0.5%			中国・四国	鳥取県	4			0.3%	中国・四国	鳥取県			6	0.4%	中国・四国			鳥取県	8	0.5%					
島根県	6	0.4%				島根県	8			0.5%		島根県			5	0.3%				島根県	8	0.5%					
岡山県	6	0.4%				岡山県	15			0.9%		岡山県			18	1.1%				岡山県	11	0.8%					
広島県	10	0.6%				広島県	10			0.6%		広島県			10	0.6%				広島県	8	0.5%					
山口県	6	0.4%				山口県	1			0.1%		山口県			2	0.1%				山口県	1	0.1%					
徳島県	9	0.5%				徳島県	12			0.8%		徳島県			4	0.2%				徳島県	5	0.3%					
香川県	4	0.2%				香川県	8			0.5%		香川県			8	0.5%				香川県	1	0.1%					
愛媛県	2	0.1%				愛媛県	1			0.1%		愛媛県			6	0.4%				愛媛県	5	0.3%					
高知県	3	0.2%				高知県	1			0.1%		高知県			4	0.2%				高知県	1	0.1%					
福岡県	8	0.5%				九州・沖縄	福岡県			8		0.5%			九州・沖縄	福岡県				10	0.6%	九州・沖縄	福岡県	5	0.3%		
佐賀県	1	0.1%			佐賀県		0			0.0%	佐賀県	1				0.1%	佐賀県			1	0.1%						
長崎県	4	0.2%			長崎県		3			0.2%	長崎県	2				0.1%	長崎県			2	0.1%						
熊本県	6	0.4%			熊本県		1			0.1%	熊本県	1				0.1%	熊本県			0	0.0%						
大分県	1	0.1%			大分県		1			0.1%	大分県	0				0.0%	大分県			1	0.1%						
宮崎県	3	0.2%	宮崎県	3	0.2%		宮崎県	2	0.1%	宮崎県	2	0.1%															
鹿児島	2	0.1%	鹿児島	3	0.2%		鹿児島	4	0.2%	鹿児島	1	0.1%															
沖縄県	5	0.3%	沖縄県	10	0.6%	沖縄県	8	0.5%	沖縄県	4	0.3%																
不明	25	1.5%	221	13.5%	不明	2	0.1%	2	0.1%	不明	15	0.9%	15	0.9%	不明	15	1.0%	15	1.0%								
合計	1,641	100.0%	1,641	100.0%	合計	1,592	100.0%	1,592	100.0%	合計	1,627	100.0%	1,627	100.0%	合計	1,458	100.0%	1,458	100.0%								

■ 新入生の入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類は今回から2択となっており、「総合・学校推薦型選抜」が51.1%、「一般選抜」が48.9%となっていた。前回までの6択を2択に再集計したもので年度別に比較したところ、2018年から「総合・学校推薦型選抜」の増加傾向が続いており、今回は過去2番目の多さとなっていた。
- 出身高校の課程は「普通科(理系)」が68.3%、「専門高校」が18.5%、「普通科(文系)」が4.4%、「総合学科」が4.1%であり、「専門高校」と「普通科(文系)」の増加が続き、「普通科(理系)」は減少が続いていた。
- 入学時の現浪は「現役入学」が93.0%で2019年から増加が続いており、「浪人後入学」は7.0%であった。

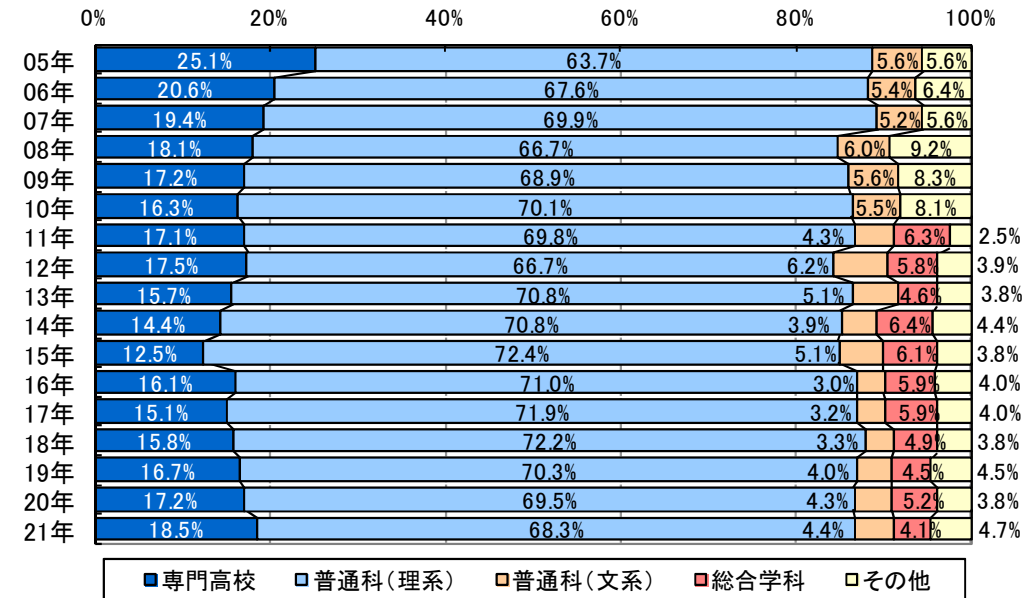
■ 新入生の入試の種類



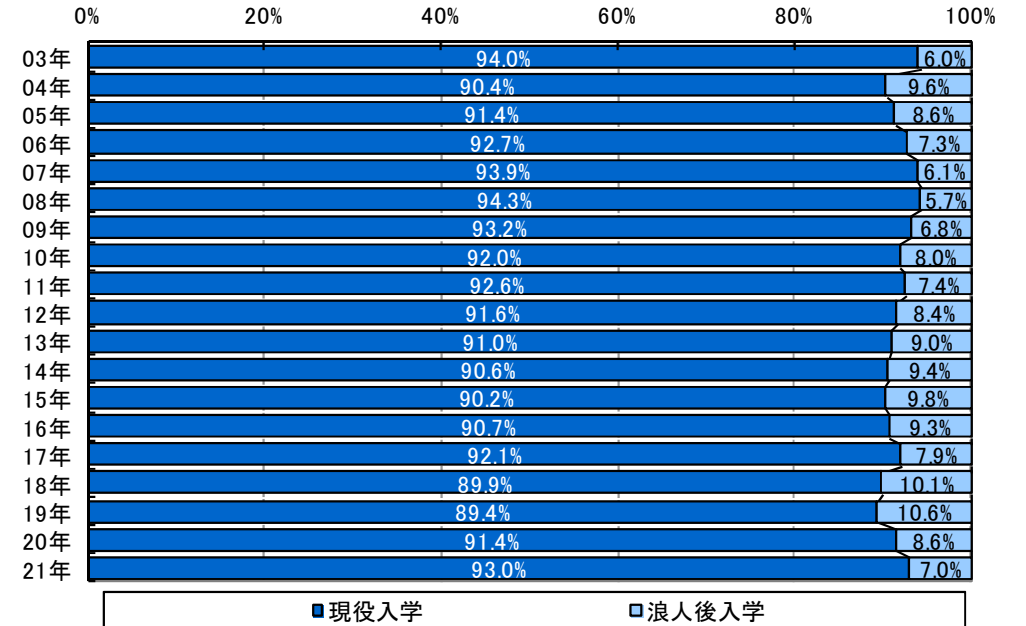
※2020年までは6択であったが、2021年から2択となったため、過去の結果は6択を2択に再集計している。選択肢の詳細は下記の通り。

- 総合・学校推薦型選抜: 「目的志向型入学」「専門高校特別選抜」「推薦試験」
- 一般選抜: 「一般試験」「大学入学共通テスト利用」「一般試験・共通テストプラス」

■ 新入生の出身高校課程比較

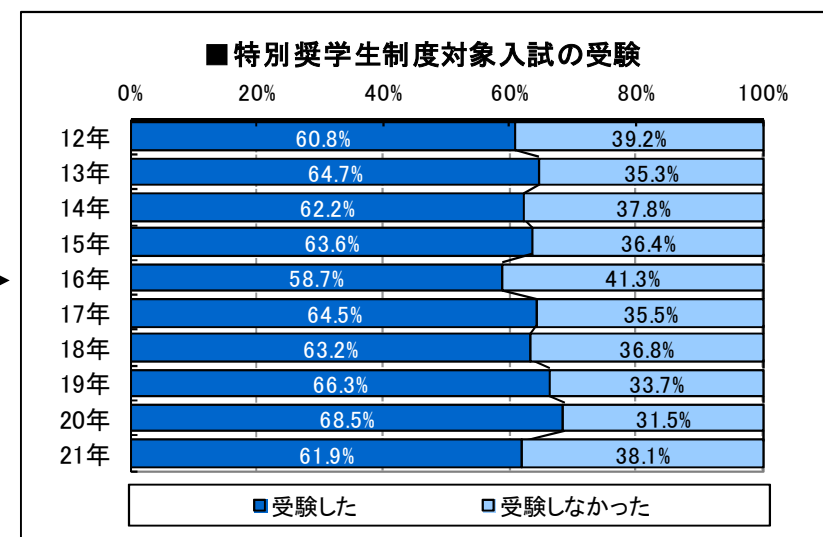
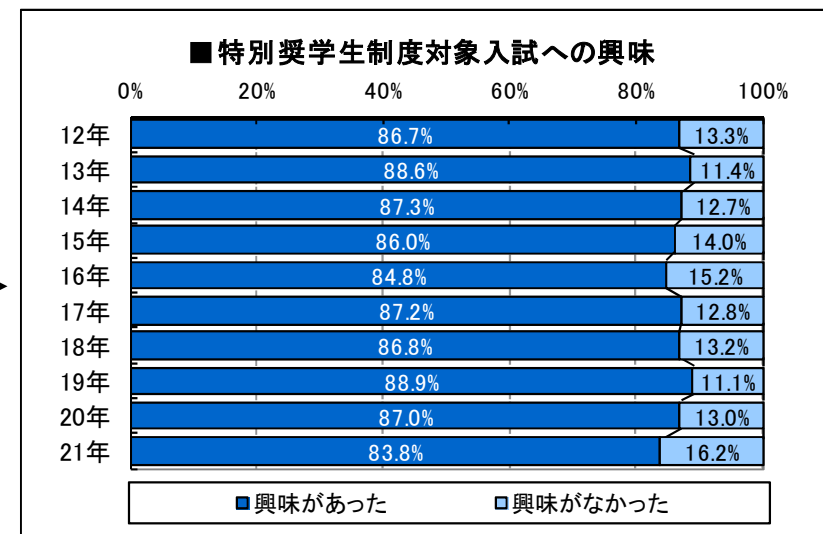
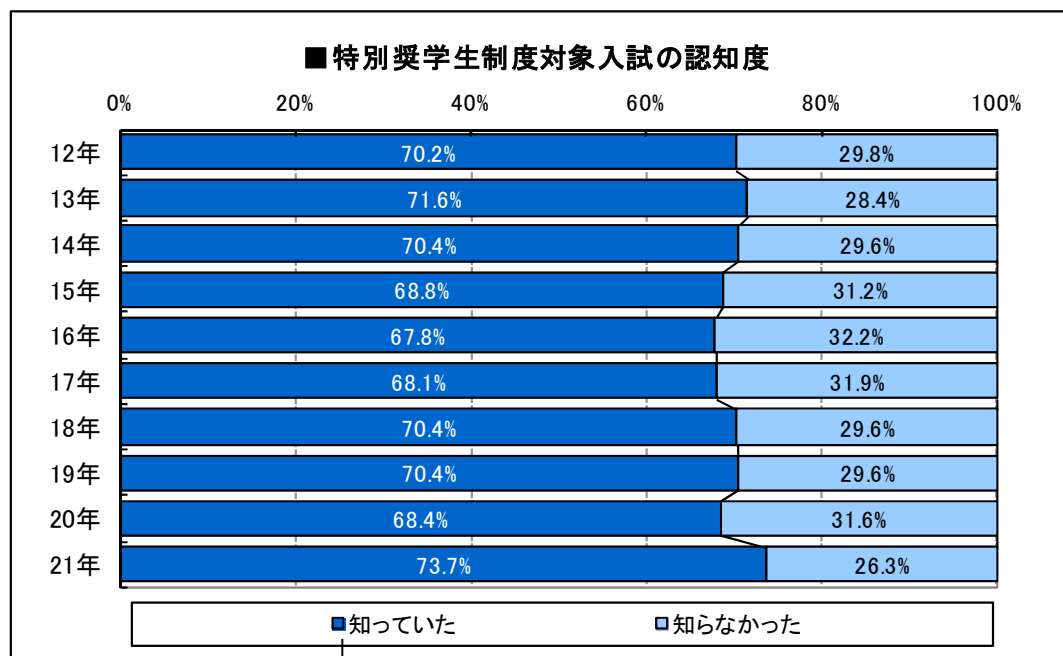


■ 新入生の入学時の現浪比較



■特別奨学生制度対象入試の認知度、興味、受験

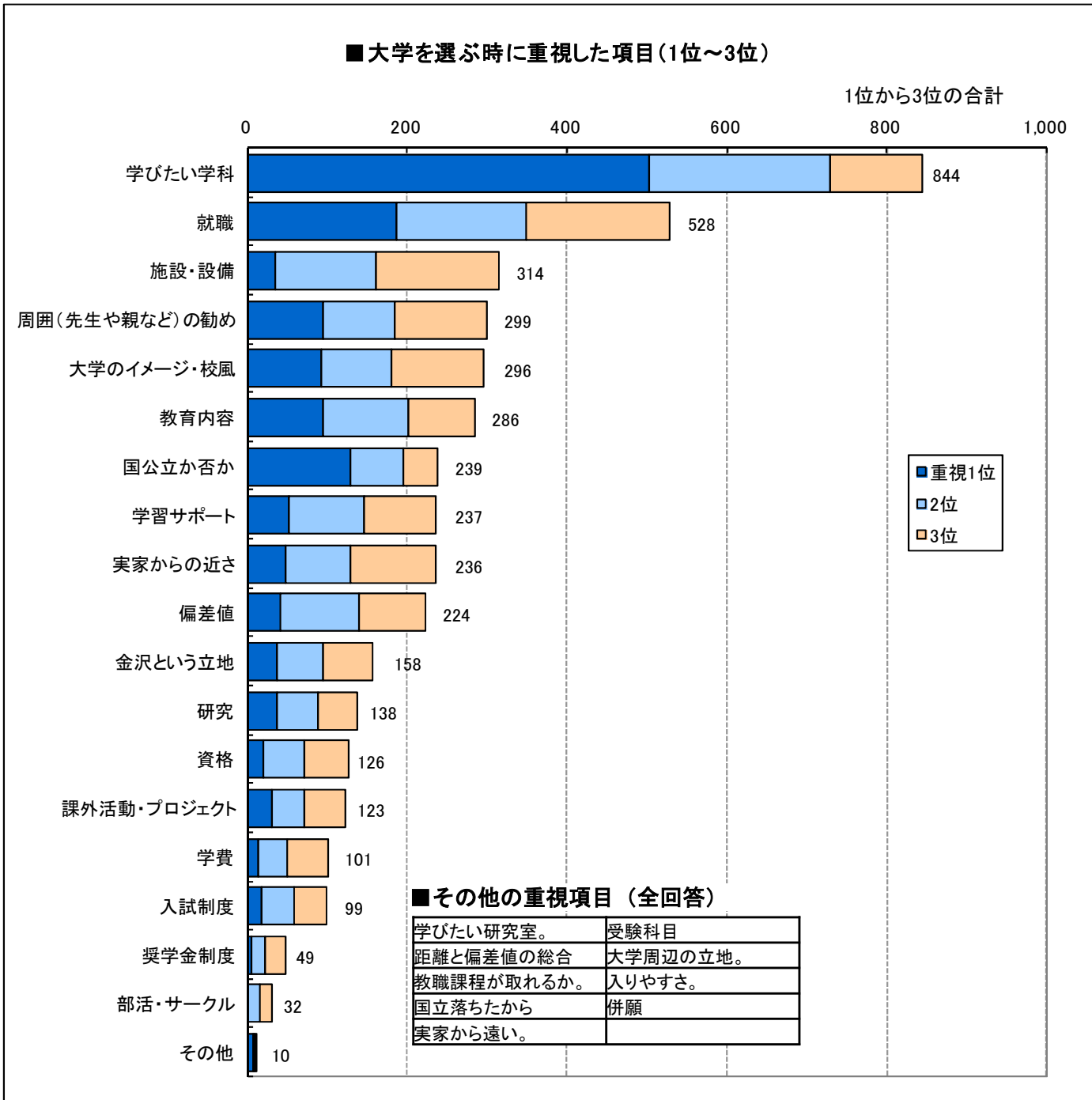
- 「特別奨学生制度対象入試」の認知度は「知っていた」が73.7%であり、前回は5.3ポイント上回って過去最高となっていた。
- 「特別奨学生制度対象入試」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試」への興味を聞くと、「興味があった」が83.8%であり、前回は3.2ポイント下回って過去最低となっていた。
- 「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」に関しては、「受験した」が61.9%であり、過去最高であった前回は6.6ポイント下回っていた。



<8-3> 大学選びに関して

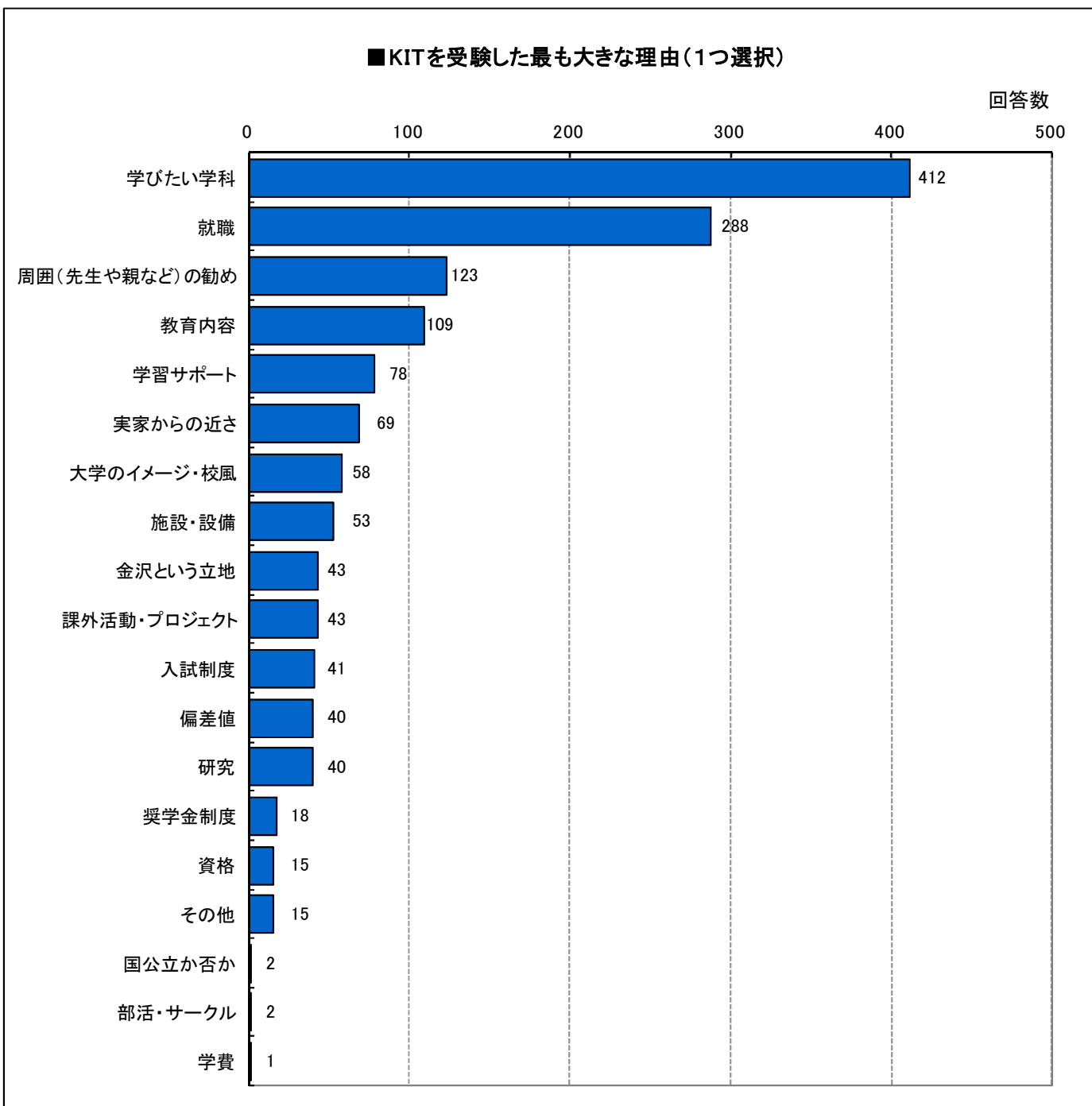
■ 大学を選ぶ時に重視した項目

- 「大学を選ぶ時に重視した項目」は「重視1位」から「3位」までを聞いており、グラフはそれらを色分けした実数の積み上げ形式グラフとなっている。
- 回答の合計件数が最も多かったのは「学びたい学科」の844件であり、「重視1位」が非常に多く、大学選びの大きなポイントになっていると言える。
- 上記に次いで「就職」が528件と多さが目立っており、大きなポイントになっているようであり、「施設・設備」が314件、「周囲(先生や親など)の勧め」が299件、「大学のイメージ・校風」が296件と続いていた。
- 「重視1位」だけを見ると、「学びたい学科」「就職」に次いで、「国立か否か」が3位となっており、この点も重視されていると言える。



■KITを受験した最も大きな理由

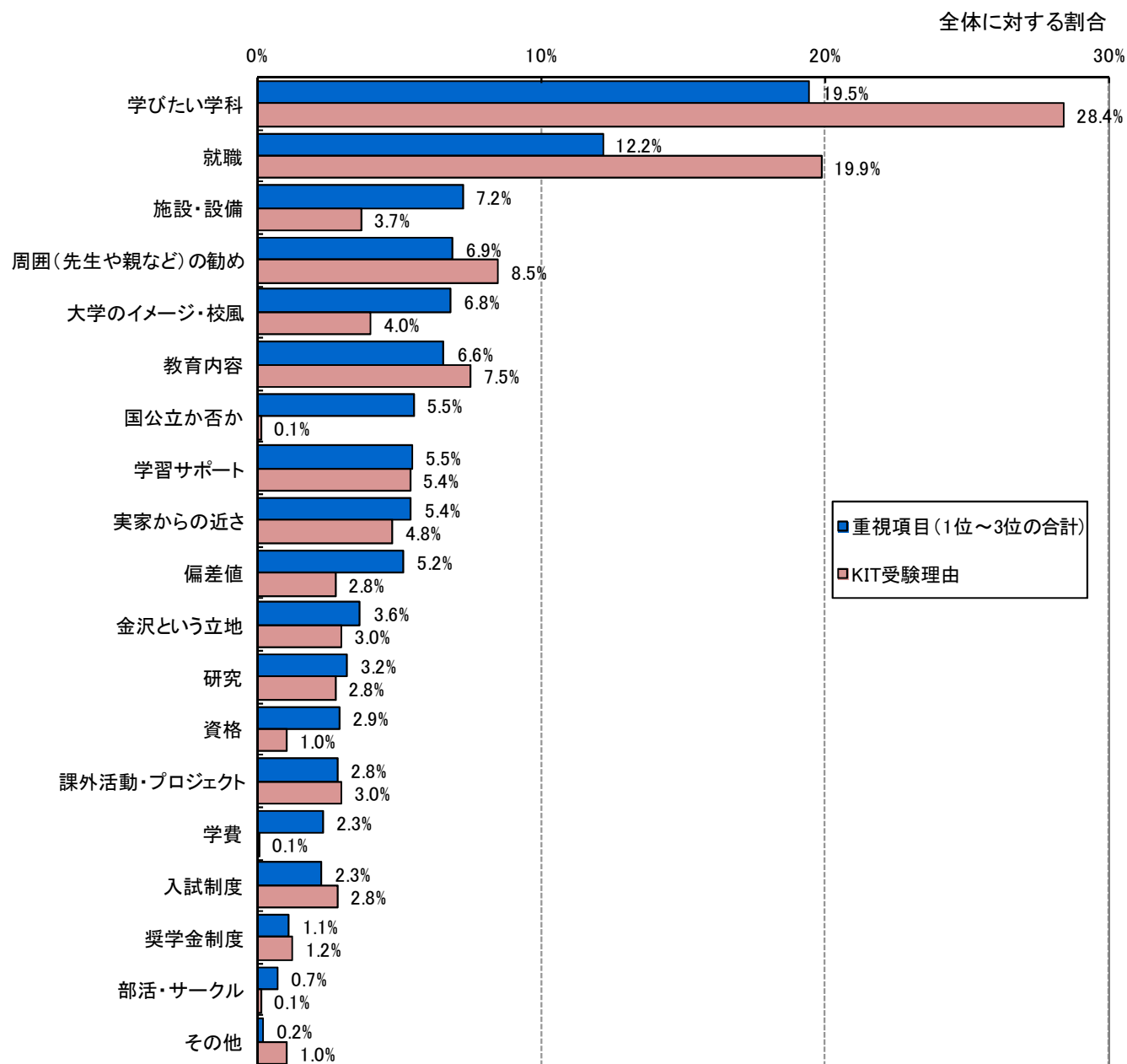
- 「KITを受験した最も大きな理由」については、前項までの「重視した項目」と同じ選択肢から最も重視した「受験理由」を聞いている。
- 最も多かったのは「学びたい学科」の412件であった。次いで「就職」が288件であり、この2項目の多さが目立っていた。この傾向は前項までの「大学を選ぶ時に重視した項目」と同じであった。
- 上記に次いで、「周囲(先生や親など)の勧め」が123件、「教育内容」が109件、「学習サポート」が78件と続いていた。



■大学選択での重視項目とKIT受験理由の比較

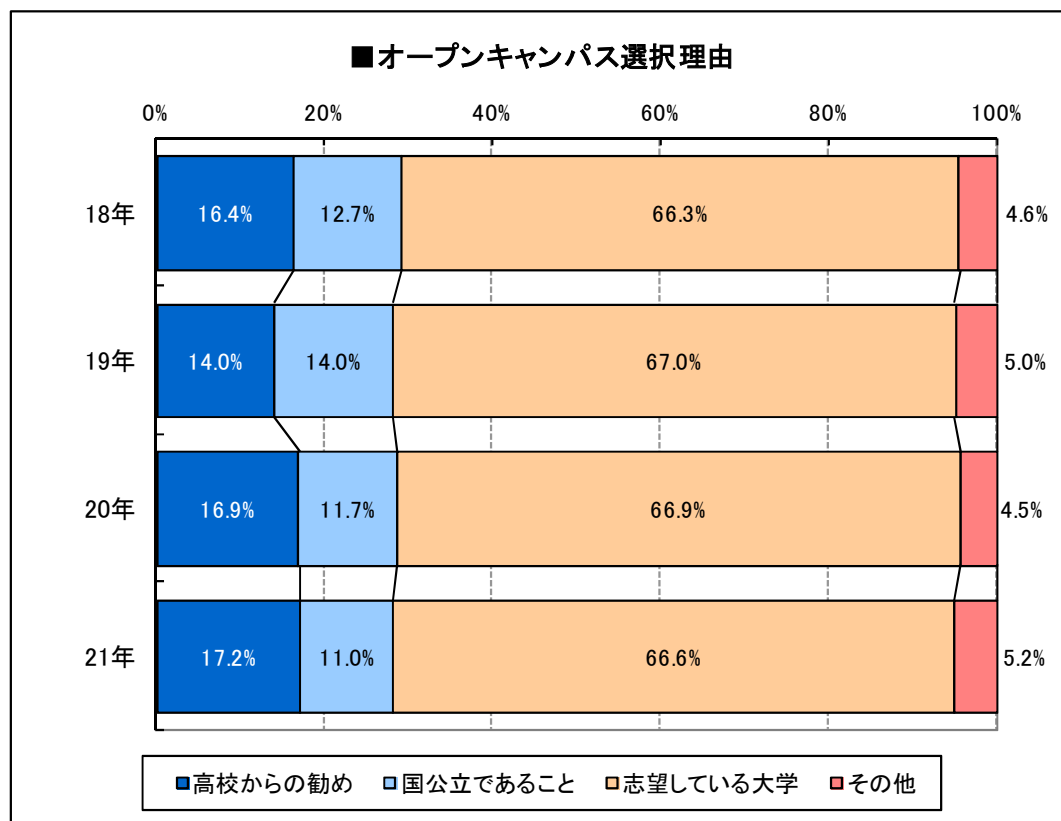
- 「大学を選ぶ時に重視した項目」と「KITを受験した最も大きな理由」は、回答全体に対する各々の割合で比較している。
- 「重視項目」と「KIT受験理由」の上位は「学びたい学科」と「就職」であり、この2項目は最も重視され、受験理由になっている項目であると言える。
- 3位以下の項目を2つの視点の差で考えると、「大学選びの際に重視はするが決め手ではない」と思われる項目は、「施設・設備」「大学のイメージ・校風」「国公立か否か」「偏差値」「資格」「学費」といったものであった。
- 逆に「大学選びの際には重視しなかったがKIT受験の決め手になった」と思われる項目は、「周囲(先生や親など)の勧め」「教育内容」「入試制度」といったものであった。

■大学を選ぶ時の重視項目(1位～3位の合計)とKIT受験理由の比較



■オープンキャンパス選択理由

- 「オープンキャンパス選択理由」は、KITに限らずどのような理由でオープンキャンパスを選んだか？という聞き方をしているが、最も多かったのは「志望している大学」の66.6%であり、次いで、「高校からの勧め」が17.2%、「国公立であること」が11.0%と続いていた。以前と比較して大きな変化はなかったが、「高校からの勧め」がこれまでで最高となり、「国公立であること」は最低となっていた。



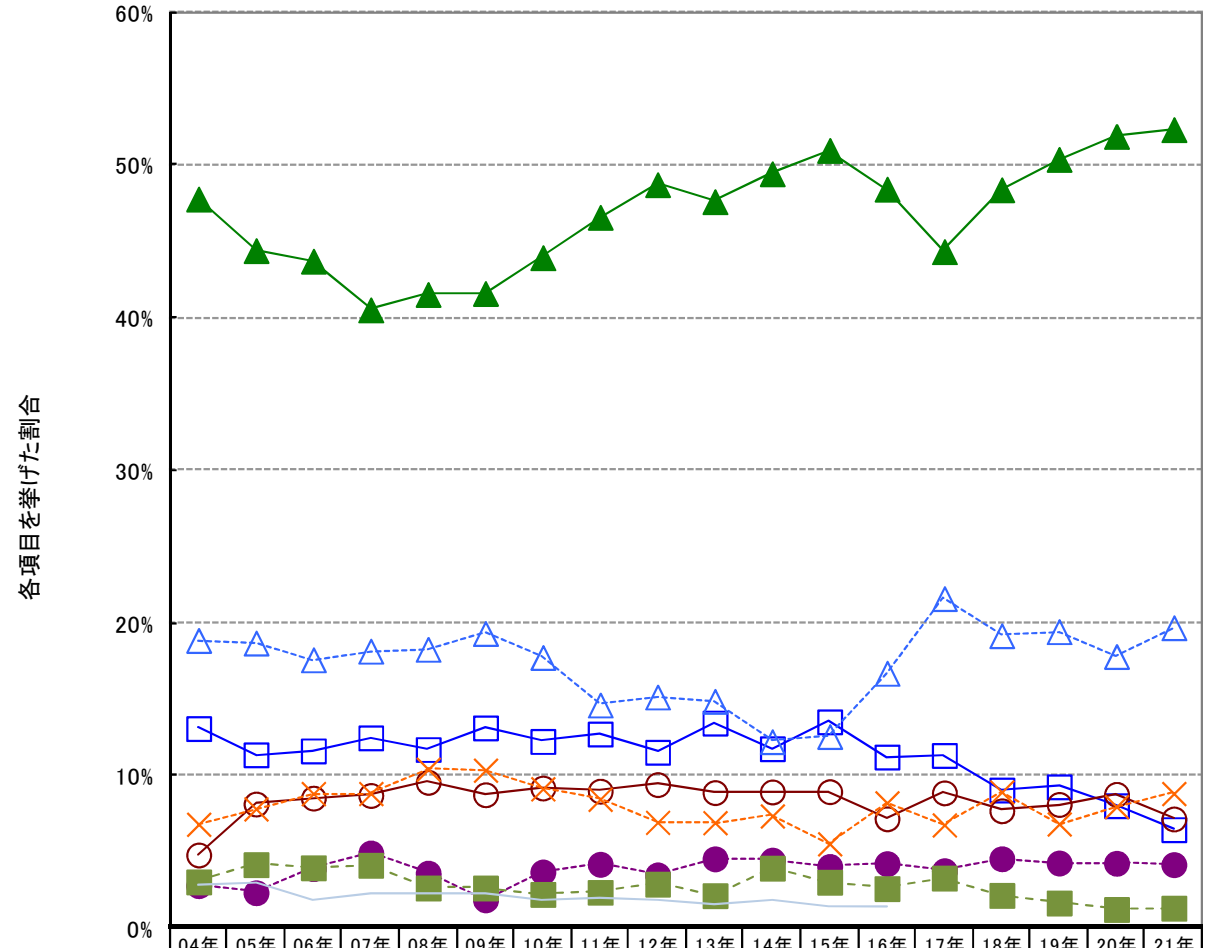
■その他の理由

いろいろな大学と比べるため。	自分が望む学科があるか。
そこしかなかった。	自分で調べた。
その地域で有名な大学だったから。	自分の学びたいことがあるか。
なんとなく。	実家からの近さ。
やりたいことがあるかどうか。	実家からの近さ。
家から通える距離であること。	実家からの近さ。
家の近所。	住んでいる近くの大学。
家族からの勧め。	塾からの勧め。
学びたい学科。	塾の先生に勧められた。
学びたい学科があるか。	親からの勧め。
学びたい教授がいた。	親の勧め。
学科。距離。	親の勧め。
気になったところ。	専門学校を訪問していた。
興味がある学科があった。	偏差値。
興味のある学科、分野の大学。	友人からの誘い。
近いところ。	友人からの誘い。
近場。	友人に勧められた。
研究力。	友人に連れられて。
行きたい学部。	友達からの勧め。
高校の先輩が進学していた。指定校推薦が使えた。	友達と一緒に行くから。
志望している学部。	遊びたい場所の近くにあるから。

■ 学科を選択した最も大きな理由

- 「学科を選択した最も大きな理由」で最も多かったのは「学科で学ぶ内容」の52.3%であり、他の項目に比べて突出していた。次いで、「将来性」が19.7%、「就職先(就職内容)」が8.8%と続いていた。
- 以前と比較すると、「学科で学ぶ内容」はわずかに前回は上回って過去最高となっていた。そして、「将来性」「就職先(就職内容)」「偏差値(倍率、難易度)」が前回は上回った。
- 上記以外の3項目は前回は下回っており、特に「学科の名称・イメージ」は過去最低となっていた。

■ 学科を選択した理由

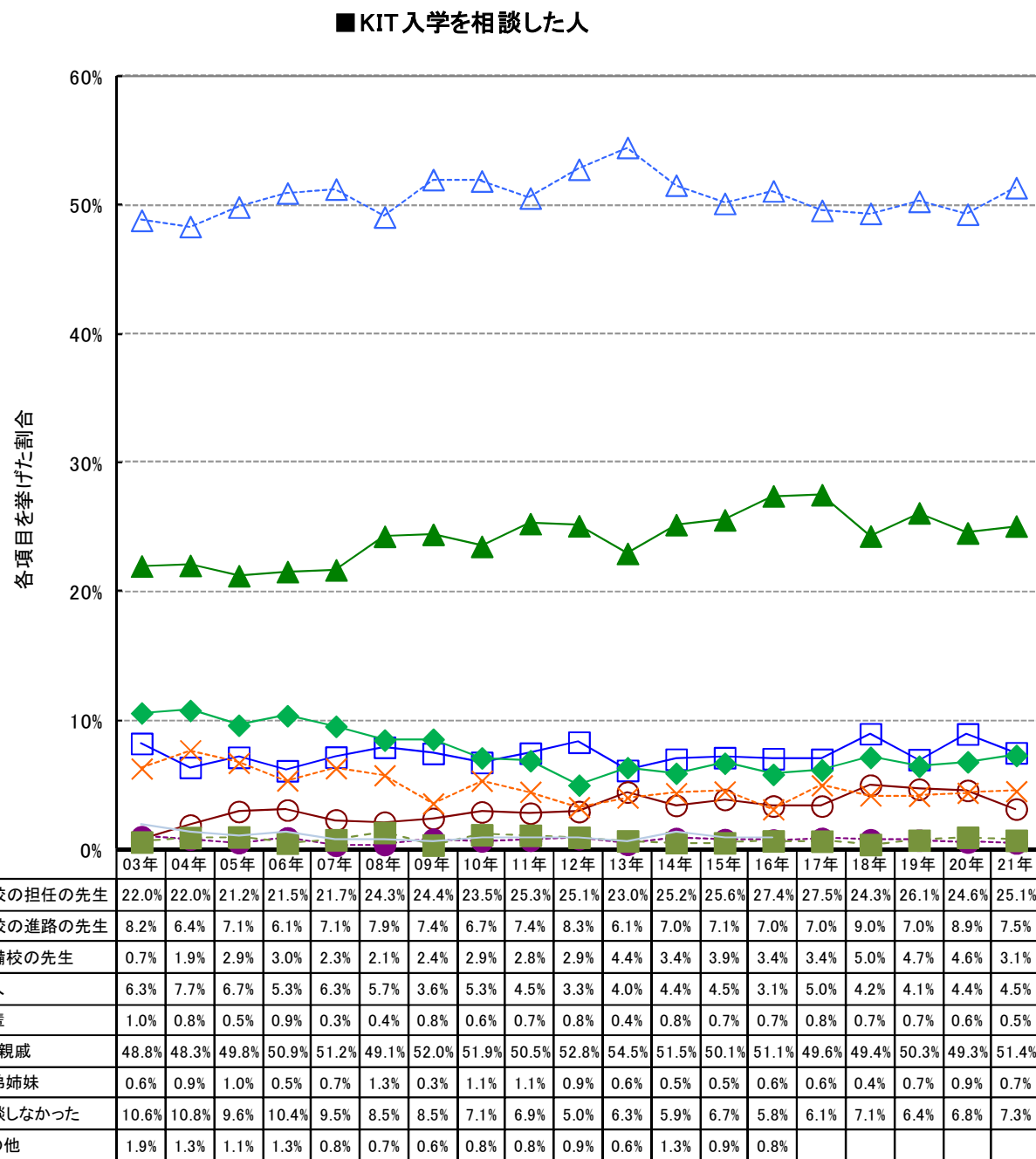


	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
▲ 学科で学ぶ内容	47.8%	44.4%	43.7%	40.5%	41.5%	41.6%	43.9%	46.6%	48.7%	47.6%	49.4%	51.0%	48.4%	44.3%	48.4%	50.4%	51.9%	52.3%
□ 学科の名称・イメージ	13.1%	11.4%	11.6%	12.5%	11.7%	13.1%	12.2%	12.7%	11.5%	13.5%	11.8%	13.5%	11.2%	11.3%	9.1%	9.3%	8.0%	6.5%
○ 研究内容	4.8%	8.1%	8.5%	8.7%	9.6%	8.8%	9.2%	9.0%	9.4%	8.9%	8.9%	9.0%	7.2%	8.9%	7.7%	8.1%	8.8%	7.2%
× 就職先(就職内容)	6.8%	7.8%	8.8%	8.8%	10.4%	10.4%	9.1%	8.5%	6.9%	6.9%	7.4%	5.5%	8.2%	6.8%	8.9%	6.8%	8.0%	8.8%
● 取得できる資格	2.8%	2.3%	3.9%	4.9%	3.6%	1.9%	3.7%	4.2%	3.5%	4.6%	4.5%	4.1%	4.2%	3.8%	4.6%	4.3%	4.3%	4.2%
△ 将来性	18.9%	18.7%	17.6%	18.2%	18.3%	19.3%	17.8%	14.6%	15.2%	14.9%	12.2%	12.6%	16.7%	21.6%	19.2%	19.4%	17.8%	19.7%
■ 偏差値(倍率、難易度)	3.0%	4.2%	4.0%	4.1%	2.6%	2.6%	2.2%	2.4%	2.9%	2.1%	3.9%	3.0%	2.6%	3.3%	2.2%	1.7%	1.2%	1.3%
— その他	2.8%	3.0%	1.8%	2.2%	2.2%	2.3%	1.8%	2.0%	1.8%	1.5%	1.8%	1.4%	1.4%					

※2017年から「その他」の選択肢がなくなっている。

■ KIT入学を相談した人

- 「KIT入学を相談した人」で最も多かったのは「親・親戚」の51.4%であった。次いで、「高校の担任の先生」が25.1%であり、この2つの多さが突出していた。
- 上記に次いで、「高校の進路の先生」が7.5%、「相談しなかった」が7.3%と続いていた。
- 以前と比較すると、「親・親戚」が前回は2.1ポイント上回っていた。一方、「高校の進路の先生」がマイナス1.5ポイント、「予備校の先生」がマイナス1.4ポイントであったが、全体的にそれほど大きな変化は見られなかった。

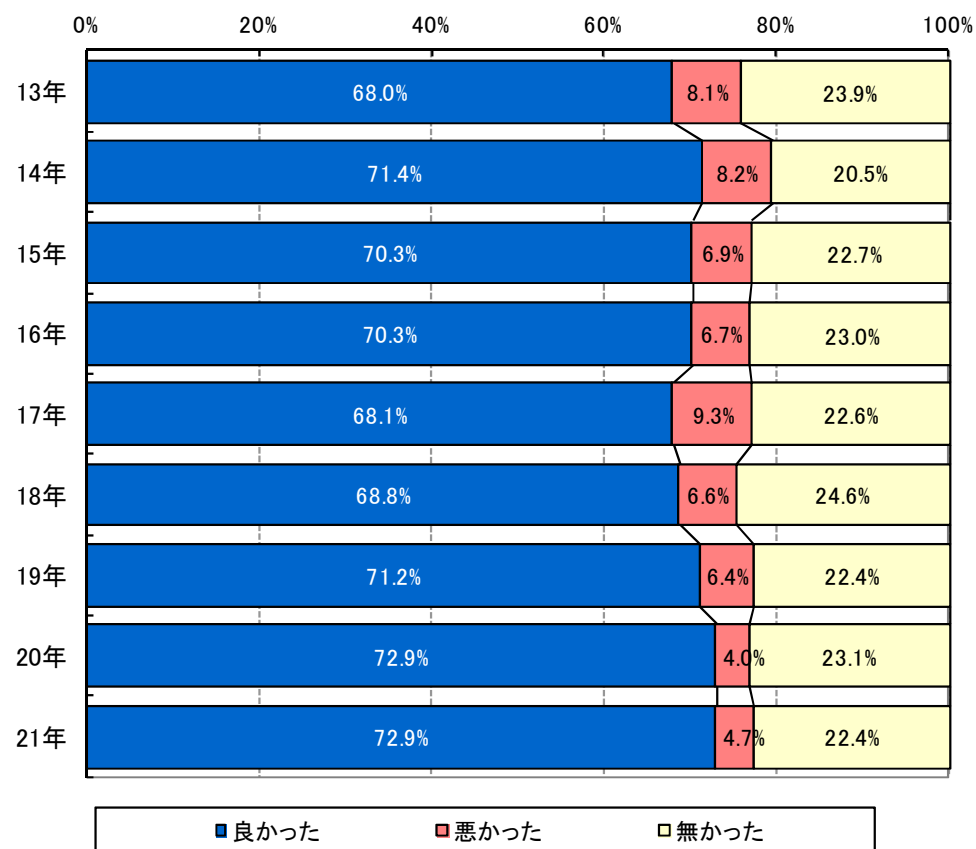


※2017年から「その他」の選択肢がなくなっている。

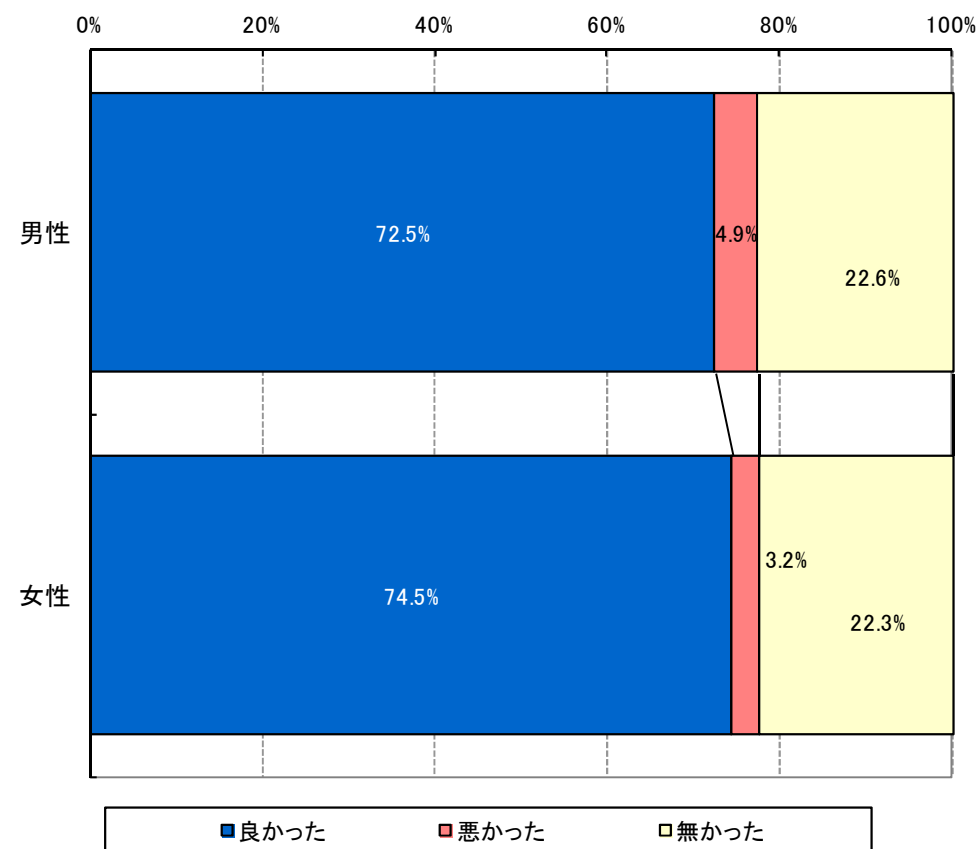
■入学前のKITのイメージ

- 「入学前のKITのイメージ」を聞いたところ、「良かった」が72.9%、「悪かった」が4.7%、「無かった」が22.4%であった。以前と比較すると、「良かった」は前回と同じで過去最高であり、「悪かった」は過去最低であった前回を0.7ポイント上回っていた。
- 「入学前のKITのイメージ」を男女別に比較したところ、「良かった」は「男性」が72.5%、「女性」が74.5%で、「女性」の方が2.0ポイント多く、「悪かった」は「男性」の方が1.7ポイント多かった。

■入学前のKITのイメージ

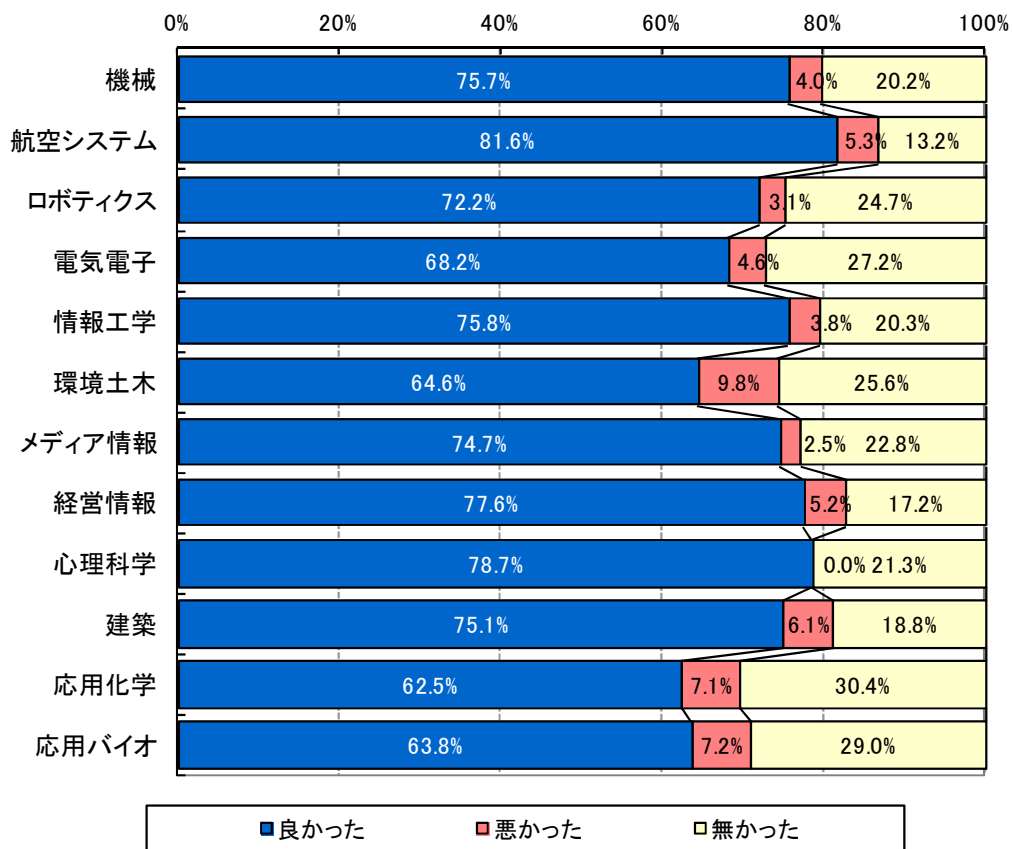


■入学前のKITのイメージ 男女別比較

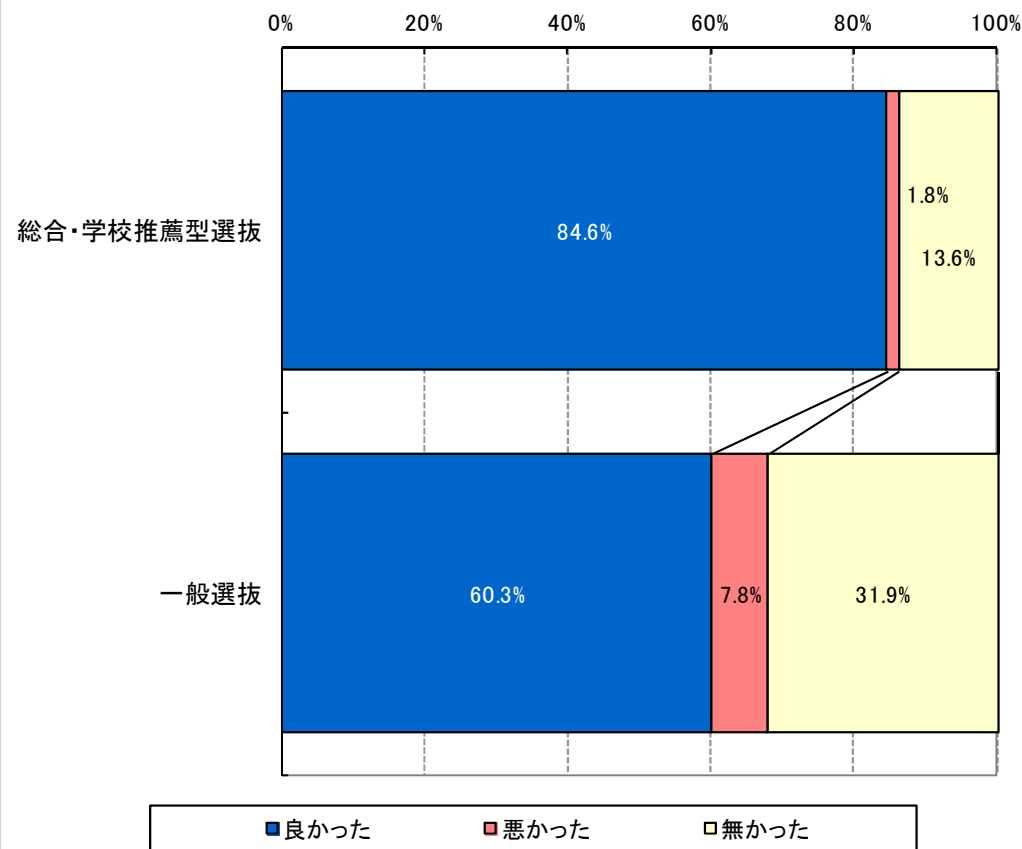


- 「入学前のKITのイメージ」に関して、「良かった」の割合を学科別に比較したところ、「航空システム」が81.6%と最も多く、次いで、「心理科学」が78.7%、「経営情報」が77.6%で続いていた。一方、最も少なかったのは「応用化学」の62.5%であり、「航空システム」との差は19.1ポイントであった。そして、「悪かった」の割合を見ると「環境土木」の9.8%が最も多く、「応用バイオ」が7.2%、「応用化学」が7.1%となっていた。
- 「良かった」の割合を入試別に比較したところ、「総合・学校推薦型選抜」が84.6%、「一般選抜」が60.3%であり、両者の差は24.3ポイントであった。「一般選抜」は「良かった」が少なかったものの、「悪かった」は7.8%と目立って多いわけではなく、「無かった」が31.9%と多いという点が特徴的であった。

■ 入学前のKITのイメージ 学科別比較



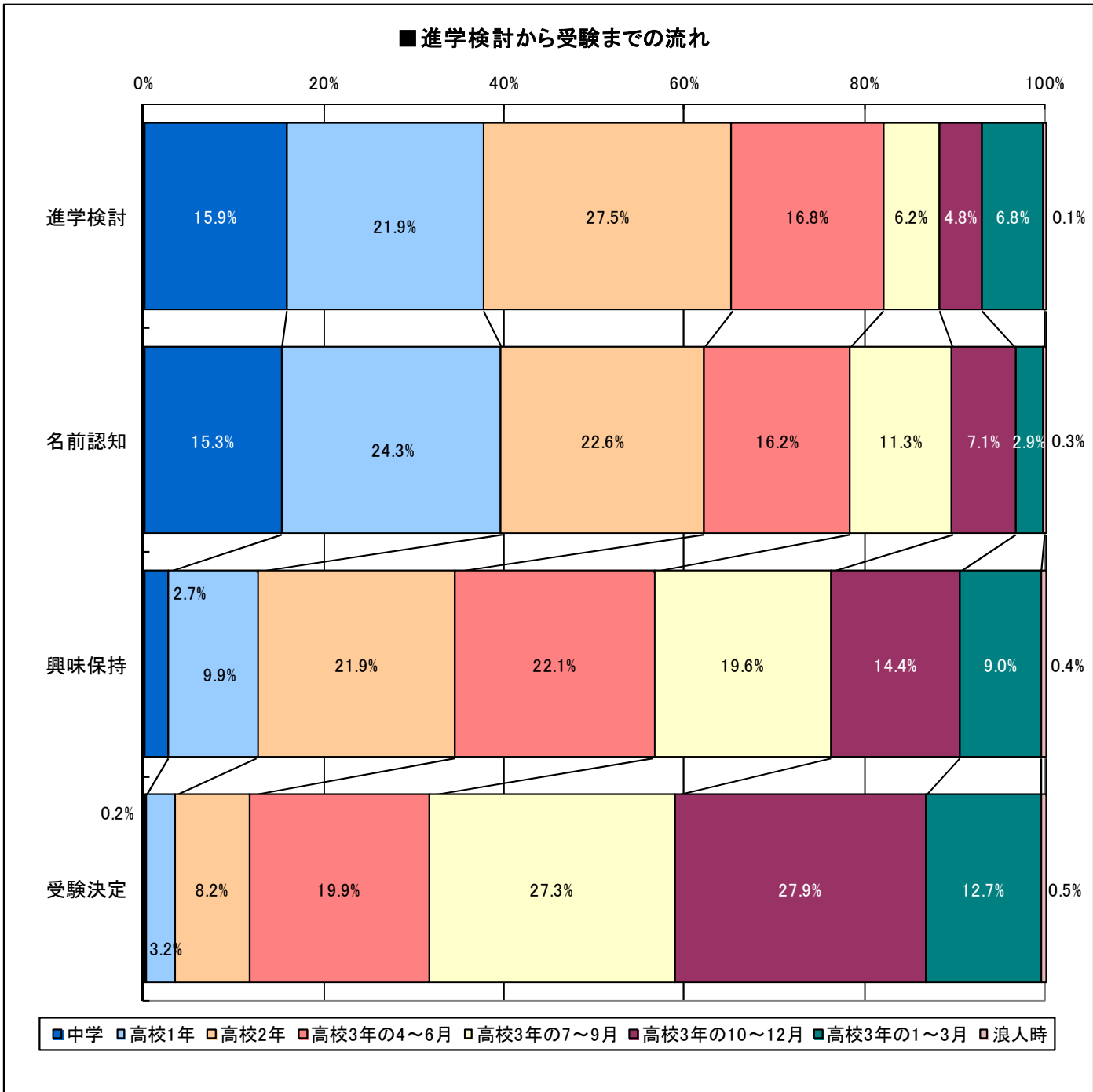
■ 入学前のKITのイメージ 入試別比較



<8-4> 進学検討から受験までの流れに関して

■ 進学検討から受験までの流れ

- 「進学検討から受験までの流れ」に関しては、「進学検討」「名前認知」「興味保持」「受験決定」の4つのポイントの時期を、「中学」から「浪人時」の8つの選択肢で聞いている。
- 受験までの行動の初期段階である「進学検討」と「名前認知」の2つは非常によく似た傾向であり、約6割の学生が「高校2年」までに大学への進学を意識し、金沢工大の名前を知るようになっていた。
- 上記に次いで「興味保持」が進んでおり、金沢工大に興味を持つようになった学生は、「高校2年」までが34.5%であり、残りの約65%は高校3年になってから興味を持つようになっていた。
- 「受験決定」の時期はやや遅く、「高校2年」までの合計は11.6%で、残りの約9割は高校3年になってからであり、「4～6月」が19.9%、「7～9月」が27.3%、「10～12月」が27.9%、「1～3月」が12.7%であった。



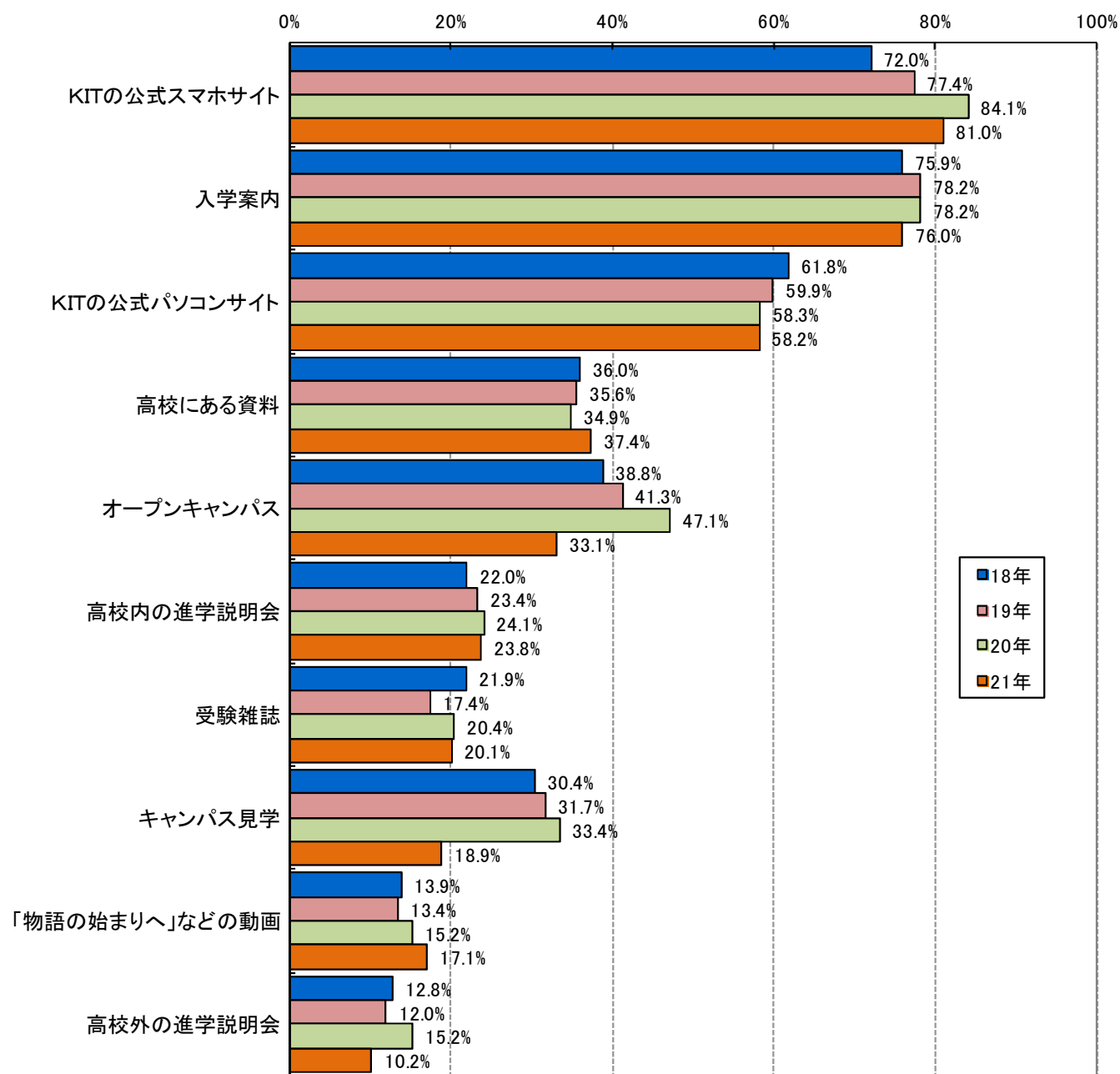
※進学検討: 大学への進学を意識し始めた時期
 名前認知: 金沢工大の名前を知った時期
 興味保持: 金沢工大に興味を持った時期
 受験決定: 金沢工大の受験を決めた時期

<8-5> 受験媒体に関して

■ 受験媒体の利用状況

- 「受験媒体の利用状況」で最も利用率が高かったのは「KITの公式スマホサイト」の81.0%であった。次いで、「入学案内」が76.0%、「KITの公式パソコンサイト」が58.2%、「高校にある資料」が37.4%で続いていた。
- 以前と比較すると、上位の「KITの公式スマホサイト」と「入学案内」の利用率が減少しており、その他ではコロナ禍の影響だと思われるが、「オープンキャンパス」「キャンパス見学」の減少の幅が大きかった。
- 一方、前回より利用率が増加していたのは、「高校にある資料」「物語の始まりへなどの動画」の2項目だけであった。

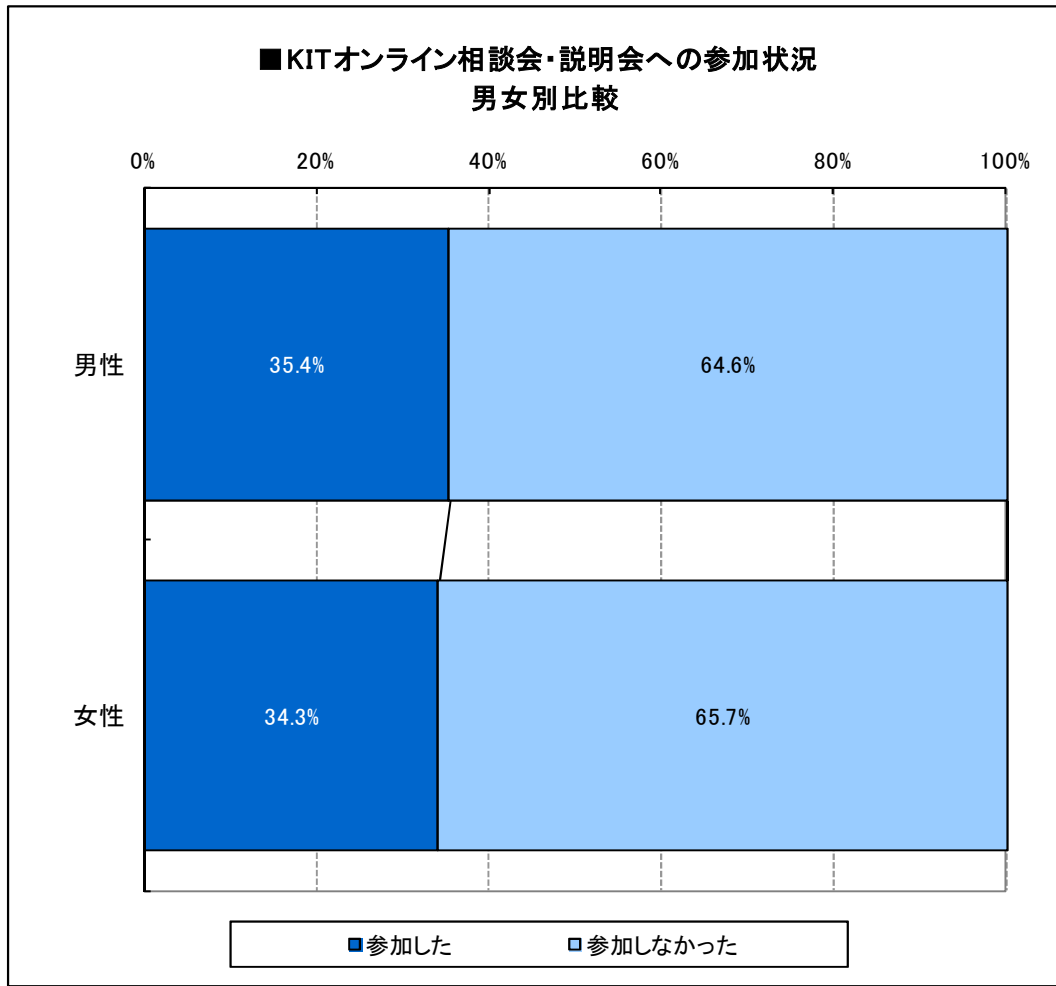
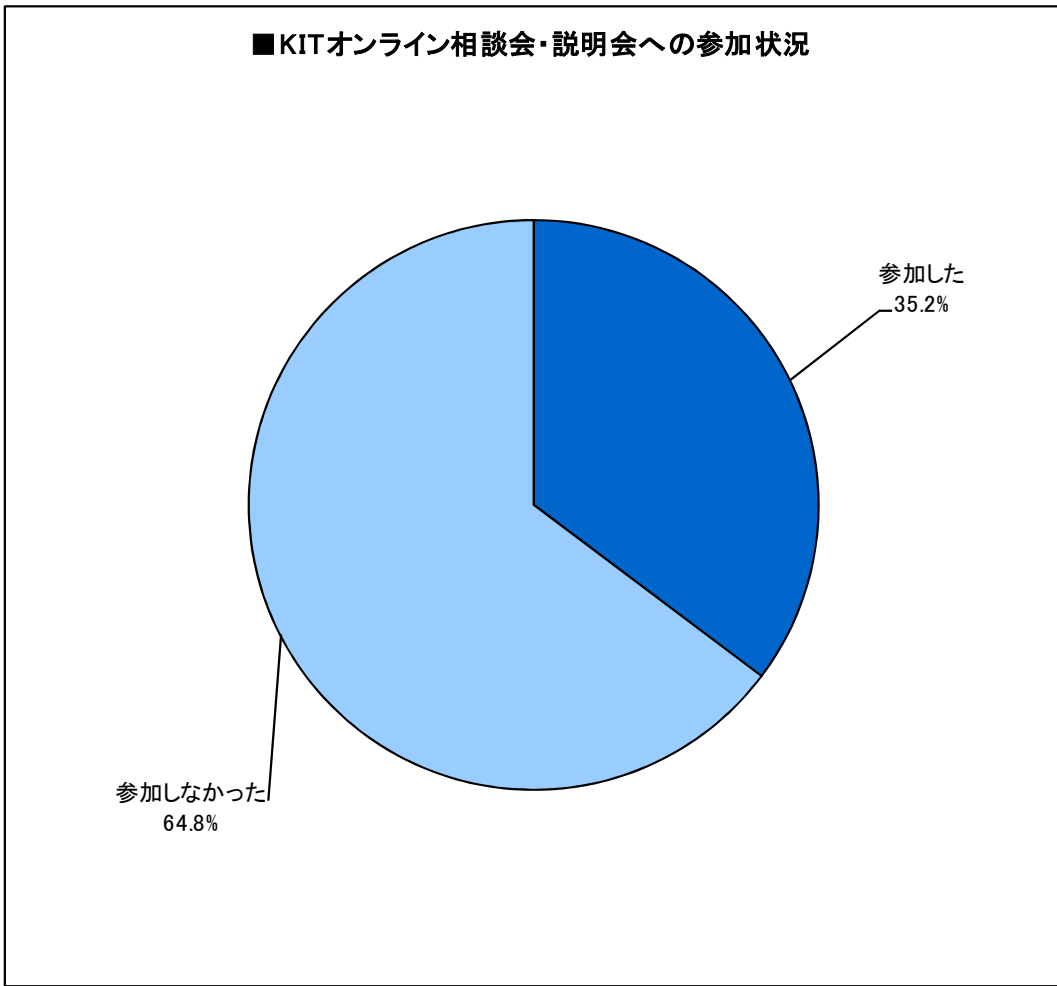
■ 受験媒体の利用の利用経験者割合 年度別比較



<8-6> KITオンライン相談会・説明会に関して

■KITオンライン相談会・説明会への参加状況

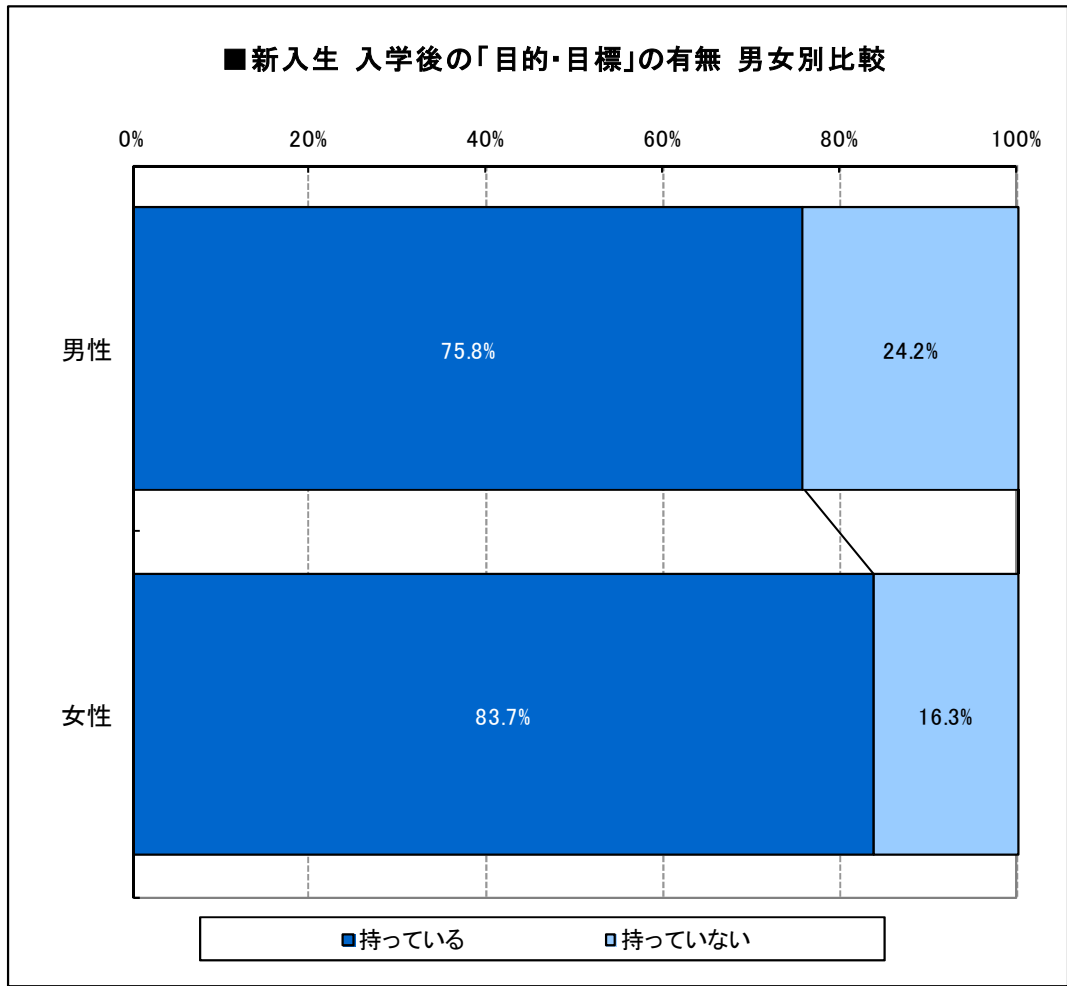
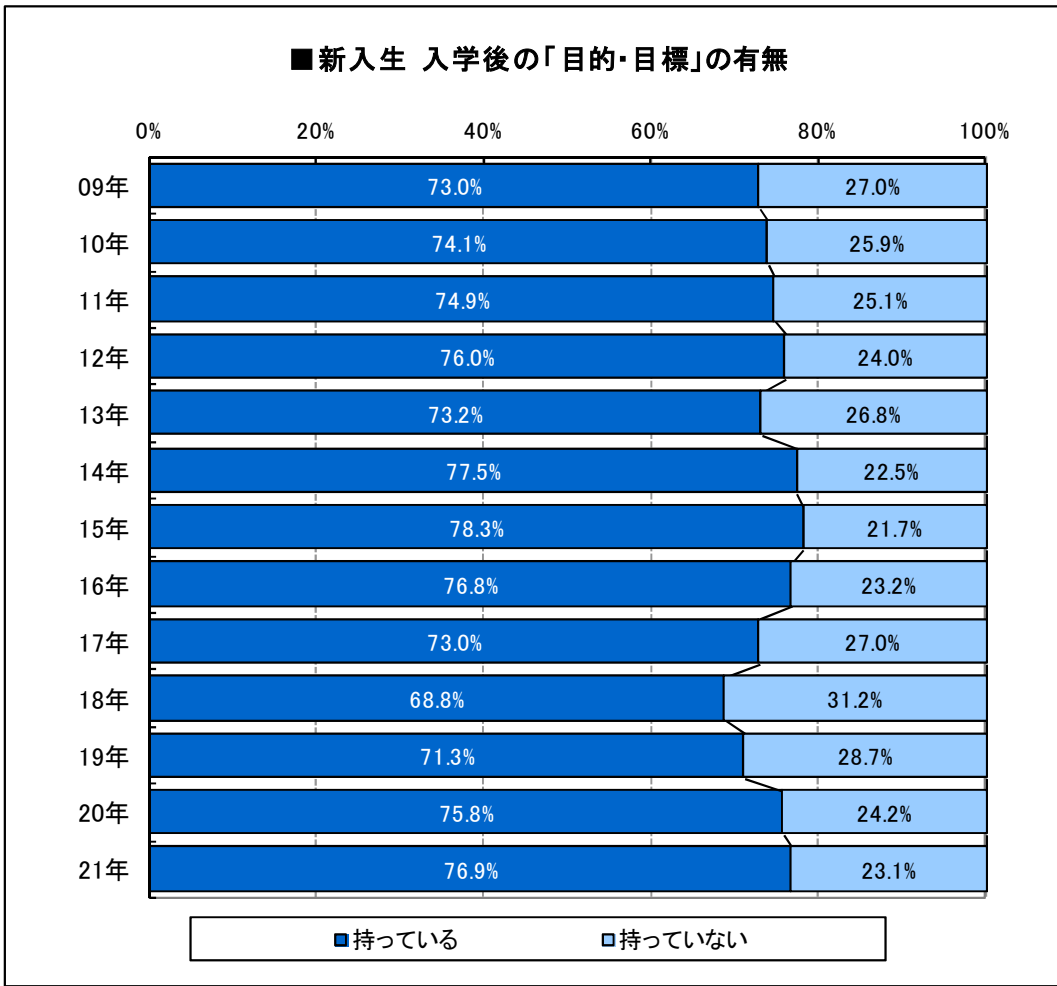
- 「KITオンライン相談会・説明会」に関する質問は今回から追加したものであるが、まず参加率を見ると、「参加」が35.2%、「参加しなかった」が64.8%となっていた。
- 参加率を男女別に比較したところ、「男性」が35.4%、「女性」が34.3%であり、差は1.1ポイントと非常に小さかった。



<8-7>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

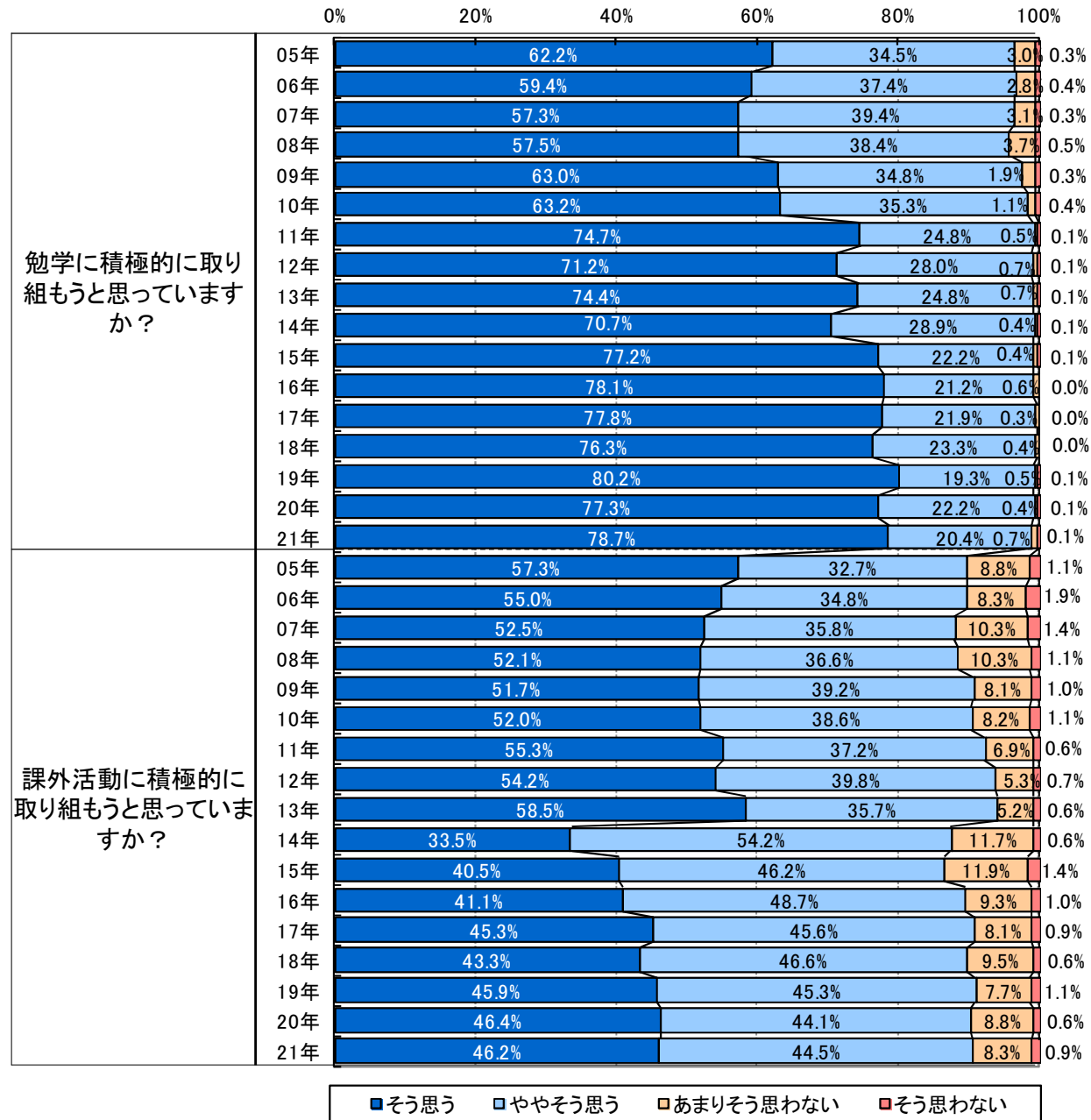
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」に対しては、「持っている」が76.9%であり、2018年から継続的に増加する傾向が続いていた。
- 「持っている」の割合を男女別に比較すると、「男性」は75.8%、「女性」は83.7%であり、「女性」の方が7.9ポイント多かった。



■KITへの期待、心構え

- KITへの期待、心構えの質問に関しては、「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」は2013年までは「勉強に～」という聞き方であった。また、「課外活動に積極的に取り組もうと思っていますか？」は2013年までは「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っていますか？」という聞き方をしており、少しニュアンスが変わっているため、結果に対する影響も考えられる。
- 「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」では「そう思う」が78.7%、「ややそう思う」が20.4%で合わせると99.1%であり、ほぼ全員が勉学に積極的に取り組みたいと答えており、以前と比較しても大きな変化は見られなかった。
- 「課外活動」に関しては、「そう思う」が46.2%、「ややそう思う」が44.5%であり、合わせると90.7%が課外活動に積極的に取り組みたいと答えていた。質問文が変わった2014年以降を見ると、肯定的な意見の合計は大きく変わらないものの、「そう思う」は継続的に増加しており、直近の3年は横ばいとなっていた。

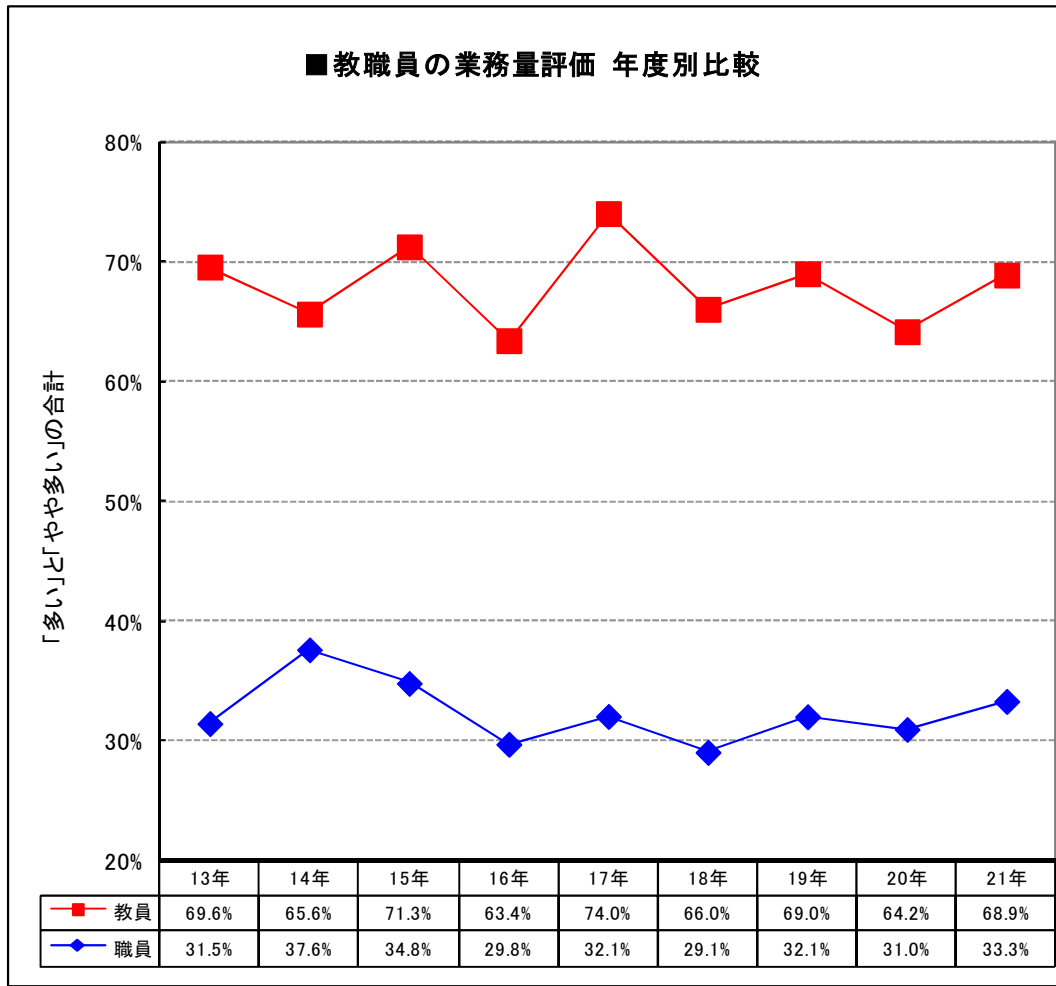
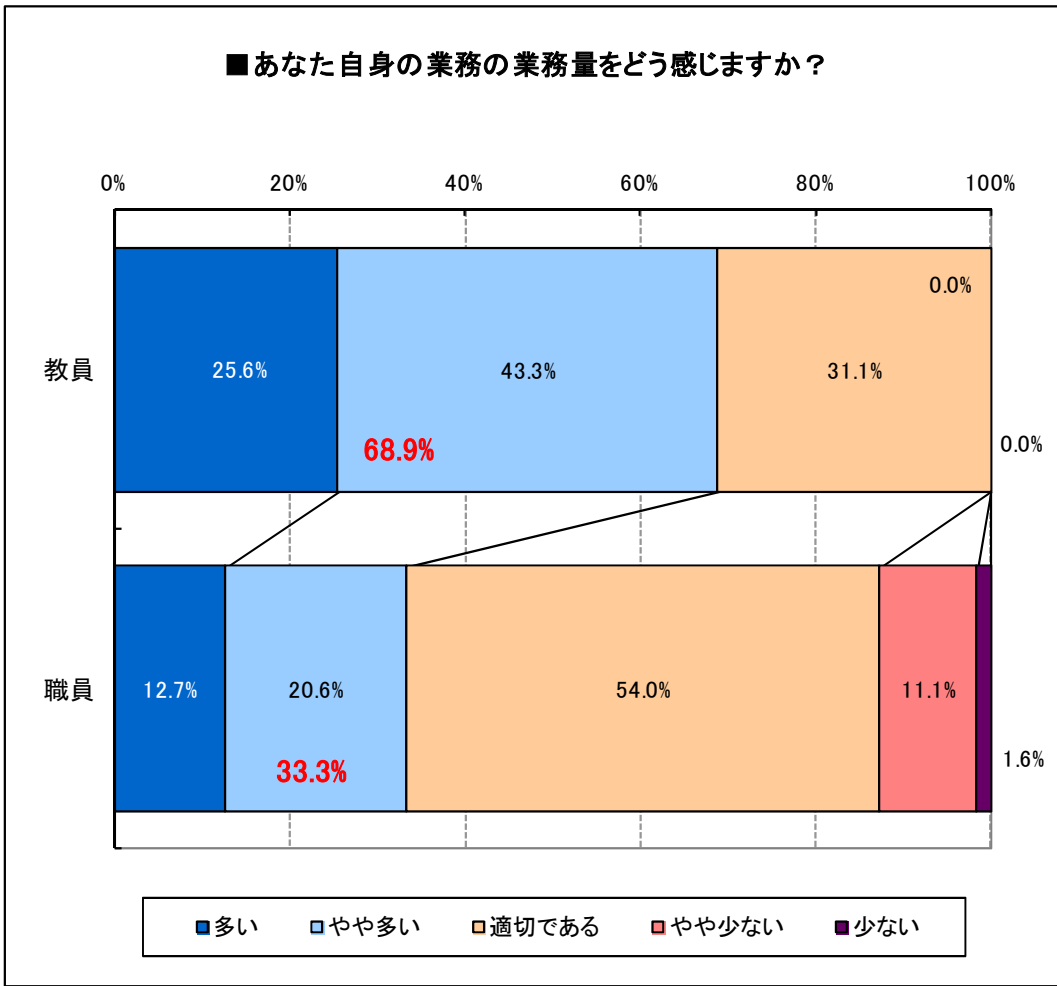
■新入生 KITへの期待、心構え



<9-1>業務の状況に関して

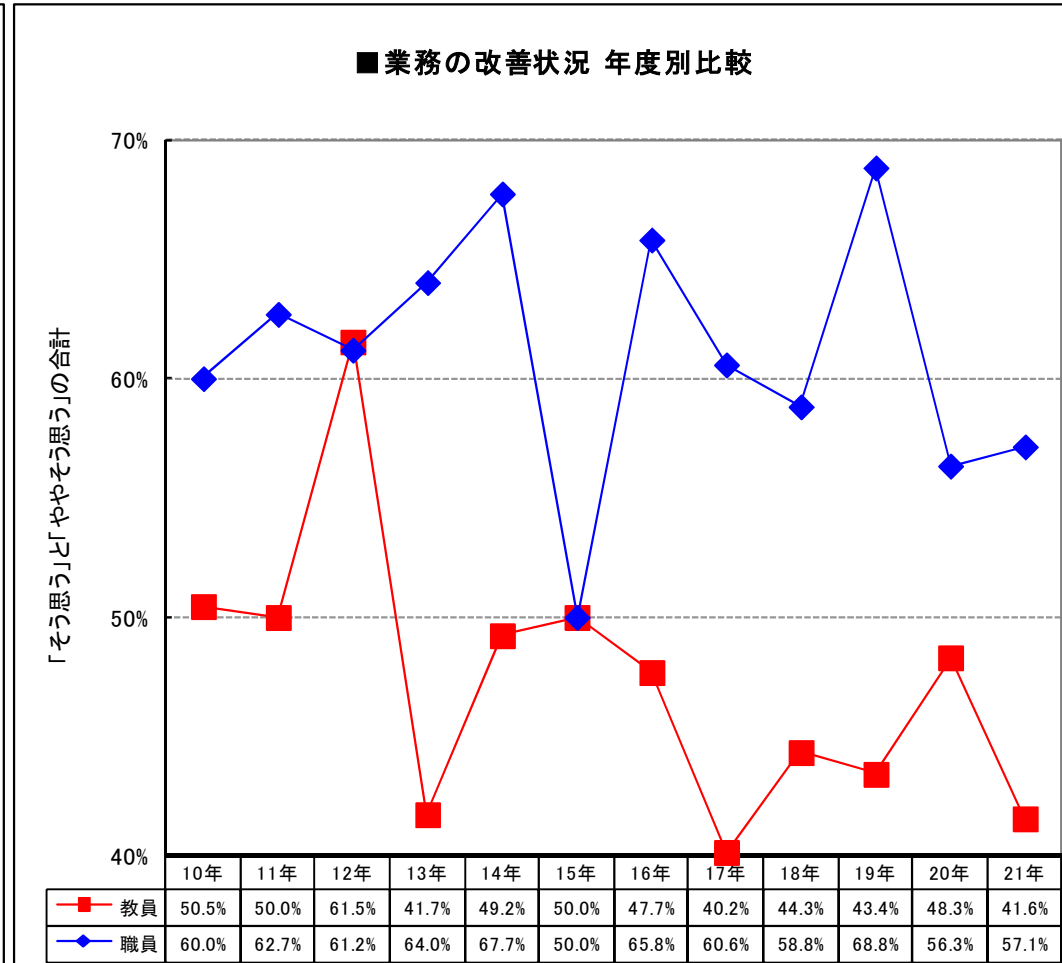
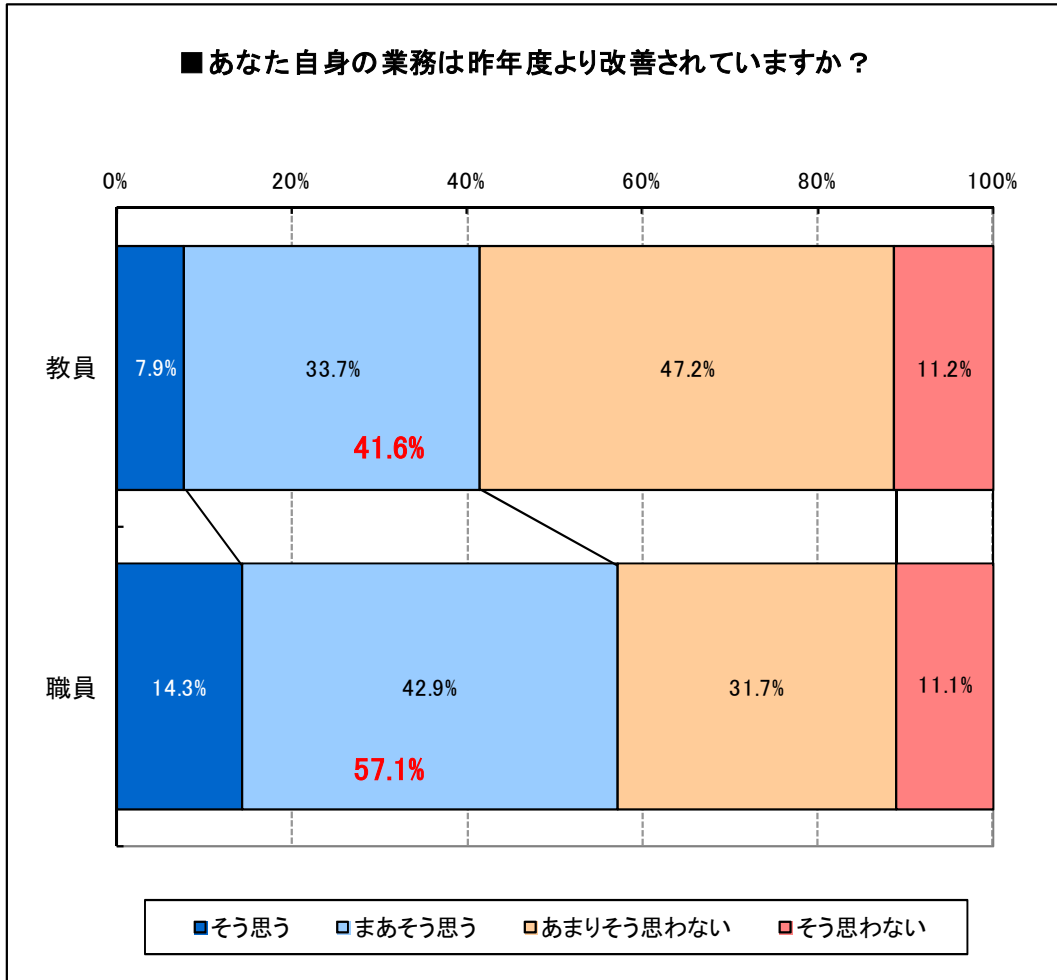
■自分自身の業務量

- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」に対する「教員」の回答を見ると、「多い」が25.6%、「やや多い」が43.3%であり、合わせると68.9%が業務量が多いと答えていた。そして、「適切である」が31.1%であり、少ないという回答はゼロであった。
- 「職員」では「多い」が12.7%、「やや多い」が20.6%であり、合わせると33.3%が業務量が多いと答えていた。そして、「適切である」が54.0%と半数を占めており、「やや少ない」が11.1%、「少ない」が1.6%であった。
- 「多い」と「やや多い」の合計を年度別に比較すると、「教員」は前回を4.7ポイント上回っており、「職員」も前回を2.3ポイント上回っていた。



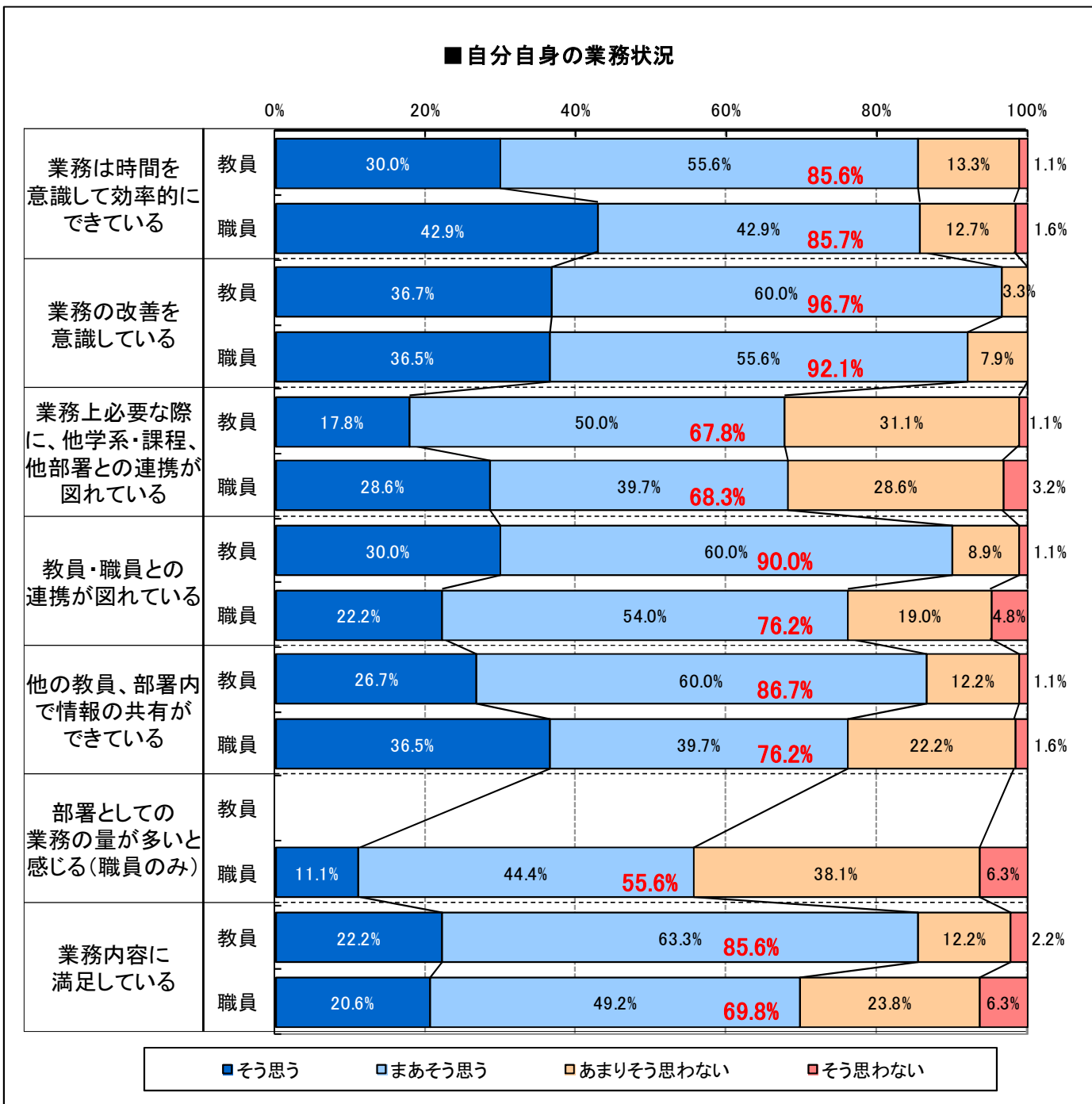
■ 自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」に対しては、「教員」では「そう思う」が7.9%、「まあそう思う」が33.7%であり、合わせると41.6%が改善が進んでいると感じていた。また、「職員」では「そう思う」が14.3%、「まあそう思う」が42.9%で合わせると57.1%となり、「教員」を15.5ポイント上回っていた。
- 肯定的な意見の合計を年度別に比較すると、「教員」は前回は6.7ポイント下回って、過去2番目の低さとなっていた。「職員」は前回は0.8ポイント上回っていたが、過去2番目だった前回に続き、過去3番目の低さとなっていた。



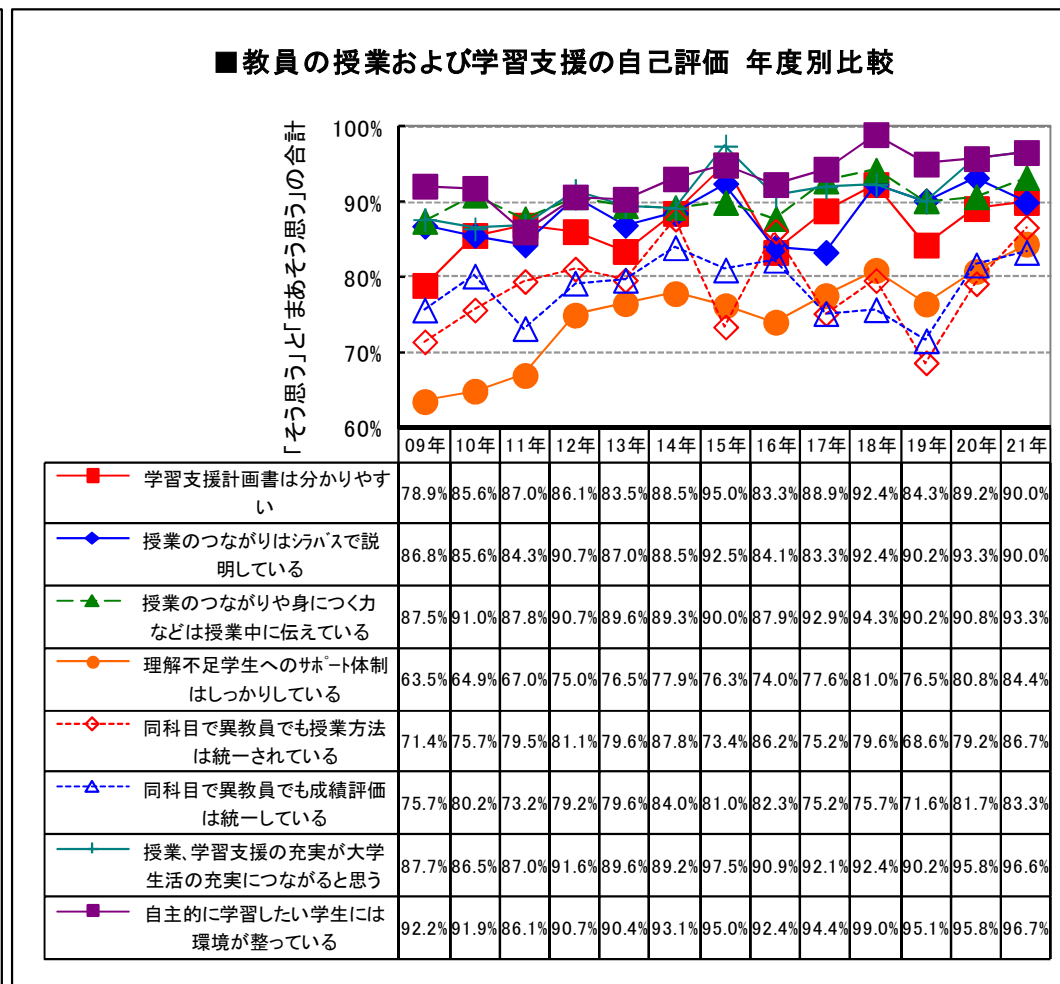
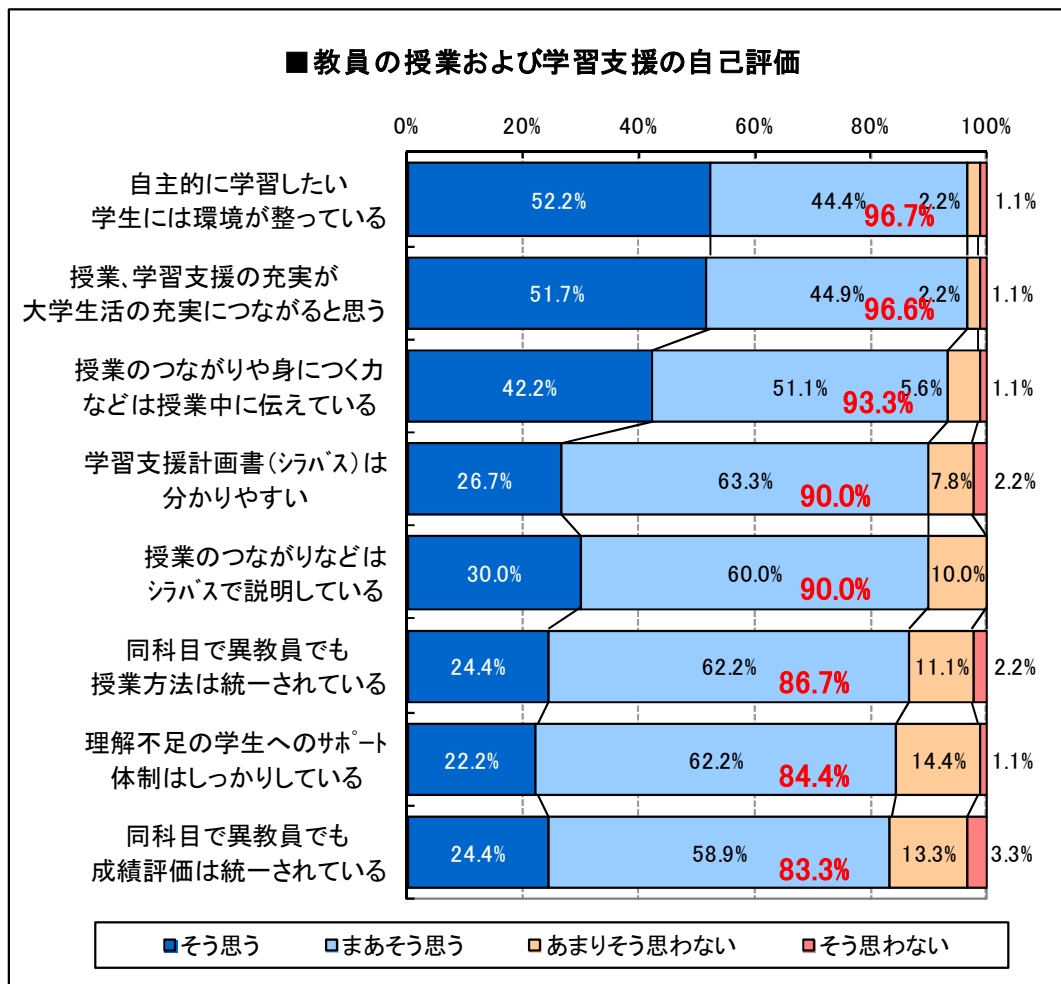
■自分自身の業務状況

- 自分自身の業務状況に関して、まず「業務内容に満足している」に対しては、「教員」では「そう思う」が22.2%、「まあそう思う」が63.3%で満足度は85.6%であった。「職員」では「そう思う」が20.6%、「まあそう思う」が49.2%で満足度は69.8%となり、「教員」より15.8ポイント低かった。
- 全体で肯定的な意見が最も多かったのは、「教員」「職員」ともに「業務の改善を意識している」であり、「教員」が96.7%、「職員」が92.1%と非常に高かった。また、「業務は時間を意識して効率的にできている」も「教員」が85.6%、「職員」が85.7%であり、教職員がともに意識しているようであった。
- 一方、教職員ともに低かったのは、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」であり、「教員」が67.8%、「職員」が68.3%であった。
- 「教員」と「職員」の差が最も大きかったのは、「教員・職員との連携が図れている」であり、「教員」は90.0%と高かったものの、「職員」は76.2%と低く、意識の差が現れていた。



■教員の授業および学習支援の自己評価

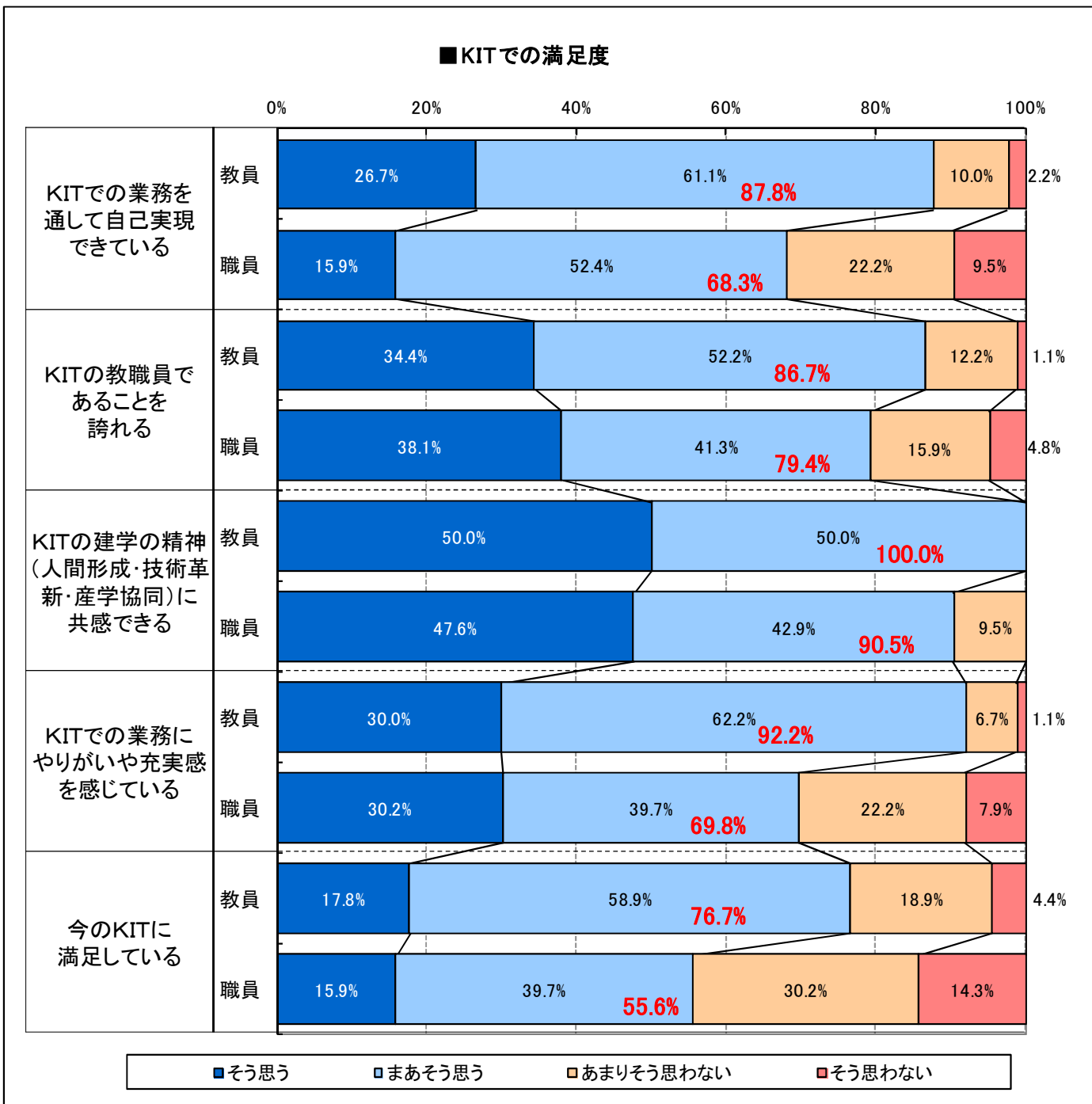
- 教員の授業および学習支援の自己評価で肯定的な意見が最も多かったのは「自主的に学習したい学生には環境が整っている」の96.7%であり、「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」が96.6%で続いていた。この2つは「そう思う」の割合もほぼ同じで、非常に高い評価となっていた。
- 一方、最も低かったのは「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」の83.3%であり、「理解不足の学生へのサポート体制はしっかりしている」が84.4%、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」が86.7%で続いていた。
- 年度別に比較したところ、「授業のつながりなどはシラバスで説明している」だけは前回より低下していたが、他はすべて前を上回っていた。特に、以前から低評価だった「理解不足の学生へのサポート体制はしっかりしている」は過去最高の評価になり、同様に低かった「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」と「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」の評価も向上して、項目による差が小さくなっていた。



<9-3>KITでの満足度

■KITでの満足度

- 総合的な満足度として、「今のKITに満足している」に対しては、「教員」では「そう思う」が17.8%、「まあそう思う」が58.9%であり、満足度は76.7%であった。「職員」では「そう思う」が15.9%、「まあそう思う」が39.7%で、満足度は約半数の55.6%であり、「教員」の方が21.1ポイント高かった。
- 「教員」「職員」ともに肯定的な意見が最も多かったのは「KITの建学の精神に共感できる」であり、「教員」では100%、「職員」では90.5%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「教員」では「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」が92.2%、「職員」では「KITの教職員であることを誇れる」が79.4%で続いていた。
- 「教員」と「職員」を比較すると、すべて「教員」の方が肯定的な意見が多かったが、差が最も小さかったのは「KITの教職員であることを誇れる」の7.3ポイントであり、最も大きかったのは「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」の22.4ポイントであった。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2021 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

■発行日	令和3年12月1日
■発行者	学校法人 金沢工業大学
■調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
■編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁